HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	『雑阿含』道品念処相応
Author(s)	細田, 典明
Citation	インド哲学仏教学論集, 2, 47-165
Issue Date	2014-10-31
DOI	https://doi.org/10.14943/hjiphb.2.47
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/62134
Type	departmental bulletin paper
File Information	02_03_hosoda.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

『雑阿含』道品念処相応

細　田　典　明

『雑阿含』の木版刷サンスクリット阿含断片

1904年、R.ピシェル[1]によってサンスクリット阿含の存在が初めて明らかになった。この木版刷サンスクリット阿含断片は、表面左端（と裏面右端)に漢字で阿含名・巻番号[2]・葉番号が、裏面左端(と表面右端)に品名・葉番号がブラフミー文字で記載されている。**図1**・**図2**の通り[3]、第173葉は表面左端には「雑阿含五巻一百七十三上」、裏面右端には"buddha-



図1 ピシェル公表梵文雑阿含 Kt.-Nr.612 Bl.173 V.©BBAW



図2 ピシェル公表梵文雑阿含 Kt.-Nr.612 Bl.173 R.©BBAW

1. Pischel[1904a, 1904b]. (=SHT I Kt.-Nr. 612-614). なお614は阿含断片ではない。注5参照。
2. 「巻」は多くの場合「巳」と表記される。この「巻」は漢訳の巻を意味せず、品番号に相当する。なお、*Saṃyuktāgama*は『雑阿含』と訳し、本稿でも「漢訳『雑阿含経』」と区別する。
3. Depositum der BBAW(=Berlin-Brandenburgische Akademie der Wissenschaften) in der Staatsbibliothek zu Berlin - Preussischer Kulturbesitz Orientabteilung. 写真の掲載を許可されたベルリンブランデブルグ人文科学アカデミーの関係者の方々に記して感謝いたします。なお、第158葉表面左端断片の写真は、山田龍城[1959]口絵に掲載されている。

bhāṣitaḥ"と「仏所説(品)」にあたる品名が記載される。漢字の阿含名表記とブラフミー文字の品名表記は、漢訳『雑阿含経』の錯乱を解決する手ががりになるものである。また、中央左寄り、全5行中2行目から4行目に見られる蓮華文様が特徴的である。

1986年、中谷英明[4]によってこの木版刷サンスクリット阿含の『中阿含』断簡１葉が公表され、説一切有部所伝サンスクリット阿含中、少なくとも四阿含が印行されていたと考えられる。1989年、筆者はこの木版刷サンスクリット『雑阿含』仏所説品外道相応の断片について知見を加え[5]、校訂テキストの連載[6]により説一切有部所属の漢訳『雑阿含経』とよく対応することを示した。「仏所説品」が第「五巻」という点は、『雑阿含経』復元案と異なり、木版刷阿含の他の部分の発見が待ち望まれた。

2012年、この木版刷『雑阿含』の新たな断片について、本来の表面と裏面が剥がされ、その裏面左端にあたる部分(断片1_1)（**図5・図6**）とこれに接続する部分(断片1_2)と「断片2～6」が、『トルファン目録』第11巻にカタログ番号4442として収められた[7]。「断片6」（**図3・図4**）には上述の2種の木版刷阿含同様、5行中2行目から4行目に渡る蓮華文様が見られる。

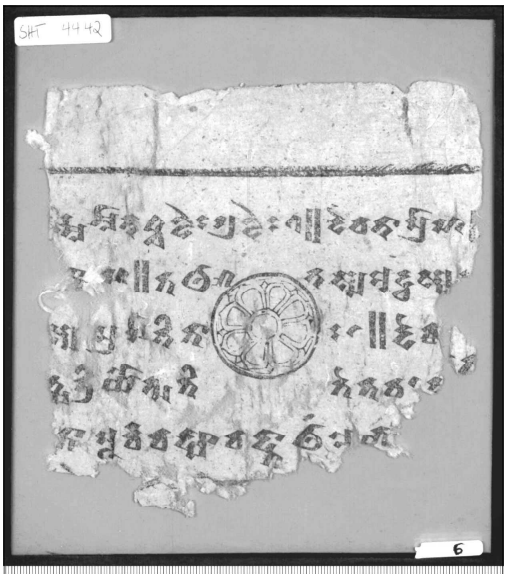


図3 Kt.-Nr.4442 断片6（表面）©BBAW


図4 Kt.-Nr.4442 断片6（裏面） ©BBAW
（剥離された後の裏面で本来の裏面ではない）

4. Nakatani[1986] pp.305–319. 両面の写真を掲載。断片は左端部分を欠くが、蓮華文様から右側部分まで残存し、主に右端部分が残る『雑阿含』断片と併せると、両端両面に阿含名･品名か品番号()･葉番号表記の書式が確認される。

5. 細田[1989a]. それまでの研究史は山田龍城[1959] pp.33-35, p.186参照。

6. 細田[1989b, 1989c, 1991].

7. Klaus Wille, SHT XI, 2012, pp.38-39. 断片1の読み方について、松田和信教授に貴重な意見をいただいた。記して感謝いたします。

『トルファン目録』では品名を記す「断片1₁」左端1行目の二文字を"///[v](a)rga"と読み[8]、葉番号が165であることから「道品」末に属する断片であり、漢訳『雑阿含経』の「道品」散逸部分と対応すると推定する[9]。

ここで、「断片1₁」左端に記される"/// [v](a)rga"と"/// .[v].."の読み方について、第１行目"[v](a)rga"は「道品」のサンスクリット"Mārgavarga"の"varga"を想定させるが、欠損部分が大きく判断できない。第2行目の"[v]"は"v"と読む可能性は低い。『トルファン目録』では漢訳『雑阿含経』との比定はなされていないが、「断片6」第1行目の偈、"/// [s]m. mātadhvajāḥ prajāḥ･"は"(a)[s]m(i)mānadhvajāḥ prajāḥ･"とも読め、「我慢衆生幢」を偈の末尾に持つ『雑阿含経』巻36第1012経と以下の通り対応する。

「断片6」(Bl. 165 Fragm. 6)	第1012経(T2.264c)[cf.別訳第239経)]
1 (a)[s]mimānadhvajāḥ prajāḥ･‖ devatā prāha [|] ///	我慢衆生幢。時彼天子即復説(c13-14)
2 + .=āha ‖ tathāga㊭ tasya buddhasya .. ///	答言。如來等正覺(c17-18)
3 [s]y. prapātitā㊭ ḥ･‖ de[vat](ā) + ///	摧滅我慢幢。時彼天子(c20-21)
4 [kṣat]r[i]yotpati㊭ te tava ･ .. + + ///	
5 tā pūrvavad=yāvad=gāthāṃ babh[ā] + + + ///	

しかし、第1012経は「道品」ではなく、「偈品」天相応に属する。「断片6」は内容上「断片1」に繋がらない。「断片6」と「断片1」は同じように剥離されているが、同じ紙面に印刷されていた確証はない。「断片6」左端2行目は1行目と大きく隔たり、品名以外のものを示す可能性がある。この4点の疑問が新たに生じた。

待望された木版刷『雑阿含』の小断片がようやく確認された。しかし、剥離されたため本来の表面が失われ、品名や品番号については、肝心な部文が半分欠損しているため謎が深まった。



図5 Kt.-Nr.4442 断片1₁ ©BBAW

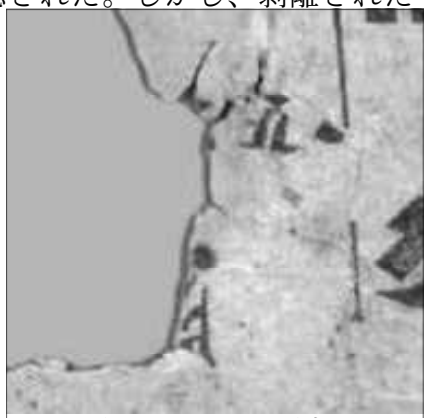


図6 Kt.-Nr.4442 断片1₁
品名にあたる文字部分を拡大©BBAW

8. SHT XI p.39, n.4.
9. SHT XI p.39, n.3.

サンスクリット『雑阿含』と関連資料

最近の関連研究として、日本で公刊された4点の図書(脚注10,12,13,14参照)とサンスクリット文献データのネット上の利用が挙げられる。平行するサンスクリット資料を、Jin-il Chung[1]は『雑阿含経相当梵文断片一覧』として集成した[2]。また、K.Willeをはじめとするサンスクリットのデータ入力とウェブサイト(http://gretil.sub.uni-goettingen.de/)へのアップロードによって、広範なサンスクリット仏典の検索が可能になった。そして『トルファン将来仏教文献サンスクリット辞典』(SWTF)が第26分冊(2014)で"h"迄至り、最終頁(pp.479-480)は"a-, an-"からの「補遺」が続いている。『雑阿含』に関連するサンスクリットの語句を検索すると、この『辞典』「補遺」に掲載すべき箇所や大乗経典や論書における用例が見出される。

その中で、『根本説一切有部毘奈耶』[3]・『瑜伽師地論』「声聞地」[4]との対応は阿含の伝承上重要である。例えば、第636経は有部律「破僧事」と「声聞地」に平行するサンスクリット文があり、さらに「般若経」にも対応する。仏教用語を多く含む般若経類に阿含の用語が知られることは少なくない。また、『瑜伽師地論』「摂事分」は『雑阿含』の各経（または経群）を教理的に説明するが、「声聞地」で述べたとして省略される場合がある。換言すれば、「摂事分」は「声聞地」を踏まえているのであり、サンスクリット文「声聞地」の参照が必要である。

そして、本庄良文[5]による『倶舎論註ウパーイカー』の訳註がまとめられて出版されたことも、阿含研究の貴重な成果である。これら近年の研究によって、漢訳のみでは困難であった阿含との参照が可能になり、和訳と注釈は、阿含の理解を深める意義深いものである。

---

1. Chung, Jin-il, *A Survey of the Sanskrit fragments Corresponding to the Chinese Samyuktāgama*, 山喜房佛書林, 2008. 対照表では該当する経について、例えば[Chung V-13]と注記し、"V" は道品を表す品番号、"13"はChung による品内の個別番号を表す。本書の概要については、細田典明(書評・紹介)「鄭鎮一著『雑阿含經相當梵文斷片一覧』(山喜房佛書林)」(『印度哲学仏教学』第23号, 2008, pp.383-384)参照。

2. 『雑阿含』に対応する梵文（直接的A]、間接的B]）とともに「『雑阿含』梵文断片」とする。『雑阿含』に相当するこれらの梵文資料を四種類(C]～F]、基本的には阿含経以外の梵文としてC]、短文をD]、仏教用語に関する相当文をSaṅgとDaśoを代表例としてE]、定型句をF])に分類する(Chung pp.26-29)。

3. 『薬事』の部分は「八尾[2013]」によって全訳された。『薬事』全体の阿含の引用についてもまとめられ(pp.xxi-xxv)、阿含引用部分の訳注にも考察が加えられている。

4. サンスクリット語テキストの校訂と和訳。声聞地研究会『瑜伽論 声聞地』Ⅰ・Ⅱ, 山喜房仏書林, 1998, 2007 (Śbh I, Śbh II)。ここに付せられる「科文番号」は「声聞地」の箇所を知る上で参考になり、対照表では脚注に注記する。なお、「第三瑜伽処」は『大正大学綜合佛教研究所年報』第30号(2008)以降に連載中。

5.『倶舎論註ウパーイカーの研究 訳註篇』 上・下, 法藏館, 2014 (Hj と略). 対照表では、整理番号と該当頁（上・下巻通し頁）記した（例えば"Hj [6027] p.728）。

油鉢の譬喩

鉢に満ちた胡麻油を運ぶ間、美女に注意力を奪われて一滴でも零したならば、背後で見張る男の刃に掛かる。四念處の集中力を譬えたこの第623経「油鉢の譬喩」は、「油断」の語源とも言われている[6]。この譬喩用例は数多く、仏典以外にも知られ[7]、以下に付言する。

『雑阿含』第623経に対応する『サンユッタ・ニカーヤ』47.20 (*Janapadakalyāṇī*) は『テーラパッタ・ジャータカ(*Telapattajātaka* [J.96])』に継承されるが、「声聞地」でも経文の大半を引用する[8]。また、谷川泰教[9]によって、『スッタニパータ』から「油鉢の譬喩」を含む『サンユッタ・ニカーヤ』と漢訳『雑阿含経』、そして『テーラパッタ・ジャータカ』に至る過程と『イシ・バーシヤーイム』の用例が検討された。『スッタニパータ』第4章、サーリプッタとの問答の中に「油鉢の譬喩」との関連性が指摘された。この卓見は、『スッタニパータ』"ekodi nipako sato"(962), "satimā suvimuttacitto ... ekodibhūto" (975)の句が、阿含の定型句"eko vyapakṛṣṭo 'pramatta ātāpī prahitātmā."の由来に関与する示唆を与えている。

インド古典においても、『マハーバーラタ』「解脱法品」のヤージュニャヴァルキヤとジャナカ王の対話[10]をはじめ、『カター・サリット・サーガラ』[11]等にも知られる。

近年『マハーバーラタ』のTVドラマ化され、インド国内で高視聴率を得た。2012年インドで放映された「ウパニシャッド・ガンガー」の中で、曲芸師の間を剣を手にした男を背にして油鉢を注意深く運ぶシュカ



Image of Shukadev carrying a full of vessel through the marketplace from Episode 50 of Upanishad Ganga, © Central Chinmaya Mission Trust (Chinmaya Creations).

6.『望月佛教大辞典』10,「油断」, p.1129a-b.

7. 用例については、林隆嗣 "The Vimuttimagga and Early Post-Canonical Literature (I)"『仏教研究』第34号, 2006, pp.114-115, n.35参照。さらに、『仏教ヨーガ書』(ed. Schlingloff, *Ein buddhistisches Yogalehrbuch*, 1964), p.49; 162V3 ≃ 165V6, 160R3, 118V4; 118V 3; 125R2や、ヴェーダ補助文献『ゴービラ・グリヒヤ・スートラ』(Gobhila-Gṛhya-Sūtra, ed. F. Knauer, 1884) 3,5,30にも見られる。また、『大智度論』巻15(T25, p.173); Lamotte, *Traité* [1944-]: II pp.942-943; I pp.243-244; III p.1694参照。

8. Cf. Alex Wayman, *Analysis of the Sravakabhumi Manuscript*, 1961, pp.122-124.

9. 谷川泰教「油鉢の喩 ―Isibhāsiyāiṃ 研究 IV―」『高野山大学創立百十周年記念高野山大学論文集』, 1996, pp.147-161参照。

10. *Mahābhārata*.12, 304, 22-23 (crit. ed.).

11. *Kathāsaritsāgara*, VI [27], 35-57 (Bombay ed., 1889; ed. H. Brackhous, 1860, p.5).

のシーンが見られる。[12]

凡例にかえて

本稿は漢訳『雑阿含経』道品念処相応について、チベット訳『倶舎論註ウパーイカー』に引用される該当経と『瑜伽師地論』「摂事分」の該当箇所を対照し、平行するサンスクリット文を収集したものである。これにより、失われたサンスクリット文を推定する判断材料を提供し、漢訳とパーリ文の対照からは困難であった諸問題を解決する糸口としたい。

原則として、見開き左頁左段に漢訳『雑阿含経』、右段に平行するサンスクリット文、右頁左段に『ウパーイカー』チベット訳、右段に「摂事分」チベット訳と漢訳を挙げ、対照の便宜を図った。しかし、『ウパーイカー』所引の経は限られるため、「摂事分」の記事を適宜右頁左段に送り込んだ。一方、『ウパーイカー』や「摂事分」が対応箇所を持たない場合は、余白頁のないよう、漢訳『雑阿含経』と平行するサンスクリット文を右頁に配した。さらに用語の比較対照を余白欄に掲載して、参照の便宜を図った。対応する用語を太字にした場合もあるが、多用を避けた結果、全体的に統一がとれず、改正の必要がある。

漢訳『雑阿含経』は、経毎に「如是我聞一時」から始め、経末に「聞佛所説歡喜奉行」等の定型句を置くが、サンスクリット文では、経の冒頭と経末の定型句は省略する傾向にあり[13]、この定型句が連続する場合は、文字のポイントを下げた。また、その他の定型句について、漢訳には様々な異読が見られるが、『大正蔵』の通り掲載し、訂正を必要とする箇所には*を入れ、漢文読み下しの[*　]内に字句等を補い、一部整合性を計ったが、内容の理解を促すものに過ぎない。段落番号に続けたローマ字(a, b...)は、比較対照の上で分割した場合に用いた。

サンスクリット文は引用した原文をそのまま掲載し、連声等の文法規則による訂正を控えた。固有名詞等が異なる場合は、その部分を想定した語に置き換えイタリックとした。また、平行するサンスクリット文がない場合、対応するパーリ文を参考として対照させた。この場合もイタリック表記にし、文字のポイントを下げた。

---

12. Upanishad Gangā, directed by Chandraprakash Dwivedi. 全52話。タイトルに「ウパニシャッド」を冠し、ドラマの最初と最後に、テーマに相応したウパニシャッドをはじめする聖句を合唱し、MCが再現ドラマを導く。ウパニシャッドの内容をドラマ化したものも含まれ、第17話・第30話はヤージュニャヴァルキヤを扱う。第50話「ウッダーラカ(Uddālaka)」は『チャーンドギヤ・ウパニシャッド』第6章のウッダーラカとシュヴェータケートゥの対話からなるが、その後に『マハーバーラタ』12.311以降に知られるジャナカ王とシュカの対話(Janaka-Śukadev)が収められる。文献ではジャナカ王とヤージュニャヴァルキヤの対話に油鉢の譬喩が含まれるが、このドラマではシュカとの対話でこの譬喩が再現される。URL: www.upanishadganga.com/;　YouTubeサイト: http://www.youtube.com/user/upanishadganga.

13. 細田[1989b, 1989c, 1991]参照。

本対照表は表記上統一のできなった箇所が何点かある。新資料の発見や研究者の指摘によって、今後も追加や訂正が必要である。その点では随時更新可能なネット上での公開が望ましいが、現段階では基礎資料として提示し、将来に備える次第である。

参考文献・略号[14]

《「『雑阿含』の木版刷サンスクリット阿含断片」【】内は略号》

R. Pischel, Bruchstüche des Sanskritkanons der Buddhisten aus Idykutšari, Chinesisch-Trukestān. *Sitzungsberichte der Königlich Preussischen Akademie der Wissenschaften zu Berlin*, 1904, Erster Halbband, 1904, pp.807-827 mit Tafeln VI－VIII.【Pischel[1904a]】

____, Neue Bruchstüche des Sanskritkanons der Buddhisten aus Idykutšari, Chinesisch-Trukestān. a.a.O., 1904, Zweiter Halbband, pp.1138-1145 mit Tafeln X－XII.【Pischel[1904b]】

山田龍城『梵語仏典の諸文献』平楽寺書店, 1959.【山田龍城[1959]】

Nakatani[1986]: Nakatani Hideaki(中谷英明), Un fragment xylographique de l'Upāli-sūtra conservé au Musée Guimet. *Bulletin d'Études Indiennes* 4, 1986. pp.305–319.

細田典明「 ―R.ピシェル公表梵文断簡について―」『印度学仏教学研究』第37巻第2号, 1989, pp. 28-34.【細田[1989a]】

____, 「梵文『雑阿含経』仏所説品外道相応(Ⅰ)」『藤田宏達博士還暦記念論集:インド哲学と仏教』平楽寺書店, 1989, pp.185-206.【細田[1989b]】

____,「同(Ⅱ)」『印度哲学仏教学』第4号, 1989, pp.140-153.【細田[1989c]】

____,「同(Ⅲ)」『印度哲学仏教学』第6号, 1991, pp.172-191.【細田[1991]】

____, 「『雑阿含経』道品の考察 ── 失われた『雑阿含経』第25巻所収「正断相応」を中心に ── 」『東方学』第105号, 2006, pp.1-15(L).【細田[2003]】

____,『雑阿含』道品と『根本説一切有部毘奈耶薬事』」『仏教学』第48号, 2006, pp.1-20(L.)【細田[2006]】

声聞地研究会『瑜伽論 声聞地』Ⅰ・Ⅱ, 山喜房仏書林, 1998, 2007. 【= Śbh I, Śbh II】「第三瑜伽処」は『大正大学綜合佛教研究所年報』第30号(2008)以降に連載。

Jin-il Chung, *A Survey of the Sanskrit fragments Corresponding to the Chinese Samyuktāgama* (『雑阿含経相當梵文断片一覧』), 山喜房佛書林, 2008.【= Chung】

SHT = *Sanskrithandschriften aus den Turfanfunden*.

SWTF = *Sanskrit-Wörterbuch der buddhistischen Texte aus den Turfan-Funden und der kanonischen Literatur der Sarvāstivāda-Schule*. Göttingen: Vandenhoeck &

14. その他の略号は、*Abkürzungsverzeichnis zur buddhistischen Literatur in Indien und Südostasien*, herausgegeben von Heinz Bechert (SWTF, Beiheft 3, Göttingen: Vandenhoeck & Ruprecht, 1990), SWTF I-IV (1994-2009), Chung (2008) pp.35-38参照。

Ruprecht. Band I: Vokale. 1994; Band II: k / dh. 2003; Band III: n / m. 2008; Band IV: y / h.; 21. Lieferung (2009) - 26. Lieferung(2014).

八尾史『根本説一切有部律薬事』, 連合出版, 2013.【八尾[2013]】

本庄良文『倶舎論註ウパーイカーの研究 訳註篇』 上･下, 法蔵館, 2014.【= Hj】

《「油鉢の譬喩」の参考文献》

W. Schubring, *Isibhāsiyāiṃ; nebst dem revidierten Text*, 1969, Alt- und Neu-indische Studien 14 (=*Nachrichten der Akademie der Wissenschaften in Göttingen*, Jahrg. 1942 Nr.9, pp.489-576).

É. Lamotte: *Le traité de la grande vertu de sagesse de Nāgārjuna (Mahāprajñāpāramitāśāstra),* Tome I (1944), Tome II (1949), Tome III (1970), Tome IV (1976), Tome V (1980).

A. Wayman, *Analysis of the Śrāvakabhūmi Manuscript*, Berkeley: University of California Press, 1961.【= Wayman[1969]】

D. Schlingloff, *Ein buddhistisches Yogalehrbuch*, 1964. その後の研究を附して、再版。*Ein buddhistisches Yogalehrbuch: Unter Beigabe aller seit bekannt gewordenen Fragmente*, Gebundene Ausgabe, 2006.【=YL】

松濤誠廉「聖仙の語録」, 『創立40周年記念論文集』九州大学文学部, 1966, pp.57-140.

谷川泰教「油鉢の喩 ―Isibhāsiyāiṃ 研究 IV―」『高野山大学創立百十周年記念 高野山大学論文集』, 1996, pp.147-161.

中村了昭『マハーバーラタの哲学』下, 平楽寺書店, 2001.

林隆嗣 "The Vimuttimagga and Early Post-Canonical Literature (I)"『仏教研究』第34号, 2006.

《対照表》

AD = *Abhidharmadīpa with Vibhāṣāprabhāvṛtti*, ed. P. S. Jaini, 2nd ed., Patna: Kashi Prasad Jayaswal Research Institute, 1977.

AdSPG = *Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā*, ed. E. Conze, *The Gilgit manuscript of the Aṣṭādaśasāhasrikāprajñāpāramitā,* (Serie Orientale Roma, 36, 46) Roma: 1962, 1974.

ASP = *Aṣṭasāhasrikā Prajñāpāramitā*, ed. P.L. Vaidya, (Buddhist Sanskrit Texts, 4), Darbhanga : The Mithila Institute, 1960.

AKBh = *Abhidharmakośabhāṣyam of Vasubandhu*, ed. P. Pradhan, 2nd ed., Patna: Kashi Prasad Jayaswal Research Institute, 1975.

AK-bh(Pā) = Bhikkhu Pāsādika, *Kanonische Zitate im Abhidharmakośabhāṣya des Vasubandhu*. Göttingen : Vandenhoeck & Ruprecht, 1989.（略号の後、[ ]内に整理番号、AKBhの頁･行を表記）

AK-up = *Abhidharmakośopāyikā nāma Ṭīkā* (Tibetan tr., P. No.5595).

AKvy = *Sphuṭārthā Abhidharmakośavyākhyā by Yaśomitra*, ed. U. Wogihara, Tokyo: 1932-1936.

ARIRIAB = Annual report of the International Research Institute for Advanced Buddhology at Soka University (創価大学国際仏教学高等研究所年報).

AVŚ = *Avadānaśataka*, ed. P.L. Vaidya, (Buddhist Sanskrit Texts 19), Darbhanga: 1958. / Ed. J.S. Speyer, (Bibliotheca Buddhica 3), St. Petersbourg: 2 vols., 1906-1909.

CBETA = Chinese Buddhist Electronic Text Association.

D. = Derge ed.

DbSū = *Daśabalasūtra*.

DbSū(2) = Chinese Samyuktāgama sūtra 348 (T 99, II 98a13-b5), Based on the ed. by E. Waldschmidt: "Ein zweites Daśabalasūtra", Mitteilungen des Instituts für Orientforschung 6 (1958), pp. 388_392, 395f. [Nachdruck: E. Waldschmidt. Von Ceylon bis Turfan, Schriften zur Geschichte, Literatur, Religion und Kunst des indischen Kulturraumes (Festgabe zum 70. Geburtstag), Göttingen 1967, pp. 353-357, 360-361].

Divy = *Divyāvadāna*, ed. P.L. Vaidya, (Buddhist Sanskrit Texts ; 20) Mithila: 1959.

Enomoto Fumio(榎本文雄), *A Comprehensive Study of the Chinese Saṃyukāgama: Indic Texts Corresponding to the Chinese Saṃyukāgama as Found in the Sarvāstivāda-Mūlasarvāstivāda Literature.* Part 1：*Saṃgītanipāta, Kyoto: 1994.

GRETIL = Göttingen Register of Electronic Texts in Indian Languages.

MBh = *Mahābhārata*, critical ed. Bhandarkar Oriental Research Institute, Pune: 1919-1966.

MSV = *Mūlasarvāstivādavinayavastu,* ed. N. Dutt. Gilgit Manuscript, vol. 3. Calcutta, Srinagar: 1942-1950.

Mv = *Mahāvastu(-Avadāna)* ed. Émile Senart, 3 vols., Paris: 1882-1897.

NidSa = Nidānasaṃyukta, ed. C.Tripāṭhī, *Fünfundzwanzig Sūtras des Nidāna-saṃyukta*. (Sanskrittexte aus den Turfanfunden, VIII), Berlin: 1962.

P. = Peking ed.

Lita Peipina, *The Piṃgalātreya sūtra of the (Mūla)sarvāstivādins, its edition and study: investigation of the Piṃgalātreya sūtra's status within the Dīrghāgama "Collection of Long (Discourses of the Buddha)"*. Oslo, 2008.

PSP = *Pañcaviṃśatisāhasrikā Prajñāpāramitā.*

SBV = *Saṅghabhedavastu*, ed. R. Gnoli. *The Gilgit Manuscript of the Saṅghabhedavastu, Being the 17th and Last Section of the Vinaya of the Mūlasarvāstivādin,* (Serie Orientale Roma, 49), Roma: 1977-78.

Sh. = *Śrāvakabhūmi of Ācārya Asaṅga*. ed. K. Shukla, Patna: K. P. Jayaswal Research Institute, 1973.

T = Taisho Daizokyo (『大正蔵』; 続けて巻,頁段(行)を表記).

VS = *Vastusaṃgrahaṇī of the Yogācārabhūmi* (Tibetan tr., P. No.5540), 『瑜伽師地論』「摂事分」(VS に続けて章節番号[2.1-4.9]を表記).

Vsm = *Visuddhimagga*. ed. PTS, 3 vols., London: 1922-31.

(T2,170c) 雑阿含經　卷第二十四
宋天竺三藏求那跋陀羅譯
第五誦道品第一［念處相應］

(605)[1]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. 有四念處。何等(T2,171a)爲四。
四念處有り。何等をか四と為す。

2. catvārī*māni bhikṣavaḥ* smṛtyupasthānāni. katamāni catvāri.

3. 謂身身觀念處。受心法法觀念處。
謂わく、身の身觀念處、受・心・法の法觀念處なり。

3. kāye kāyānupaśyanā-[2] smṛtyupasthānam. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyanāsmṛtyupasthānam iti.

4. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

4. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

1 [Chung V-13]. Cf.『大毘婆沙論』巻187 (T27, p.936c).
2 もしくは"kāyānupaśyanā smṛtyupasthānam". Cf. SWTF s.vv."kāyānupaśyanā, (kāyānu)paśyanāsmṛty(u)p(asthāna)"; "cittānupaśyanā", "cittānupaśyanā-smṛtyupa(s)th(āna)"; "dharmānupaśyanā", "dharmānupaśyanā-smṛtyupasthāna"; "smṛtyupasthāna".

AK-bh(Pā) [412] 342,5 "kāye kāyānupaśyanāsmṛtyupasthānam" iti vacanāt.

AK-up Hj [6027] p.728.
lus la lus kyi rjes su lta zhing dran pa nye bar gnas so zhes bya ba la,

1. gleng gzhi ni mnyan du yod pa na'o ‖

2. dge slong dag dran pa nye bar gzhag pa ni bzhi po 'di dag ste, bzhi gang zhe na;

3. lus la lus kyi rjes su lta zhing dran pa nye bar gzhag pa dang, tsor ba dang, sems dang, chos rnams la chos kyi rjes su lta zhing dran pa nye bar gnas so zhes gsungs so ‖ ‖

【VS 2.1 **安立** (rnam par gzhag pa **[*vyavasthāna]**)】

de la rnam par gzhag pa ni dran pa nye bar gzhag pa la sogs pa nas | 360b4
此中安立四念住為初。

【VS 2.2 **邊際** (mthar thug)】
shes bya'i gzhi thams cad dran pa nye bar gzhag pa bzhis mthar thug par rig par bya'o | 360b5
又由四念住。應知一切所知事邊際。

shes bya'i gzhi'i mthar thug pas ni shes bya'i gzhi mthar thug par rig par bya'o | 360b5
由所知事邊際故。復應了知。智事邊際。

(606)[3]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. 有四念處。何等爲四。
四念處有り。何等をか四と為す。

2. catvārī*māni bhikṣavaḥ*
smṛtyupasthānāni. katamāni catvāri.

3. 謂身身觀念處。受心法法觀念處。
謂わく、身の身觀念處、受・心・法の法觀念處なり。

3. kāye kāyānupaśyanā-
smṛtyupasthānam. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyanā-
smṛtyupasthānam iti.

4a. 如是比丘。[4]於此四念處。
是の如く、比丘は此の四念處に於いて、

4a. *iha bhikṣur caturṇām*
smṛtyupasthānānām

4b. 修習滿足[5]。
修習滿足し、

4b. (Śbh II 174)
bhāvanāparipūraye

4c. 精勤方便。正念正知。
精勤方便して、正念・正知もて

4c. (MPS14.25; 10.14)
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān

4d. 應當學[6]。
應當に學すべし。

4d. cf. (DbSū(2) 11)
ity evaṃ vo bhikṣavaḥ śikṣitavyaṃ //

5. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

5. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

---

3 Cf.『大毘婆沙論』巻187 (T27, p.936c); SN.47.24 Suddhakaṃ (V pp.173-174).

4 第612経末(612a)「一切四念處經。皆以此總句」と比較すると、「起増上欲」にあたる句を欠く。「摂事分」では「欲, 'dun pa」の語が見られ、「声聞地」正断の箇所では「生欲, chandaṃ janayati」とある。「声聞地」は正断についての文であり「正念正知」の句はないが、「摂事分」にもない。次頁参照。

(606)	於此四念處。修習滿足。		精勤方便。正念正知。
(612a)	於四念處。	修習。	起増上欲。 精勤方便。正念正智。
(610)			精勤方便。正念正知(正智正念)。

5 Cf. "tathā hy uktam iti vistaraḥ. bhāvanāparipūriḥ tāṃ gacchaty āryāṣṭāṃgo mārgaḥ. tasmin gacchati catvāri smṛtyupasthānāni bhāvanāparipūriṃ yacchaṃti. yācat sapta bodhyaṃgānīti." (AKvy 604)

6 Cf. (Śbh II 186) yathā kāye kāyānupaśyanāsmṛtyupasthānam uktam evaṃ vedanāyāṃ citte dharmeṣu yathāyogaṃ veditavyam |
如説於身住循身觀念及念住。如是於受於心於法隨其所應當知亦爾。(p.441a14-16)

(Śbh II 174)[7]
bhāvanāparipūraye
bhūyobhāvavṛddhivipulatāyai chandaṃ janayati vyāyacchate vīryam ārabhate cittaṃ pragṛhṇāti pradadhātīti [samyakprahāṇasya.]
令修圓滿。令倍修習。令其增長。令其廣大。生欲。策勵。發勤精進。策心。持心。[正斷]。439c18

――――――――――――――――――

「声聞地」とパーリ定型句

①令修圓滿, bhāvanāparipūraye
②令倍修習, bhūyobhāva-
③令其增長, vṛddhi-
④令其廣大, vipulatāyai
⑤生欲, chandaṃ janayati
⑥策勵, vyāyacchate
⑦發勤精進, vīryam ārabhate
⑧策心, cittaṃ pragṛhṇāti
⑨持心, pradadhāti
[正斷, samyakprahāṇasya]

(uppannānaṃ kusalānaṃ dhammānaṃ ṭhitiyā asammosāya)
②bhiyyobhāvāya ④vepullāya
①bhāvanāya pāripūriyā
⑤chandaṃ janeti ⑥vāyamati
⑦vīriyaṃ ārabhati
⑧cittaṃ paggaṇhāti
⑨padahati
[idaṃ vuccati, bhikkhave, vīriyindriyaṃ.]

【VS 2.3(1) **純** (ma 'dres pa)】
'dun pa dang brtson 'grus la sogs pa bsgom pa la sbyor ba ni dran pa nye bar gzhag pa bzhi 'grub par bya ba'i phyir yin par rig par bya'o | 360b6
又四念住。由欲精進等。修習加行。方得圓滿。應知。

――――――――――――――――――

「摂事分」と推定サンスクリット(*)

①修習... 圓滿, 'grub par bya ba'i phyir yin pa, *bhāvanāparipūraye 。
②③④加行方得, bsgom pa la sbyor ba, *bhūyobhāvavṛddhivipulatāyai
⑤欲, 'dun pa, *chanda
⑦精進, brtson 'grus, *vīrya
⑧⑨等, la sogs pa

Cf.③④: SHT XI 4763 (第622経)[8] V
a /// (vṛ)[d]dh[i]vip[ula]tā[y](ai)+ + /// [9]
b /// + + prati[kra]me saṃpr(a) .. + /// [10]

7 -II-12-b Ms.84b7M, Sh.288-19, W.*97-1, P.131a5, Ch.439c18.
8 Chung, p.14参照。
9 SHT XI p.183, Anm.4: "Vgl. MPS 10.10 (erg. nach Mvy 961): (sthitaye bhūyobhāvatāyā asaṃpramoṣāya paripūraṇāya vaipulyāya cchandaṃ janayati); Saṅg IV.2(4) (erg. nach AKvy 599.27f.): (sthitaye asaṃmoṣāya) bhāvanāya paripūraye (bhūyobhāvāya vṛddhivipulatājñānasākṣātkriyāyai cchandaṃ janayati); AvSū 29.9f.: sthitaye asaṃmoṣāya bhūyobhāvāya vaipulyatāyai (v.l. vṛddhivipulatāyai) paripūrayai cchandaṃ janayati."
10 SHT XI p.184, Anm.5: "vgl. MPS 10.12 (zur folgenden Ergänzung vgl. SWTF s.v. abhikramapratikrama): (abhikramapratikrame saṃprajāno bhavati); SBV II 241.3: atikramapratikrame saṃprajānavihārī."

(607)[11]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2a. 有一乘道[12]。
一乘道有り。

2a. (AKvy 529)[13]
ekāyano 'yaṃ bhikṣavo mārgaḥ.

2b. 淨諸衆生。令越憂悲滅惱苦。得如實法。
諸の衆生を浄め、憂悲を越え、惱苦を滅し、如實法を得せ令む。

2b. (*Saṃbādhāvakāśasūtra)[14]
sattvānāṃ viśuddhaye śokaparidevāṇāṃ samatikramāya duḥkhadaurmanasyānām astaṅgamāya *nyāyyasya*[15] dharmasyādhigamāya.

3a. 所謂四念處。何等爲四。
所謂、四念處なり。何等をか四と為す。

3a. *yad uta* catvāri smṛtyupasthānāni. katamāni catvāri.

3b. 身身觀念處。受心法法觀念處。
身の身觀念處、受・心・法の法觀念處なり。

3b. kāye kāyānupaśyanā-smṛtyupasthānam. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyanāsmṛtyupasthānam iti.

4. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

4. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

11 Cf.『大毘婆沙論』巻187 (T27, p.936c), 巻188, (p.944); SN.47.18, Brahmā (V pp.167-168).
12 Cf. 第535経「如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時尊者阿那律。住松林精舍。時尊者大目犍連。住跋祇聚落失收摩羅山恐怖稠林禽獸之處。時尊者阿那律。獨一靜處。禪思思惟。作是念。有一乘道。淨眾生。離憂悲惱苦。得真如法。所謂四念處。何等為四。身身觀念處。受心法法觀念處。」以降は、次の第608経に対応し、Hj [6029]引用される。
13 "ekāyano 'yaṃ bhikṣavo mārgo yad uta smṛtyupasthānāni."
14 Paul Harrison, Fragment of the *Saṃbādhāvakāśasūtra from a Newly Identified Ekottarikāgama Manuscript in the Schøyen Collection Tokyo; ARIRIAB X, 2007, pp.201-211.
15 2箇所で読みが異なる。recto 2 "*nyāyasya",* verso 3 "*nyāyyasya*". (PSP 4:100)では"āryasya".

【VS 2.3(2) **純** (ma 'dres pa】
dran pa nye bar gzhag pa bzhi ma gtogs par de dang mi 'dra ba'i lam ma | 360b6
除此四種念住。更無有餘。不同分道。

2. dmigs pa gang la brten na zag pa zad par 'gyur zhing mya ngan las 'das pa 'thob par 'gyur ba'i lam dang dmigs pa gzhan med pa'i phyir rnam par dag pa'i lam 'di zla med pa yin pas na lam 'di ni bgrod pa gcig pa zhes bya'o ‖ 360b7
或所緣境。由此道 此境。能盡諸漏。獲得涅槃。由無第二清淨道故。説**純有一能趣正道**。

bgrod pa gcig pa'i lam des kyang rgyu gnyis kyis sems can rnams rnam par dag par byed de | 360b8
又此純一能趣正道 。由二因緣。**能令有情。究竟清淨**。

so sor brtags pa'i stobs dang bsgoms pa'i stobs kyis so | 360b8
一由思擇力故。二由修習力故。[16]

mya ngan ces bya ba ni nyon mongs pa can gyi yid mi bde ba'o | 361a1
此中**愁**者。謂染汚憂。

drod mi thub zhes bya ba ni rgod par gtogs pa ste | 'dod pa na spyod pa'i nyon mongs pa can gyis yid mi bde ba'o | 361a1
所言**洟**者。謂掉俱行。欲界染喜。

mya ngan gyi gnas ni 'jig rten gyi chos bzhi'o | 361a2
愁以四種世法。為所依處。

drod mi thub pa'i gnas ni gzhan bzhi po nyid do | 361a2
洟以餘四世法。為所依處。

de la dran pa nye bar gzhag pa bzhi la brtson pa ni so sor brtags pa'i stobs la brten pas mya ngan dang drod mi thub pa las yang dag par 'da' bar 'gyur ro | 361a2
於四念住。勤修加行。依思擇力。**超度愁洟**。

'jig rten pa'i bsgom pa'i stobs kyis 'dod pa'i 'dod chags dang bral ba thob pas ni sdug bsngal dang yid mi bde ba spong bar 'gyur ro | 361a3
由依世間。修習力故。得離欲愛。**棄捨憂苦**。

'jig rten las 'das pa'i bsgom pa'i stobs kyis 'jig tshogs thams cad las yang dag par 'das pas ni 'phags pa'i lam yan lag brgyad pa dang | lam gyi 'bras bu rig pa dang chos rtogs par 'gyur ro | 361a4
依出世間。修習力故。超度一切。薩迦耶苦。亦**能證得**。八支聖道及聖道果。**真實妙法**。

de yang sems can rnams kyi so sor rtog pa'i stobs dang | bsgom pa'i stobs kyis rnam pa thams cad rnam par dag par rig par bya'o | 361a4
一切有情。當知皆由。思擇修習。二種力故。得一切種。究竟清淨。

16 Cf. Śbh I (I)-C-III-5-b-(3) Ms.7a6R, Sh.72-1, P.34b8, Ch.407c28. "sa khalv ayam indriyasaṃvaraḥ samāsato dvividhaḥ | pratisaṃkhyānabalasaṃgṛhīto bhāvanābalasaṃgṛhītaś ca."

(608)[17]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. 若比丘離四念處者。則離如實聖法。
若し比丘四念處を離るれば、則ち如實聖法を離る。

2. (離, nyams su [len par mi / mi len na / ma blangs pa])

(如實聖法, 'phags pa'i [tsul / rigs], *ārya-nyāyya)

3. 離如實聖法者。則離聖道。
如實聖法を離るれば、則ち聖道を離る。

3. (聖道, 'phags pa'i lam, *ārya-mārga)

4. 離聖道者。則離甘露法。
聖道を離るれば、則ち甘露法を離る。

4. (甘露, bdud rtsi, *amṛta)
(AK-up: thar pa, *mokṣa)

5. 離甘露法者。
不得脫生老病死憂悲惱苦。我說彼於苦不得解脫。
甘露法を離るれば、生老病死憂悲惱苦を脫することを得ず。我れは「彼れ、苦に於いて解脫を得ず」と説く。

5. ... (NidSa 12.9; 9.W) na parimucyate jātijarāvyādhimaraṇaśokaparideva-duḥkhadaurmanasyopāyāsebhyaḥ.
na parimucyate duḥkhād iti vadāmi.

17 Cf. 第535経 (p.139 a23-*29*)『大毘婆沙論』巻188 (T27, p.944a11-14); SN.47.41, Amataṃ (p.184).

【VS 2.4 **如理** (tshul bzhin)】

2. Cf. AK-up[18] Hj [6029] pp.729-731.
gang 'ga' zhig dran pa nye bar gzhag pa bzhi la *mi dga' ba*[19] de dag ni 'phags pa'i tsul la *mi dga' ba* yin la,
若於四念處**遠離**者。於賢聖法**遠離**。(T2, 139a23)

2. lus la sogs pa dmigs pa bzhi la tshul bzhin ma yin par yid la byed na ni dran pa nye bar gzhag pa bzhi nyams su len par mi 'gyur ro | 361a5
復次若於身等四種所緣。發起種種非理作意。即便**違背**四種念住。

3. gang 'phags pa'i tsul la *mi dga' ba* de dag ni 'phags pa'i lam la *mi dga' ba* yin la,
於**賢聖法**遠離者。於**聖道**遠離。(T2,139a24)

2-3. de rnams nyams su mi len na tshul bzhin yid la byed pa 'phags pa'i rigs pa'i rjes la 'byung ba'i lta ba la sogs pa'i 'phags pa'i lam skye ba yang nyams su mi len na de nyams su ma blangs pas 'phags pa'i lam yang nyams su ma blangs pa yin no | 361a6
違背此故。即便違背如理作意。謂**聖如理**。無間能生。正見支等。所有聖道。違背此故。即便違背一切**聖道**。

4. gang 'phags pa'i lam la *mi dga' ba* de dag ni thar pa la *mi dga' la*;
聖道遠離者。於甘露法遠離。(T2,139a24-25)

4-5. de nyams su ma blangs pas de'i 'bras bu mya ngan las 'das pa'i bdud rtsi yang nyams su ma blang pa yin no | 361a7
違背**道**故。便為違背道果**甘露**究竟涅槃。

5. gang thar pa la *mi dga' ba* de dag ni skye ba dang, rga ba dang, na ba dang, 'chi ba dang, mya ngan dang, smre sngags 'don pa dang, ma 'ongs pa'i sdug bsngal ba dang, yid mi bde ba dang, 'khrugs pa las ma grol zhing sdug bsngal ba'o zhes nga smra'o ‖
甘露法遠離者。則不能脱生老病死憂悲惱苦。(T2,139a25-26)

18 第535経(T2,139ab)の対応箇所をAK-upの文の下に併記する。なお、相応パーリ(SN.52.1-2. Rahogata)は、対応する文を持たない。
19 "*mi dga' ba*" 第535経では「遠離」, "*dga' ba*"は「信樂」と訳される。

6. 若比丘。不離四念處者。得不離聖如實法。
若し比丘四念處を離れずんば、聖の如實法を離れざることを得。

cf. 2.

7. 不離聖如實*者。則不離聖道。
聖の如實*[法]を離れずんば、則ち聖道を離れず。

cf. 3.

8. 不離聖道者則。不離甘露法。
聖道を離れずんば、則ち甘露法を離れず。

cf. 4.

9. 不離甘露法者。得脫生老病死憂悲惱苦。我說彼人解脫衆苦。
甘露法を離れずんば、生老病死憂悲惱苦を脫することを得。我れは「彼の人、衆苦を解脫す」と説く。

9. ... (NidSa 8.4; 12.11; 9.X)
parimucyate jātijarāvyādhimaraṇaśokaparideva-duḥkhadaurmanasyopāyāsebhyaḥ | parimucyate duḥkhād iti vadāmi |

10. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

10. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

6. gang 'ga' zhig dran pa nye bar gzhag pa bzhi la *dga' ba* de dag ni 'phags pa'i tsul la dga' la ‖
若於四念處信樂者。於**聖法**信樂。
(T2,139a26-27)

7. 'phags pa'i tsul la *dga' ba* de dag ni 'phags pa'i lam la dga' zhing,
聖法信樂者。於**聖道**信樂。(T2,139a27-28)

8. 'phags pa'i lam la *dga' ba* de dag ni thar pa la dga' la,
聖道信樂者。於**甘露法**信樂。(T2,139a28)

9. thar pa la [13b] *dga' ba* de dag ni rnam par grol bar 'gyur te, skye ba dang, rga ba dang, na ba dang, 'chi ba dang,
mya ngan dang, smre sngags 'don pa dang, ma 'ongs pa'i sdug bsngal ba dang,
yid mi bde ba dang, 'khrugs pa las rnam par grol zhing sdug bsngal med pa'o zhes nga smra'o ‖
甘露法信樂者。得脱生老病死憂、悲惱苦。
(T2,139a28-29)

(609)[20]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2a. 我今當説四念處集。四念處沒。
我れ今、當に四念處の集、四念處の沒を説くべし。

2a. *caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ vo bhikṣavo deśayiṣye samudayaṃ ca bhavaty astaṅgamaṃ ca.*

2b. 諦聽善思。
諦らかに聽き、善く思え。

2b. (NidSa 14.2) tāñ chṛṇuta sādhu ca suṣṭhu ca manasikuruta bhāṣiṣye.

3. 何等爲四念處集。四念處沒。
何等をか四念處の集、四念處の沒と為す。

3. (AK-bh(Pā) [416] 342,13) kathaṃ bhikṣavaś caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ samudayaś ca bhavaty astaṅgamaś ca.

4. 食集則身集。食滅則身(T2,171b)沒。
食集すれば、則ち身集す。食滅すれば、則ち身沒す。

4. āhārasamudayāt kāyasya samudayo bhavati, āhāranirodhāt kāyasya astaṅgama iti.

5. 如是隨身集觀住。隨身滅觀住。隨身集滅觀住。則無所依住。於諸世間。永無所取。
是の如く、身に隨い集觀に住し、身に隨い滅觀に住す。身に隨い集滅觀に住すれば、則ち所依無く住して、諸の世間に於いて、永く取する所無し。

5. (AdSPG[21] II 46 [VIII 5,2]) ... samudayānupaśyī ca kāye viharati. vyayānupapaśyī ca kāye viharati. samudayavyayānupaśyī ca kāye viharaty, aniśritaś ca viharati. [na ca [22] kañci] loke upādadāti.

Cf. (PSP 6-8:56) samudayānupaśyī ca kāyasya viharati, vyayānupaśyī ca kāyasya viharati, [23]kāyānupaśyī ca viharati, aniścitaś ca viharati, na ca kañcil loke upādatte.

20 [Chung V-14], SN.47.42, Samudayo (V p.184).
21 Edition by Edward Conze: The Gilgit manuscript of the Aṣṭādaśasāhasrikāprajñāpāramitā, chapters 70 to 82, corresponding to the 6th, 7th and 8th Abhisamayas. Roma 1974 (Serie Orientale Roma, 46)
22 jātuをkañcilにめる。cf. DN 22 *Mahāsatippaṭṭhāna-suttanta*; MN 10 *Satippaṭṭhāna-sutta*.
23 Cf. NGMCP Reel No. A 124-9 Lokottaradharmadāna (fol. 1r1–4).
(http://catalogue.ngmcp.uni-hamburg.de/wiki/A_124-9_Lokottaradharmadāna).

AK-up Hj [6031] pp.733-734.

2. dge slong dag dran pa nye bar gzhag pa rnams kyi kun 'byung ba dang nub pa dag bshad par bya ste, de legs par nyon la yid la zung shig dang bshad par bya'o ‖

3. dge slong dag ji ltar na dran pa nye bar gzhag pa bzhi rnams kun 'byung ba dang nub pa yin zhe na,

4. dge slong dag zas kun 'byung bas lus kun 'byung ba yin la, zas 'gags pas lus 'gag par 'gyur ro ‖

5. lus kun 'byung ba'i chos can du rjes su mthong zhing gnas pa dang,
lus 'jig pa'i chos can du rjes su mthong zhing gnas pa dang,
lus kun 'byung ba dang 'jig pa'i chos can du rjes [15b] su mthong zhing gnas pa dang,
mi rten cing gnas na 'jig rten cung zad kyang nye bar mi len to ‖

【VS 2.5 **緣起**(rten cing 'brel par 'byung pa)】

rnal 'byor ba ni lus la sogs pa rgyu la brtan te byung bar rig nas dus gsum gyi lus la sogs pa'i chos rnams la mi rtag par rjes su mthong bas gnas te | 361a7
又瑜伽師。了知身等。因緣生已。復於三世。身等諸法。住無常觀。

mi rtag par rjes su mthong bas gnas na yang srid par skye ba la yang srid par skye ba'i srid pas rten cing mi gnas la tshe 'di la yang phyi nang gi 'du byed thams cad la bdag gam bdag gir cung zad kyang mi 'dzin to | 361a8
由住如是。無常觀故。於諸後有。終不依止。後有愛住。又現法中。於一切行。若內若外。都不執取。我及我[24]所。

5. de la ma 'ongs pa rnams la ni kun 'byung ba'i chos can du rjes su mthong bar bya'o | 361b1
又於未來。當知安住。集法隨觀。

'das pa rnams la ni 'jig pa'i chos can du rjes su mthong ngo | 361b1
於過去世。當知安住。滅法隨觀。

da ltar byung ba rnams la ni byung ba dang de'i 'og tu 'jig pa'i chos can yin pa'i phyir kum 'byung ba dang 'jig pa'i chos can du mthong bas gnas te | 361b2
於現在世。生已無間。盡滅法故。當知安住。集滅法隨觀。

de thog ma kho nar lus la sogs pa rten cing 'brel par 'byung ba rnams yang dag par rjes su mthong bas mi rtag pa nyid la 'jug go | 361b2
由彼最初。於身等法。觀緣生性。悟入無常。

24「於」→「我」。

6. 如是觸集則受集。觸滅則受沒。
是の如く、觸集すれば、則ち受集す。觸滅すれば、則ち受沒す。

6. ... (AKvy 530,33-531,1)
sparśasamudayād vedanāyāḥ samudayo bhavati, sparśanirodhād vedanāyā astaṃgamaḥ.

7. 如是隨集法觀受住。隨滅法觀受住。隨集滅法觀受住。則無所依住。於諸世間都無所取。
是の如く、集法に隨い受を觀じ住し、滅法に隨い受を觀じ住す。集滅法に隋い受を觀じ住すれば、則ち所依無く住して、諸の世間に於いて、永く取する所無し。

7. ... See 5.[25] (AdSPG II 46 [VIII 5,2])
samudayānupaśyī ca vedanāyāṃ viharati. vyayānupaśyī ca vedanāyāṃ viharati. samudayavyayānupaśyī ca vedanāyāṃ viharaty, aniśritaś ca viharati. na ca kañcil loke upādadāti.

8. 名色集則心集。名色滅則心沒。
名色集すれば、則ち心集す。名色滅すれば、則ち心沒す。

8. (AKvy 531,1-2)
nāmarūpasamudayāc cittasya samudayo bhavati, nāmarūpanirodhāc cittasyā'staṃgamaḥ.

9. 隨集法觀心住。隨滅法觀心住。隨集滅法觀心住。則無所依住。於諸世間則無所取。
集法に隨い心を觀じ住し、滅法に隨い心を觀じ住す。集滅法に隨い心を觀じ住すれば、則ち所依無く住して、諸の世間に於いて、永く取する所無し。

9. ... See 5. (AdSPG II 46 [VIII 5,2])
samudayānupaśyī ca citte viharati. vyayānupapaśyī ca citte viharati. samudayavyayānupaśyī ca citte viharaty, aniśritaś ca viharati. na ca kañcil loke upādadāti.

10. 憶念集則法集。憶念滅則法沒。
憶念集すれば、則ち法集す。憶念滅すれば、則ち法沒す。

10. (AKvy 531,2-531,4)
manasikārasamudayād dharmāṇāṃ samudayo bhavati, manasikāranirodhād dharmāṇām astaṃgamaḥ

11. 隨集法觀法住。隨滅法觀法住。隨集滅法觀法住。則無所依住。於諸世間則無所取。
集法に隨い法を觀じ住し、滅法に隨い法を觀じ住す。集滅法に隋い法を觀じ住すれば、則ち所依無く住して、諸の世間に於いて、永く取する所無し。

11. ... See 5. (AdSPG II 46 [VIII 5,2])
samudayānupaśyī ca dharmeṣu viharati. vyayānupapaśyī ca dharmeṣu viharati. samudayavyayānupaśyī ca dharmeṣu viharaty, aniśritaś ca viharati. na ca kañcil loke upādadāti.

12. 是名四念處集。四念處沒。
是れを四念處の集、四念處の沒と名づく。

12. *evaṃ bhikṣavaś caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ samudayaś ca bhavaty astaṅgamaś ca.*

13. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

13. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

25 Cf. DN.22. *Mahāsatipaṭṭhānasutta*; MN10. *Satisatipaṭṭhānasutta.*

6. dge slong dag reg par kun 'byung bas tsor ba kun 'byung ba yin la, reg pa 'gags pas tsor ba nub par 'gyur te,

7. tsor ba kun 'byung ba'i chos can du rjes su mthong zhing gnas pa dang; tsor ba 'jig pa'i chos can du rjes su mthong zhing gnas pa dang, tsor ba kun 'byung ba dang 'jig pa'i chos can du rjes su mthong zhing gnas pa dang, mi rten cing gnas na 'jig rten cung zad kyang nye bar mi len to ||

8. dge slong dag ming dang gzugs kun 'byung bas sems kun 'byung ba yin la, ming dang gzugs 'gags pas sems nub par 'gyur ro ||

9. sems kun 'byung ba'i chos can du rjes su mthong zhing gnas pa dang, sems 'jig pa'i chos can du rjes su mthong zhing gnas pa dang, sems kun 'byung ba dang 'jig pa'i chos can du rjes su mthong zhing gnas pa dang, mi rten cing gnas na 'jig rten cung zad kyang nye bar mi len to ||

10. dge slong dag yid pa byed pa kun 'byung bas chos kun 'byung ba yin zhing, yid la byed pa 'gags pas chos nub par 'gyur ro ||

11. chos kun 'byung ba'i chos can du rjes su mthong zhing gnas pa dang, chos 'jig pa'i chos can du rjes su mthong zhing gnas pa dang, chos kun 'byung ba dang 'jig pa'i chos can du rjes su mthong zhing gnas pa dang, mi rten cing gnas na 'jig rten cung zad kyang nye bar mi len to ||

12. dge slong dag 'di ltar na dran pa nye bar gzhag pa rnams kun 'byung ba dang nub pa rnams te,
dge slong dag dran pa nye bar gzhag pa bzhi rnams kyi kun 'byung ba dang, nub pa bshad par bya'o zhes ngas ji skad du bstan pa de rgyas par rab tu bshad do zhes gsungs so || ||

mi rtag pa nyid la zhugs nas sred pa dang lta ba'i kun nas nyon mongs pa las sems rnam par sbyang ste | de shes cher gnas pa 'di ni tshul bzhing yid la byed pa yongs su rdzogs pa yin te | 361b3
悟入如是。無常性已。於諸愛見。雜染等處。多修習住。淨治其心。如是作意。方得圓滿。

de la brten nas zag pa zad pa thob par 'gyur ro | 361b4
由此為依。能隨獲得。究竟漏盡。

chos rnams ni mdor bsdu na dge ba dang | 361b4
又一切法。以要言之。謂善不善。

kun nas nyon mongs pa dang rnam par byang ba'i phyogs dang mthun pa rnams so | 361b4
若雜染品。若清淨品。

10. de la kun nas nyon mongs pa'i phyogs dang mthun pa gang yin pa de dag ni tshul bzhin ma yin pa yid la byed pa las 'byung ngo | 361b5
當知此中。諸雜染品。皆用非理。作意為集。

rnam bar byang ba'i phyogs dang mthun pa rnams ni tshul bzhin yid la byed pa las 'byung ste | 361b5
諸清淨品。皆用如理。作意為集。

de dag gcig tu bsdus pa la ni yid la byed pa las 'byung ba zhes bya'o | 361b6
如是一切。總略説名。作意為集。

(610)[26]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2. 我當説**修**四念處。諦聽善思。
我れ當に四念處を修することを説くべし。諦らかに聽き、善く思え。

3. 云何**修**四念處。
謂内身身觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間憂悲。
云何が四念處を修する。謂わく、内身の身觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の憂悲を調伏す。

4. 外身内外身*觀*住。精勤方便。正念正知。調伏世間憂悲。如是受心法。
外身・内外身の*[身]觀*[念]に住し、精勤し方便して、正念・正知もて世間の憂悲を調伏す。受・心・法も是くの如し。

5. 内法外法内外法*觀念住。精勤方便。正念正知。調伏世間憂悲。
内法・外法・内外法の*[法]觀念に住し、精勤し方便して、正念・正知もて世間の憂悲を調伏す。

6. 是名比丘**修**四念處。
是れを比丘の四念處を修することと名づく。

7. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

(610a)

1. 過去未來。修四念處。亦如是説
過去・未來に四念處を修することも亦た、是の如く説く。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. (MPS 2.20 etc)
caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ vo bhikṣavo ***bhāvanāṃ*** deśayiṣyāmi.
tāñ *ch*ṛṇuta sādhu ca suṣṭhu ca manasikuruta bhāṣiṣye |

3. *katamā ca bhikṣavaś caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ* ***bhāvanā****.*
(MPS14.25; 10.14)[27]
iha bhikṣur adhyātmaṃ kāye kāyānupaśyī viharaty
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam.

4. (MPS10.14) bahirdhā kā)ye 'dhyātmabahirdhā kāye *'dhyātmaṃ vedanāsu bahirdhā vedanāsv (adhyātmabahirdhā vedanāsv adhyātmaṃ citte bahirdhā citte 'dhyātmabahirdhā citte*,

5. (MPS10.14) adhyātmaṃ dharme)ṣu bahirdhā dharmeṣv adhyātmabahirdhā dharmeṣu dharmānupaśyī vi(haraty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam)

6. *iti bhikṣavaś caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ* ***bhāvanā****.*
Cf. Ayaṃ kho bhikkhave, catunnaṃ satipaṭṭhānānaṃ bhāvanāti.

7. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

26 [Chung V-15], SN..47.2, Sato (V p.142). Cf. 『大毘婆沙論』巻187 (T27, p.936c19-22).
27 Cf. AK-bh(Pā) [412] 342,7.

AK-up Hj [6028] pp.728-729.
1. gleng gzhi ni mnyan du yod pa na'o ‖

2. dge slong dag dran pa nye bar gzhag pa bzhi bsgom pa dag bstan par bya ste,
de legs par nyon la yid la zung shig dang bshad par bya'o ‖

3. dge slong dag dran pa nye bar gzhag pa bzhi bsgom pa gang zhe na, 'di la dge slong dag nang gi lus la lus kyi rjes su lta zhing brtun pa shes bzhin dang dran pa can 'jig rten gyi brnab sems dang yid mi bde ba bsal cing gnas so ‖

4. phyi'i lus dang phyi dang nang gi lus dang,
nang gi tsor ba dang, phyi'i tsor ba dang, phyi nang gi tsor ba dang,
nang gi sems dang, phyi'i sems dang,
nang dang phyi'i sems dang,

5. nang gi chos rnams dang, phyi'i chos rnams dang, nang dang phyi'i chos rnams la chos kyi rjes su lta zhing brtun pa shes bzhin can dran pa dang ldan pa 'jig rten gyi brnab sems dang yid mi bde ba bsal te gnas so ‖

6. dge slong dag 'di ltar dran pa nye bar [13a] ‖ gzhag pa bzhi bsgom pa goms par bya'o[28] ‖

dge slong dag dran pa nye bar gzhag pa bzhi bsgom pa gams par bya'o zhes bstan par bya'o[29] zhes ngas ji skad du bstan pa de rgyas par rab tu bshad do zhes gsungs so ‖ ‖

【VS 2.6 **修** (bsgom)】
dran pa nye bar gzhag pa bsgom pa'i mdo dang rgyas pa ni 'di lta ste nyan thos kyi sa las 'byung ba bzhin du rig par bya'o | 361b6
復次。**修**諸念住。若略若廣。‖ 0859c06(00)如聲聞地。應知其相。

2. dran pa nye bar gzhag pa bsgom pa'i dang po ni da ltar bcom ldan 'das byung nas bstan cing de'i nyan thos rnams kyang sgom par byed pa'di kho na ma yin te | 361b7
又此念住。**修習**道理。非今世尊。出現於世。方始宣説。今聖弟子。適初**修習**。

【VS 2.7 **時** (dus)】
1. dran pa nye bar gzhag pa bsgom pa ni 'das pa'i dus na yang thog ma med pa'i dus nas byung la ma 'ongs pa'i dus na yang mthar thug pa med par rig par bya'o | 361b7
然於**過去**。無始時來。於諸念住。修習流轉。**於未來世**。當知修習。亦無窮盡。

28 Hj. p.729, n.2, "「以上が四念住の修習である」とあるべきところ、乱れがあるやうである。"
29 Hj. p.729, n.3, "原文「修習を修すべきであると説かう」。"

(611)[30]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. 有善法聚不善法聚。云何善法聚。所謂四念處。是爲正説。所以者何。
善法聚・不善法聚有り。云何が善法聚なる。所謂四念處なり。是れを正説と為す。所以は何。

(Cf. AKvy 497)
2. ... kuśalā rāśir iti bhikṣavo yad uta catvāri smṛtyupasthānānīti te samyag vadamānā vadyuḥ. tat kasya hetoḥ.

3a. 純一滿淨聚者。所謂四念處。
純一滿淨の聚とは、所謂四念處なればなり。

3a. (AKvy 529) kevalo 'yaṃ kuśalarāśiḥ yad uta catvāri smṛtyupasthānāni.

3b. 云何爲四。謂身身觀念處。受心法法觀念處。(T2,171c)
云何が四と為す。謂はく、身の身觀念處、受・心・法の法觀念處なり。

3b. katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyanāsmṛtyupasthānam.
vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyanāsmṛtyupasthānam iti.

4. 云何不善聚。不善聚者。所謂五蓋。是爲正説。所以者何。
云何が不善聚なる。不善聚とは、所謂五蓋なり。是れを正説と為す。所以は何。

4. (AKvy 497) ... akuśalā rāśir iti bhikṣavo yad uta pañca nivaraṇānīty te samyag vadamānā vadeyuḥ. tat kasya hetoḥ.

5a. 純一逸滿不善聚者。所謂五蓋。
純一逸滿の不善聚とは、所謂五蓋なればなり。

5a. (AKvy 497) kevalo 'yaṃ bhikṣavaḥ paripūrṇākuśalarāśir yad uta pañca nivaraṇāni.

5b. 何等爲五。謂貪欲蓋瞋恚蓋睡眠蓋掉悔蓋疑蓋。
何等をか五と為す。謂わく、貪欲蓋・瞋恚蓋・睡眠蓋・掉悔蓋・疑蓋なり。

5b. (Śbh I 152)[31] te punaḥ katame.
kāmacchandaḥ, vyāpādaḥ, styānamiddham, auddhatyakaukṛtyam, vicikitsā.

6. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

30 [Chung V-16], SN.47.5, Kusalarāsi (V pp.145-146).
31 (I)-C-III-7-a-(2)-i-(a)~(d) Ms.50b7M, Sh.99-9, W.*71-37, P.46a8, Ch.411c22.

【VS 2.8 **障** (bar du gcod)】

2.dran pa nye bar gzhag pa bzhi ni 'das pa dang ma 'ongs pa dang | da ltar byung ba'i 'dus rnams su 'jig rten dang 'jig rten las 'das pa'i chos tshad med pa rnams skye ba'i gnas yin pa'i phyir dge ba'i tshogs zhes bya'o | 361b8
又是過去。未來現在。世出世間。無量善法。生起依處故。説如是。四種念住。名為**善聚**。

4. sgrib pa lnga ni dge ba'i tshogs de'i bar chad byed pas na mi dge ba'i tshogs bya'o | 362a1
又能障礙。如是善聚故。説**五蓋**。名**不善聚**。

(612)[32]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. 如人**執持四種強弓**。大力方便射多羅樹影。疾過無閡。如是如來四種聲聞。增上方便。利根智慧盡百年壽。
人が四種の強弓を執持して、大力もて方便し、多羅樹の影を射るに、疾く過ぎて閡ぐること無きが如く、是の如く、如來の四種の聲聞は、増上方便もて、利根の智慧もて、百年の壽を盡くし、

2. SHT II 504 (R1)
tadyathā [bh]ikṣo iha [s]yuś= **catvāro dhanurgrahā dṛḍhadhanuṣa kṛtadhanu[ṣa]ḥ kṛ[t](ā)** (R2) + + + + + + + + + + + + +..nā te ekānte sthitvā caturdiśaṃ samam=iṣūn=muñ[c]eyu atha puruṣa āgacchet=sa(R3) + + + + + + + + + + + (dhanurgrahā)ṇāṃ dṛ[ḍha]dhanuṣāṃ kṛta[dha]nuṣāṃ kṛtāstrāṇāṃ kṛtayogyāṇā(ṃ) kṛtāmārdavānāṃ kṛ(R4) + + + + + + + + + + + + + (caturdi)śaṃ [sa]ma[sa]mam=iṣūn=muktān=apatitān= eva pṛthivyām=ānayiṣye kiṃ manyase (R5) + + + + + + + + + + + + + + + + [ya]thā kha[lu bh](i)[kṣo]s=tasya **pūruṣasya ja[va] ataḥ śīghrataraṃ** bhaumā yak[ṣ]ā [ga]c(ch)aṃti ya

---

2. Cf. (SN.20.6, Dhanuggaho)
seyyathāpi, bhikkhave, ***cattāro daḷhadhammā dhanuggahā susikkhitā katahatthā katūpāsanā catuddisā ṭhitā assu****.*
atha puriso āgaccheyya, ***ahaṃ imesaṃ catunnaṃ daḷhadhammānaṃ dhanuggahānaṃ susikkhitānaṃ katahatthānaṃ katūpāsanānaṃ catuddisā*** *kaṇḍe khitte appatiṭṭhite pathaviyaṃ gahetvā āharissāmī'ti. taṃ kiṃ maññatha, bhikkhave, javano puriso* ***paramena javena samannāgato*** *ti alaṃ vacanāyā ti. ... yathā ca, bhikkhave, tassa purisassa javo, yathā ca candimasūriyānaṃ javo,* ***tato sīghataro****. yathā ca, bhikkhave, tassa purisassa javo yathā ... purato dhāvanti tāsaṃ devatānaṃ javo, tato sīghataraṃ* ***āyusaṅkhārā khiyanti****.*

Cf. (MN 12. Mahāsīhanādasutta)
idha me assu sāriputta cattāro sāvakā vassasatāyukā vassasatajīvino paramāya gatiyā satiyā ca dhitiyā ca samannāgatā paramena ca paññāveyyattiyena.
seyyathāpi sāriputta ***daḷhadhammo dhanuggāho sikkhito katahattho katupāsano lahukena asanena appakasireneva tiriyaṃ tālacchāyaṃ atipāteyya****,*
evaṃ adhimattasatimanto evaṃ adhimattagatimanto evaṃ adhimattadhitimanto evaṃ paramena paññāveyyattiyena samannāgatā.

32 [Chung V-17], Cf. SN.20.6, Dhanuggaho.『大毘婆沙論』卷136 (T27, p.701b19-c8),『毘婆沙論』卷6 (T28,p.44b17-26).

3. 於如來所。百年説法教授。唯除食息 補寫睡眠中間。常説常聽智慧明利。
如來の所に於いて、百年、説法し教授して、唯だ食息・補寫・睡眠の中間を除くのみにして、常に説き常に聽き、智慧明利にして、

3. Cf. (MN 12. Mahāsīhanādasutta)
te maṃ catunnaṃ satipaṭṭhānānaṃ upādāyupādāya pañhaṃ puccheyyuṃ, puṭṭho puṭṭho cāhaṃ tesaṃ vyākareyyaṃ. vyākatañca me vyātato dhāreyyuṃ. na ca maṃ dutiyakaṃ uttariṃ paṭipuccheyyuṃ aññatra asitapītakhāyitasāyitā, aññatra uccārapassāvakammā, aññatra niddākiḷamathapaṭivinodanā,

4. 於如來所説。盡底受持。無諸障閡。於如來所。不加再問。如來説法無有終極。聽法盡壽百歳命終。如來説法猶不能盡。
如來の所説に於いて底を盡くして受持し、諸の障閡無く、如來の所に於いて再問を加えず。如來の説法は終極有る無し。法を聽き壽百歳を盡くし命終すとも、如來の説法は猶お盡くる能わざるがごとし。

4. Cf. (MN 12. Mahāsīhanādasutta)
apariyādiṇṇā yevassa sāriputta tathāgatassa dhammadesanā. apariyādiṇṇaṃ yevassa tathāgatassa dhammapadabyañjanaṃ. apariyādiṇṇaṃ yevassa tathāgatassa pañhapaṭibhānaṃ.
atha me te cattāro sāvakā vassasatāyukā vassasatajīvino vassasatassa accayena kālaṃ kareyyuṃ.

5. 當知如來所説無量無邊。名句味身亦復無量。無有終極。
當に知るべし、如來の所説は無量・無邊なることを。名・句・味・身も亦復た無量にして、終極有る無し。

5. Cf. AN 4. 188. (Upakasuttaṃ)
idaṃ kusalanti kho upaka mayā paññattaṃ. Tattha aparimāṇā padā, aparimāṇā byañjanā, aparimāṇā tathāgatassa dhammadesanā iti p'idaṃ kusalanti.

6. 所謂四念處。何等爲四。謂身念處。受心法念處。
所謂四念處なり。何等をか四と為す。謂わく、身念處、受・心・法念處なりと。

6. *yad uta* catvāri smṛtyupasthānāni.
katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyanāsmṛtyupasthānam.
vedanāyāṃ citte dharmeṣu
dharmānupaśyanāsmṛtyupasthānam iti.

7. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

7. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

【VS 2.9 **自性** (rang bzhin)】

3. lus la sogs pa'i chos bzhi po rnams kyi bye brag gis mtha' yas pa dang | yul de la de bzhin gshegs pa'i ye shes thogs pa med pas na | 362a2
又由身等。四所知法。無邊別故。**如來智慧。於彼無礙。亦無有邊**。智無邊故。

4. de bzhin gshegs pa rnams kyis chos bstan pa ni tshad med pa'o | 362a2
如來所説。無上法教。亦無有邊。

de yang tshig dang don rnams pa gnyis kyis rab tu phye'o | 3622
如是法教。二緣所顯。一由**文** 故。二由**義**故。

5. de la don gyi bye brag ni don de nyid yang dag par bstan par bya ba la chos kyi tshig dang yi ge tshad med pa'o | 362a3
義差別門。**無有數量**。法教文句。開顯義門。亦無數量。

tshig dang yi ge de yang zlos pa med pa'i phyir gong nas gong du spobs pa tshad med de | 362a3
於此**文句**。不重宣説。無邊展轉。辯才**無盡**。

de bas na de bzhin gzhegs pa'i chos bstan pa ni ngo mtshar rmad du byung ba'i chos dang ldan pa yin te | 362a4
是故如來。成就希奇。未曾有法。

don gcig la yang tshig dang yi ge zlos pa med pa tshad med pa dag gis yang dag par bstan pa'i phyir ro | 362a4
善能宣説所有法教。於一義中能以無量巧妙**文句**。方便開示而不重説。

(612a)[33]
一切四念處經。皆以此**總句**。
所謂。是故比丘。於四念處。
修習起增上欲。精勤方便。正念正智。
應當學。
一切の四念處經は、皆な此の總句を以てす。所謂、是れ故に、比丘は四念處に於いて、修習して、増上欲を起こし、精勤し方便して、正念・正智もて應當に學すべし。

――――――――――――――――――

(AKvy 529)
sarvadharmā iti bhikṣavaś caturṇāṃ smṛtyupasthānānām etad adhivacanam iti.
bhāvanā; chandaṃ janayati; ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān

Cf. (DbSū(2) 11)
ity evaṃ vo bhikṣavaḥ śikṣitavyaṃ //

――――――――――――――――――

【VS 2.10 **説** (bstan)】
bstan pa'i brda'i don rtogs pa shes pas na rtogs pa dang ldan pa yin no | 362a5
又於**聖教**。宗義趣智。善成就故。名為有趣。

rang bzhin dang thos pa dang bsams pa'i shes rab kyi sgo nas ni blo dang ldan pa'o | 362a5
俱生聞思所成。妙慧善成就故。名為有意。

mnyam par bzhag pa'i phyir na, dran pa dang ldan pa'o | 362a5
成就定故。名為有念。

bden pa khong du chud pas na, shes rab dang ldan pa ste | 362a5
通達諦故。名為有慧。

dang pos ni bstan to | gsum gyis ni bshad pa yin par rig par bya'o | 362a6
當知此中。初一**總標**。後三別釋。

33 第606経参照。Cf.『大毘婆沙論』巻187 (T27, p.936c).

【VS 2.11 **斷** (spong ba'i phyir】
gang gi phyir dge slong sngon thos pa dang bsams pa las byung ba'i tshul bzhin yid la byed pas lus la sogs pa la lus la sogs pa tsam du lta ba dran pa nye bar gzhag ste | 362a6
復次有諸苾芻。於身等法。先由聞思如理作意。安住唯有。身等法觀。

chos rnams thams cad bdag med par shes nas thos pa dang bsams pa tsam gyis kyang chog par mi 'dzin te | 362a7
知**一切法**。無我性已。不唯於此聞思作意。而生喜足。

sems mnyam par gzhag pa ni rnam par grol bar 'gyur ro snyam nas ting nge 'dzin du bya ba'i phyir rab tu dben par gnas shing lus la sogs pa tsam du dmigs pa kho nas de sems gnas pa rnam pa dgus
nang rnam par zhi ba 'ba' zhig tu 'gyur ro | 362a7
唯上希求。定心解脱。為求定故。住遠離處。唯緣身等。以**九行相**[34]。安住其心。令心內寂。

【VS 2.12 **起** (rtsom)】
de'i dran pa nye bar gzhag pa bzhi rgyu gnyis kyis brtsams pa dang | rab tu brtsams par 'gyur te | 362a8
由二因緣。起四念住。名**善發起**。

tshul bzhin yid la byed pa yang dag pa ji lta ba bzhin du shes pa dang | 362b1
一。由如理作意。如實智故。

ting nge 'dzin yang dag pa ji lta ba bzhin du shes pa'i phyir te | 362b1
二。由三摩地。如實智故。

de'i 'og tu shes rab yang dag pa ji lta ba bzhin du shes pas mthar thug par 'gyur ro | 362b1
此慧無間。由如實智。當得究竟。

【VS 2.13 **修** (sgom pa tham yin)】
gang gi phyir dge slong ni gnyen po rnam pa gsum la ji ltar 'dod pa bzhin thob pa dang | 362b2
復次有諸苾芻 於三對治 得**隨所欲**。

tshegs med par thob pa dang |
dka' med par thob par 'gyur ste | 362b2
得無艱難。得無阻礙。

'di lta ste | mi rtag pa'i 'du shes dang byams pa dang | mtshan ma med pa'o | 362b3
謂無常想。若仁慈觀。若無相定。

de yang, gnyen po rnam pa gsum pa des ci rig par snga ma bzhin du yid du 'ong ba la sogs pa mi mthun pa'i 'du shes dang | mi mthun pa med pa'i 'du shes dang | 362b3
彼由如是。三種對治。隨其所應。如前所說。於可意等。身等境界。住厭逆想不厭逆想。

de gnyis ka nges par spangs nas btang snyoms dang dran pa dang shes bzhin gyis gnas te | 362b4
棄彼二種。**捨念正知**。由此因緣。

des ni, dran pa nye bar gzhag pa bsgoms par rig par bya'o | 362b4
當知名為。**善修念住**。

34 Cf. VS 3.3 前後有差別 (第615経).

(613)[35]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. 有不善聚善聚。何等爲不善聚。謂三不善根。是名正説。所以者何。
不善聚、善聚有り。何等をか不善聚と為す。謂わく、三不善根なり。是れを正説と名づく。所以は何。

2. (AKvy 497)
... akuśalā rāśir iti bhikṣavo yad uta *trīṇy akuśalamūlānī*ty te samyag vadamānā vadeyuḥ. tat kasya hetoḥ.

3a. 純不善積聚者。謂
純不善の積聚とは、謂わく、

3a. (AKvy 497)
kevalo 'yaṃ bhikṣavaḥ paripūrṇākuśalarāśir yad uta

3b. 三不善根。云何爲三。謂貪不善根。恚不善根。癡不善根。
三不善根なればなり。云何が三と為す。謂わく貪不善根、恚不善根、癡不善根なり。

3b. (NidSa 23.7c)
trīṇy akuśalamūlāni. katamāni trīṇy | lobho 'kuśalamūlam | dveṣo moho 'kuśalamūlam | idam akuśalamūlam ‖

4. 云何爲善聚。謂四念處。所以者何。純善滿具者。謂四念處。是名善説。
云何が善聚と為す。謂わく、四念處なり。所以は何。純善滿具とは、謂わく、四念處なればなり。是れを善説と名づく。

4. *kuśalā rāśir iti bhikṣavo yad uta catvāri smṛtyupasthānānīti te samyag vadamānā vadyuḥ. tat kasya hetoḥ. kevalo 'yaṃ kuśalarāśiḥ yad uta catvāri smṛtyupasthānānīty* te samyag vadamānā vadeyuḥ.

5. 云何爲四。謂身念處。受心法念處。
云何が四と為す。謂わく、身念處、受・心・法念處なり。

5. *katamāni catvāri.*
kāye kāyānupaśyanāsmṛtyupasthānam. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyanāsmṛtyupasthānam iti.

6. 佛説此經已。諸比丘聞佛所(T2,172a)説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

(613a)[36]

如三不善根。如是三惡行。身惡行口惡行意惡行。
三不善根の如く、是の如く、三惡行[すなわち]身惡行、口惡行、意惡行なり。

(AD 4, 148.3)[37]
sūtra uktam "trīṇi duścaritāni. kāyaduścaritaṁ vāṅmanoduścaritam. evaṁ sucaritāni" iti.

35 [Chung V-18].
36 Cf. SN.47.47, Duccarita (V p.188).
37 [Chung V-Abridged Sūtras 1)] (p.157) Saṅg III.1, ŚrBh I 108.16-19, Dhsk 3 verso 6 et passim.

【VS 3.1(1) **諸根** (rtsa ba la sogs)】
2. rtsa ba gsum po 'di dag ni, dran pa nye bar gzhag pa dge ba'i tshogs kyi bgegs kyi gnas yin pa'i phyir mi dge ba'i tshogs su gyur ba yin par rig par bya'o | 362b5
有**三種根**。於諸念住。一切善聚。為障礙故。當知説名。**不善法聚**。

gsum gang zhe na | 362b6
何等為三。

phyim la ngan song gi sdug bsngal la gnas par 'gyur ba'i phyir nyes par spyod pa'i rtsa ba dang | 362b6
一。**惡行根**。能令當來住惡趣苦。

tshe 'di la sdug bsngal la gnas pa'i phyir rtog pa'i rtsa ba dang | 362b6
二。**尋思根**。能令現法住不安苦。

rtsa ba'i rtsa ba ste | 362b7
三者。**根根**。

nyes par spyor ba'i rtsa ba de dang rtog pa'i rtsa ba de'i rtsa ba gang yin pa de ni, rtsa ba'i rtsa ba shes bya'o | 362b7
與惡行根。及尋思根。為根本故。説名根根。應知此中。

3. de la chags pa la sogs pa mi dge ba'i rtsa ba gsum po rnams ni lus la sogs pa'i nyes par spyod pa'i rtsa ba'o | 362b7
諸貪瞋癡。**三不善根**。能與身等。惡行為根。

(613b)
三想。欲想恚想害想。
三想[すなわち]欲想、恚想、害想なり。

(613c)[38]
三覺。欲覺恚覺害覺。
三覺[すなわち]欲覺、恚覺、害覺なり。

(613d)[39]
三界欲界恚界害界。
三界[すなわち]欲界、恚界、害界なり。

佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

(613b)
kāmasaṃjñā, vyāpādasaṃjñā, vyāpādasaṃjñā.

(613c)
kāmavitarka, vyāpādavitarka, vihiṃsāvitarka

(613d) (AKvy 55)
kāmadhātuṃ vyāpādadhātuṃ vihiṃsādhātuṃ

atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

38 [Chung V-Abridged Sūtras 2)] (p.157) Saṅg III.5. cf. Sūtra 272.
39 [Chung V-Abridged Sūtras 3)] (p.157) SaṅgIII.7.

【VS 3.1(2) **諸根** (rtsa ba la sogs)】
(613b)
'dod pa la sogs pa'i 'du shes gsum ni 'dod pa la sogs pa'i rtog pa'i rtsa ba'o | 362b8
欲等三想。能與欲等。尋思為根。

(613d)
dod pa la sogs pa'i khams gsum ni chags pa la sogs pa rtsa ba gsum dang | dod pa'i 'du shes la sogs pa'i rtsa ba gsum gyi rtsa ba yin par rig par bya'o | 362b8
欲等三界。當知能與。貪等三根。及欲想等。三根為根。

(614)[40]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.

2. 時有異比丘來詣佛所。稽首佛足退坐一面。白佛言。
時に、異比丘有り、佛の所に來詣して、佛の足に稽首し退きて一面に坐し、佛に白して言わく。

2. (NidSa 19.2)
ath*ānyatamo bhikṣur* yena bhagavāṃs tenopajagāma | upetya bhagavatpādau śirasā vandit*vaikānte nyaṣīdat* | *ekāntaniṣaṇṇaḥ* bhagavantam idam avocat |

3. 世尊。如所説大丈夫。云何名大丈夫非大丈夫。
世尊。説きし所の大丈夫の如き、云何が大丈夫・非大丈夫と名づくや。

3. (Cf. NidSa 19.3)
mahāpuruṣo mahāpuruṣa iti bhadanta ucyate, kiyatā mahāpuruṣo bhavati |
Cf. SN. 47.11,*"mahāpuriso mahāpurisoti bhante, vuccati, kittāvatā nu kho: bhante, mahāpuriso hotī"ti:*

4a. 佛告比丘。善哉善哉比丘能問。如來大丈夫義。
佛は比丘に告げたり。善い哉善い哉。比丘は能く如來に大丈夫の義を問えり。

4a. (Saṃghāṭasūtra 11)[41]
sādhu sādhu bhikṣo yas tvaṃ tathāgatam etam arthaṃ paripraṣṭavyaṃ manyase.

4b. 諦聽善思。當爲汝説。
諦らかに聽き、善く思え。當に汝が爲に説くべし。

4b. (NidSa 14.2)
t*ac chṛ*ṇuta sādhu ca suṣṭhu ca manasikuruta bhāṣiṣye |

5. 若比丘。身身觀念住。彼身身觀念住已。心不離欲。不得解脱。盡諸有漏。
若し比丘、身の身觀念に住し、彼れ身の身觀念に住し已わり、心が欲を離れず、解脱して諸の有漏を盡くすことを得ざれば、

6. 我説彼非爲大丈夫。所以者何。心不解脱故。
我れは「彼れ、大丈夫と為るに非ず」と説く。所以は何。心、解脱せざるが故なり。

6. *Avimuttacittattā no mahāpuriso'ti vadāmi.*

40 Cf. SN. 47.11, Mahāpuriso (V p.158).
41 "sādhu sādhu bhikṣu sādhu khalu punas te bhikṣu yas tvaṃ tathāgatam etam arthaṃ paripṛcchitavyaṃ manyasi." [Mv 2.297]

【VS 3.2 **愛味** (ro myang ba)】
5. dran pa nye bar gzhag pa rnams la brtson pa'i dge slong ni 'jig rten lam gyi[42] 'dod pa rnams las dben pa zhes bya ba nas rgyas par srid pa'i rtse mo'i snyoms par 'jug pa'i bar du bsgrub ste gnas so具足安住 | 363a1
復次有諸苾芻 於四念住 勤修加行 以世間道。離欲界愛。廣説乃至。第一有定。具足安住。

des de'i ro myang bar byed cing | de tsam gyis chog par 'dzin te | 363a2
即於此定。多生愛味。即於此定。生喜足想。

6. ma thob pa thob par bya ba'i phyir gong du rtsol bar yang mi byed pa de ni 'phags pa'i chos 'dul ba la skyes bu chen po shes mi bya'o | 63a3
不上勤求。得所未得。此於聖法毘奈耶中。**不名大士**。

de ci'i phyir zhe na何以故 | sems shin tu rnam par grol ba ma yin pa'i phyir ro | 363a3
何以故。其**心未得善解脱故**。

10. de las bzlog pa ni skyes bu chen po**大士** yin par rig par bya'o | 363a3
與此相違。**得名大士**。

42 D. 'jig rten pa'i lam gyis.

7. 若比丘。受心法。法觀念住。心不離欲。不得解脱。盡諸有漏。
若し比丘、受・心・法の法觀念に住し、心が欲を離れず、解脱して諸の有漏を盡くすことを得ざれば、

8. 我不説彼爲大丈夫。所以者何。心不解脱故。
我れは「彼れ、大丈夫と為る」と説かず。所以は何。心、解脱せざるが故なり。

9. 若比丘。身身觀念住。心得離欲。心得解脱。盡諸有漏。
若し比丘、身の身觀念に住し、心が欲を離るることを得て、心に解脱を得て、諸の有漏を盡くさば、

9. Cf. SN. 47.11 *idha bhikkhu kāye kāyānupassī viharati. ... tassa kāye kāyānupassino viharato cittaṃ virajjati, vimuccati, anupādāya āsavehi.*

10. 我説彼爲大丈夫也。所以者何。心解脱故。
我れは「彼れ、大丈夫と為る」と説くなり。所以は何。心、解脱せるが故なり。

10. Cf. SN. 47.11 *vimuttacittattā kho'haṃ sāriputta mahāpuriso'ti vadāmi.*

11. 若受心法。法觀念住。受心法法觀念住已。心離貪欲。心得解脱。盡諸有漏。
若し受・心・法の法觀念に住し、受・心・法の法觀念に住し已わり、心が貪欲を離れ、心に解脱を得て、諸の有漏を盡くさば、

11. Cf. SN. 47.11 *vedanāsu vedanānupassī viharati. ..*
citte cittānupassī viharati. ...
dhammesu dhammānupassī viharati. ...
tassa dhammesu dhammānupassino viharato cittaṃ virajjati, vimuccati, anupādāya āsavehi.

12. 我説彼爲大丈夫也。所以者何。心解脱故。
我れは「彼、大丈夫と為る」と説くなり。所以は何。心、解脱せるが故なり。

12. Cf. SN. 47.11 *evaṃ kho sāriputta, vimuttacitto hoti, vimuttacittattā kho'haṃ sāriputta, mahāpurisoti vadāmi.*

13. 是名比丘。大丈夫及非大丈夫。
是れを比丘の大丈夫、及び非大丈夫と名づく。

14. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜隨喜。禮足而去。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜し隨喜して、足に禮して去れり。

14. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

(615)[43]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.

2. 爾時尊者阿難晨朝著衣持鉢。入舍衛城乞食。於路中思惟。
爾の時、尊者阿難、晨朝に衣を著け鉢を持ち、舍衛城に入り、乞食して、路中に於いて思惟せり。

2. Cf. SN.47.10 *atha kho āyasmā ānando pubbaṇhasamayaṃ nivāsetvā pattacīvaramādāya*

3. 我今先至比丘尼寺。即往比丘尼寺。
我れ今先に比丘尼の寺に至らん。

3. Cf. SN.47.10 *yenaññataro bhikkhunūpassayo tenupasaṅkami.*

4. 諸比丘尼遥見尊者阿難(T2,172b)來。疾敷床座請令就座。
即ち比丘尼の寺に往けり。諸の比丘尼、遥かに尊者阿難の來たるを見て、疾く床座を敷き、請うて座に就か令む。

4. Cf. SN.47.10 *upasaṅkamitvā paññatte āsane nisīdi. atha kho sambahulā bhikkhuniyo yenāyasmā ānando tenupasaṅkamiṃsu.*

5. 時諸比丘尼禮尊者阿難足。退坐一面。白尊者阿難。
時に諸の比丘尼、尊者阿難の足に禮し、退きて一面に坐し、尊者阿難に白せり。

5. Cf. SN.47.10 *upasaṅkamitvā āyasmattaṃ ānandaṃ abhivādetvā ekamantaṃ nisīdiṃsu. ekamantaṃ nisinnā kho tā bhikkhuniyo āyasmantaṃ ānandaṃ etad avocuṃ:*

(*Satyasiddhiśāstra [還梵テキスト]. p.458) 183 kuśalavitarkavargaḥ

6. 我等諸比丘尼修四念處繫心住。自知前後昇降。
我等諸の比丘尼、四念處を修し心に繫けて住するに、自ら前後に昇降するを知れり。

6. *iha bhadanta [ānanda] vayaṃ catṛṣu smṛtyupasthāneṣu supratiṣṭhitacittā viharantya [udāraṃ] pūrveṇāparaṃ viśeṣaṃ samprajānāma iti |*

Cf. SN.47.10 *"idha bhante, ānanda, sambahulā bhikkhuniyo catusu satipaṭṭhānesu sūpaṭṭhitacittā viharantiyo uḷāraṃ pubbenāparaṃ visesaṃ sañjānantī"ti.*

43 Cf. SN.47.10, Bhikkunivāsako (V pp.154-158).

7. 尊者阿難告諸比丘尼。善哉善哉。姉妹。
尊者阿難、諸の比丘尼に告げたり。善い哉、善い哉。姉妹。

8. 當如汝等所説而學。凡修習四念處。善繫心住者。應如是知前後昇降。
當に汝等が所説の如くして學すべし。凡そ四念處を修習して、善く心に繫けて住する者は、應に是の如く前後に昇降するを知るべし。

9. 時尊者阿難爲諸比丘尼種種説法。種種説法已。從座起去。
時に尊者阿難、諸の比丘尼の爲に、種種に説法し、種種に説法し已わり、座從り起ちて去れり。

10. 爾時尊者阿難於舍衛城中乞食。還擧衣鉢。洗足已。詣世尊所。
爾の時、尊者阿難、舍衛城中に於いて乞食し、還りて衣鉢を擧げ、足を洗い已わり、世尊の所に詣りて、

11. 稽首佛足退坐一面。以比丘尼所説。具白世尊。
佛の足に稽首し退きて一面に坐し、比丘尼の所説を以て、具さに世尊に白せり。

12. 佛告阿難。善哉善哉。
佛は阿難に告げたり。善い哉、善い哉。
應に是の如く學すべし。

13.應如是學。四念處善繫心住。知前後昇降。
四念處、善く心に繫けて住するは、前後に昇降するを知る。

14. 所以者何。心於外求。然後制令求其心。散亂心不解脱。皆如實知。
所以は何。心、外に於いて求め、然る後に、制して其の心を求め令むるればなり。散亂の心は解脱せず[と]、皆な如實に知る。

15. 若比丘。於身身觀念住。於彼身身觀念住已。
若し比丘、身に於いて身觀念に住し、彼の身に於いて身觀念に住し已われば、

(*Satyasiddhiśāstra. p.457)[還 梵].
7. Cf. SN.47.10 *ānando 'vocat. evam etat bhaginya evam etat bhaginya iti.*
... evam etaṃ bhaginiyo,

8. Cf. SN.47.10 *yo hi ko ci bhaginiyo, bhikkhu vā bhikkhunī vā catusu satipaṭṭhānesu sūpaṭṭhitacitto viharati, tassetaṃ pāṭikaṅkhaṃ" "uḷāraṃ pubbenāparaṃ visesaṃ sañjānissatī"ti.*

9. Cf. SN.47.10 *atha kho āyasmā ānando tā bhikkhuniyo dhammiyā kathāya sandassetvā samādapetvā samuttejetvā sampahaṃsetvā uṭṭhāyāsanā pakkami.*

10. Cf. SN.47.10 *atha kho āyasmā ānando sāvatthiyaṃ piṇḍāya caritvā pacchābhattaṃ piṇḍapātapaṭikkanto yena bhagavā tenupasaṅkami.*

11. Cf. SN.47.10 *upasaṅkamitvā bhagavantaṃ abhivādetvā ekamantaṃ nisīdi. ekamantaṃ nisinno kho āyasmā ānando bhagavantaṃ etad avoca: idhāhaṃ bhante, ... sañjānissatī"ti.*

12. Cf. SN.47.10 *evam etaṃ ānanda, evam etaṃ ānanda,*

13. Cf. SN.47.10 *yo hi koci ānanda, bhikkhu vā bhikkhunī vā catusu satipaṭṭhānesu sūpaṭṭhitacitto viharati, tassetaṃ pāṭikaṅkhaṃ: "uḷāraṃ pubbenāparaṃ visesaṃ sañjānissatī"ti. katamesu catusu:*

14. Cf. SN.47.10 *kathañ cānanda, appaṇidhāya bhāvanā hoti: bahiddhā ānanda, bhikkhu cittaṃ appaṇidhāya "appaṇihitaṃ me bahiddhā cittanti" pajānāti.*
atha pacchā pure asaṅkhittaṃ vimuttaṃ appaṇihitanti pajānāti.

15. Cf. SN.47.10 *idhānanda, bhikkhu kāye kāyānupassī viharati ...,*

【VS 3.3 **前後有差別** (snga ma las phyi ma'i khyad par)】
'di la dge slong lus la sogs pa la lus kyi rjes su lta zhing gnas pa ni nang du sems gnas pa rnam pa dgus sems rnam par sdud par byed mod kyi |[44] 363a3
復次有諸苾芻 於身等境 精勤安住 循身等觀。以**九行相**。安住其心。令心內聚。

16. de'i sems de yang zhi gnas kyi mi mthun pa'i phyogs lus dang sems kyis rmugs pa dang zhum pa las rnam par grol ba ma yin no不得解脫 | 363a4
當知。此心於奢摩他所治。 **身心惛沈下劣**。不得解脫。

rnam par grol par ma gyur ba'i phyir de ltar mngon par bsdus pa'i sems la lus kyi rmugs pa dang sems kyi zhum pa yang skye bar 'gyur ro | 363a4
不解脫故。依此聚心。生起**身中。諸惛沈性。**生起 **心中。諸下劣性**

gal te dran pa nye bar gzhag pa rnams la sems shin tu brtan par gnas pas nye ba'i nyon mongs pa skyes par rig nas | 363a5
若於念住。善安住心。如實了知。此所生起。隨煩惱已。

16. nang du mngon par bsdus pa de las sems de btang ste | phyi rol gyi dga' bar 'gyur ba'i sdug pa'i mtshan ma de bzhin gshegs pa la sogs pa'i yon tan gyi rnam pa'i dmigs pa la sems gtod par byed de | 363a6
便從內聚。還收其心。安置在外。**淨妙境相。** 謂於佛等。功德行緣。持心令住。

de dmigs pa des mchog tu dga' ba skye bar 'gyur ba | 363a7
由緣此故。發生**歡喜** 。

nas rgyas par rab tu 'dzin pa'i sgo nas da la dmigs pa'i sems mnyam par 'jog la nye ba'i nyon mongs pa
廣說乃至。由妙舉門。於所緣境。令心得定。

zhi gnas kyi mi mthun pa'i phyogs de las kyang rnam par grol bar 'gyur ro | 363a7
從奢摩他。之所對治。諸隨煩惱。而得解脫。

de nas nye ba'i nyon mongs pa de las sems rnam bar grol bar rig nas | 363a8
從此已後。如實了知。於隨煩惱。心得解脫。

44 Cf. 2.11 斷 (SA. 612).

16. 若身躭睡。心法懈怠。彼比丘當起淨信。取於淨相。起淨信心。憶念淨相已其心則悦。
若し身睡に耽り、心法懈怠ならんも、彼の比丘は當に淨信を起こし、淨相を取し、淨信の心を起こすべし。淨相を憶念し已われば、其の心、則ち悦ぶ。

16. (Śbh II 208)[45]
tac ca tathādhyātmam abhisaṃkṣiptaṃ līnatvāya paraiti, līnatvābhiśaṅki caivaṃ paśyati | tadānyatamānyatamena pragrāhakeṇa nimittena prasadanīyena pratigṛhṇāti saṃharṣayati |
由是因緣其心於內極略下劣或恐下劣。觀見是已。爾時隨取一種淨妙舉相。慇懃策勵。慶悦其心。
Cf. SN.47.10 *tassa kāye kāyānupassino viharato kāyārammaṇo vā uppajjati, kāyasmiṃ pariḷāho, cetaso vā līnattaṃ, bahiddhā vā cittaṃ vikkhipati. tena hānanda, bhikkhunā kismicid eva pasādanīye nimitte cittaṃ paṇidahitabbaṃ tassa kismicideva pasādanīye nimitte cittaṃ paṇidahato pāmujjaṃ jāyati.*

17. 悦已生喜。其心喜已身則猗息。身猗息已則受身樂。受身樂。已其心則定。
悦び已わりて喜生ず。其の心喜び已われば、身則ち猗息す。身猗息し已われば、則ち身の樂を受く。身の樂を受け已われば、其心則ち定まる。

17. (Śbh I 92)[46]
pramuditacittasya prītir jāyate. prītamanasaḥ kāyaḥ praśrabhyate. sa praśrabdhakāyaḥ sukhaṃ vedayate. sukhitasya cittaṃ samādhīyate.
歡故生喜。由心喜故身得輕安。身輕安故便受勝樂。樂故心定。

18. 心定者聖弟子。當作是學。我於此義。外散之心。攝令休息。不起覺想。及已觀想。
心定まる者は聖弟子なり。當に是の學を作すべし。我れ此の義に於いて、外散の心、攝し、休息せ令め、覺想及び已觀想を起こさず、

18. Cf. SN.47.10 *so iti paṭisañcikkhati: yassa kho'haṃ atthāya cittaṃ paṇidahiṃ so me attho abhinipphanno, handadāni paṭisaṃharāmīti.*

19. 無覺無觀。捨念樂住。樂住已如實知。受心法念。亦如是説。
覺無く觀無く、捨念にして樂住す。樂住し已わりて如實に知る。受・心・法念も亦た是の如く説く。

19. Cf. SN.47.10 *so paṭisaṃharati ceva na ca vitakketi. Na ca vicāreti. "avitakkomhi avicāro ajjhattaṃ satimā sukhitasmī"ti pajānāti. .....*

20. 佛説此經已。尊者阿難聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。尊者阿難、佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

20. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

---

45 -II-12-b-(2)-i-(c) Ms.88b3M, Sh.311-7, P.141a6, Ch.443a2. See『顯揚聖教論』卷19, T31,577c「於念住修位中。為斷沈掉故。應修二種相應道。如**『比丘尼經』**及『取自心相經』説。云何**『比丘尼經』**説。如彼經言。為斷沈沒故。應當思惟少分可愛清淨相貌。為斷掉動故。復應略攝」

46 (I)-C-III-4-f-(1) Ms.8a8R, Sh.59-1, P.28a8, Ch.405c13.「十種戒德勝利」の「第一勝利」。

gang gi don du phyi rol tu ched du bstad[47] pa'i don de thob pas na phyir yang snga ma bzhin du mngon par sdud par byed de | 363a8
為此義故祈願。於外得此義已。還復如前。攝心內聚。

phyis nye ba'i nyon mongs pa des nye bar nyon mongs par mi 'gyur ro | 363a8
而不為其。諸隨煩惱。之所惱亂。

des mngon par bsdus nas phyi rol tu ched du ma bstad[48] par yang bdag ni rnam par grol lo snyam du yang dag pa ji lta ba bzhin du rab tu shes la | 363b1
心內聚已。不由祈願。自然如實了知。於外心得解脫。

phyi rol du dmigs pa rnams la yongs su rtog pa | 363b1
彼於外緣。行相尋思。

'bad pa dang bcas pa | 363b2
有所制伏。

mngon par 'du byed pa dang bcas pa'i sdug bsngal 'byung ba de dag las dben pa dang btang snyoms dang bde bar gnas yongs su 'grub par 'gyur te | 363b2
有其加行。難可運轉。皆得自在解脫。棄捨安樂而住 已得成辦 勝奢摩他

de ltar dran pa nye bar gzhag pa bzhi la sems shin tu brtan par gnas pa des ni snga ma las phyi ma khyad par du gyur par shes te gang zag de ni sngar lhag mthong la brten te | 363b3
如是。彼於四種念住。善安住心。能正了知。**前後差別**。又應知此補特伽羅。先已修行。毘鉢舍那。毘鉢舍那。以為依止。

zhi gnas la sbyor bar byed pa yin par rig par bya'o | 363b-3
於奢摩他。修瑜伽行。

47 D. gtad.
48 D. gtad.

(616)[49]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. 當取自心相。莫令外散。所以者何。
當に自心の相を取り、外に散ぜ令むこと莫かるべし。所以は何。

3. 若彼比丘愚癡不辨不善。不取自心相。而取外相。然後退減。自生障閡。
若し彼の比丘、愚癡にして不善を辨ぜず、自心の相を取らずして外の相を取り、然る後に退減すれば、自から障閡を生ず。

3. Cf. SN.47.8 *bālo avyatto akusalo bhikkhu sakassa cittassa nimittaṃ na uggaṇhāti. ...*

4. 譬如厨士。愚癡不辨。不善巧便。調和衆味。奉養尊主。
譬えば、厨士、愚癡にして不善の巧便を辨ぜず、衆味を調和し、尊主に奉養するに、

4. Cf. SN.47.8 *seyyathāpi bhikkhave, bālo avyatto akusalo sūdo rājānaṃ vā rājamahāmattaṃ vā nānaccayehi sūpehi paccupaṭṭhito assa:*

5. 酸醎酢淡。不適其意。不能善取。尊主所嗜。酸醎酢淡。衆味(T2,172c)之和。
酸醎酢淡、其の意に適わず、善く尊主の嗜む所の酸醎酢淡、衆味の和を取る能わず。

5. Cf. SN.47.8 *ambilaggehipi tittakaggehipi kaṭukaggehipi madhuraggehipi khārikehipi akhārikehipi loṇikehipi aloṇikehipi.*

Cf. (AKBh I p.28)
"rasaḥ | ṣoḍhā (AK I-10)",
madhura-amla-lavaṇa-kaṭuka-tikta-kaṣāya-bhedāt.[50]

(Śroṇakoṭīviṃśā p.134);
(AVŚ 3, Vaidya pp.8, 89, 123, 206)[51]

tikta (苦)	cf. *tittaka*
amla (酢/醋)	*ambila*
lavaṇa (鹹)	*loṇika*
madhura (甜/甘)	*madhura*
kaṭuka (辛)	*kaṭuka*
kaṣāya (淡)	*khārika*

6. 不能親侍。尊主左右司其所須。聽其所欲。善取其心。而自用意。調和衆*昧。
尊主に親侍せる左右に其の須いる所を司い、其の欲する所を聽き、善く其の心を取り、而して自から意を用い、衆味*[>昧]を調和する能わず。

6. Cf. SN.47.8 *sakho so bhikkhave, bālo avyatto akusalo sūdo sakassa bhattu nimittaṃ na uggaṇhāti:*
idaṃ vā me ajja bhattu sūpeyyaṃ ruccati, imassa vā abhiharati, imassa vā bahuṃ gaṇhāti, imassa vā vaṇṇaṃ bhāsati, ...

---

49 Cf. SN.47.8, Sūdo (V pp.149-152); Vsm. PTS ed. p.150~; Mv 2, pp.478-479. 平岡聡訳『ブッダの大いなる物語』pp.148-149; Kusa-Jātaka (*Jātaka* Vol.5, pp.289-303).『顯揚聖教論』卷19, T31,577c 「於念住修位中。為斷沈掉故。應修二種相應道。如『比丘尼經』及**『取自心相經』**說。... 云何**『取自心相經』**說。如彼經言。由不取自心相故。令心沈沒。由取少分可愛外相故。沈隨煩惱暫時斷息。然心未得定。復更略攝其心。見沈沒過。復取外相。掉動過後。復更取自心之相。爾時能斷沈掉隨煩惱。心得正定。略攝其心取自心相。離沈掉故。」

50 (真諦訳) 偈曰。味六。釋曰。謂甜酢鹹辛苦淡差別故。
(玄奘訳) 味有六種。甘醋鹹辛苦淡別故。

51 Cf. *Divyāvadāna*, ed. Vaidya, 1.24; 62.24; 104.6; 286.25; Vinayavastu: *Adhikaranavastu* (63); *Bhaisajyavastu* (MSV I 132)

【VS 3.4 **取相** (mtshan mar 'dzin)】
2. dran pa nye bar gzhag pa la brtson pa'i dge slong lhag mthong la brten nas zhi gnas la sbyor bar 'dod pas ni nang gi zhi gnas la rang gi sems bstad pa las mtshan ma 'di ltar gzung bar bya ste | 363b3
復次。有諸苾芻。於諸念住。勤修加行。毘鉢舍那。以為依止。於奢摩他。樂修觀行。彼即應於內奢摩他。**所攝自心取如是相**。

bdag gis ci zhig yid la byas shing | bdag gis ji ltar yid la byas na sems zhi gnas la bstad pa na | zhi gnas kyi phyogs kyi lus dang sems kyi rmugs pa dang zhum pas nye bar nyon mongs par 'gyur la | 363b4
謂我今者。何所思惟。云何思惟。令奢摩他。所攝受心。為奢摩他。所治身心。惛沈下劣。之所惱亂。

ci zhig ji ltar yid la byas na ni nye bar nyon mongs par mi 'gyur snyam du mtshan ma bzung bar bya'o | 363b5
復我今者。何所思惟。云何思惟。令奢摩他。所攝受心。不為彼法之所惱亂。

3. gal te dge slong des de ltar rang gi sems la mtshan ma ma bzung na ni kun nas nyon mongs pa des sems de nye bar nyon mongs par 'gyur bar rig nas | 363b6
若彼苾芻。不取如是。自心相貌。但自了知。此隨煩惱。染汚心已。

phyi rol gyi dga' bar byang ba'i dmigs pa las mtshan mar 'dzin par byed de | 363b6
便於外緣。取淨妙相。

de'i rgyus re zhig des nye ba'i nyon mongs 'byung zhing mngon sum du gyur ba de spongs mod kyi | 363b7
由是為因。雖能暫時。除遣現在。現前隨惑。

7. 以奉尊主。若不適其意。尊主不悦。不悦故不蒙爵賞。亦不愛念。
以て尊主に奉り、若し其の意に適わざれば、尊主は悦はず。悦ばざるが故に爵賞を蒙らず、亦た愛念せざるが如し。

7. Cf. SN.47.8 *sakho so bhikkhave, bālo avyatto akusalo sūdo naceva lābhī hoti: acchādanassa, na lābhī vetanassa, na lābhī abhihārānaṃ. taṃ kissa hetu: tathā hi so bhikkhave, bālo avyatto akusalo sūdo sakassa bhattu nimittaṃ na uggaṇhāti.*

8. 愚癡比丘亦復如是。不辨不善。於身身觀住。
愚癡の比丘も亦復た是の如く、不善を辨ぜず、身に於いて身觀に住し、

8. Cf. SN.47.8 *evam eva kho bhikkhave, idhekacco bālo avyatto akusalo bhikkhu kāye na kāyānupassī viharati ātāpī sampajāno satimā vineyya loke abhijjhādomanassaṃ.*

9. 不能除斷上煩惱。不能攝取其心。亦復不得内心寂靜。
上の煩惱を除斷する能わず、其の心を攝取する能わず、亦復た内心の寂靜を得ず、

9. Cf. SN.47.8 *tassa kāye na kāyānupassino viharato cittaṃ na samādhiyati, upakkilesā na pahīyanti. so taṃ nimittaṃ na uggaṇhāti. ...*

10. 不得勝妙正念正知。亦復不得四種増上心法現法樂住。本所未得安隱涅槃。
勝妙なる正念・正知を得ず、亦復た四種の増上心法・現法樂住を得ずして、本より未だ得ざる所の安隱なる涅槃を得ず。

10. (AKBh 377; AKvy 589)
Cf."*catvāra ādhicaitasikā dṛṣṭadharmasukhavihārā adhigatāḥ*." (SBV II 145)
asaṃprāptamānasaḥ sa uttaraṃ yogakṣemaṃ nirvāṇam *abhiprārthayamānarūpo bahulaṃ viharati*.
Cf. SN.47.8 *sakho so bhikkhave, bālo avyatto akusalo bhikkhu naceva lābhī hoti diṭṭhadhammasukhavihārānaṃ, na lābhī satisambojjhaṅgassa.*

11. 是名比丘愚癡不辨不善。不能善攝内心之相。而取外相自生障閡。
是れを比丘の愚癡にして不善を辨[< 辨]ぜず、善く内心の相を攝する能わずして、外の相を取り、自から障閡を生ずと名づく。

11. Cf. SN.47.8 *taṃ kissa hetu. tathā hi so bhikkhave, bālo avyatto akusalo bhikkhu sakassa cittassa nimittaṃ na uggaṇhāti.*

12. 若有比丘黠慧才辯。善巧方便。取内心已。然後取於外相。彼於後時終不退減。自生障閡。
若し比丘有り、黠慧才辯ありて、善巧方便もて内心を取り已わり、然る後に外相を取れば、彼れ後の時に於いて終に退減して自から障閡を生ぜず。

13. 譬如厨士。黠慧聰辯。善巧方便。供養尊主。能調衆味。
譬えば、厨士、黠慧聰辯にして、善巧方便もて尊主を供養するに、能く衆味を調え、

13. Cf. SN.47.8 *seyyathāpi bhikkhave, paṇḍito viyatto kusalo sūdo rājānaṃ vā rājamahāmattaṃ vā nānaccayehi sūpehi paccupaṭṭhito assa:*

14. 酸醎酢淡　善取尊主　所嗜之相而和衆味。以應其心。
酸醎酢淡、善く尊主の嗜む所の相を取りて、而して衆味を和し、以て其の心に應ずるに、

14. Cf. SN.47.8 *ambilaggehipi tittakaggehipi kaṭukaggehipi madhuraggehipi khārikehipi akhārikehipi loṇikehipi aloṇikehipi.*

'on kyang gang gi tshe yang snga ma bzhin du mngon par sdud pa na de de bzhin du yang nye ba'i nyon mongs pa de nyid kyis nye ba'i nyon mongs par 'gyur zhing mnyam par gzhog par mi 'gyur te | 363b7
然於後時。若復如前。攝心內聚。還為如是。隨惑所惱。不得靜定。

'di ltar sngar rang gis sems la mtshan ma bzung ba'i phyir dang | 363b8
如先不取。自心相故。

9. bag la nyal ma bton pa'i phyir ro | de rgyu de dang nye ba'i nyon mongs pa des phyir zhing bcom par 'gyur te | 363b8
由是因緣。為隨煩惱。數數擾亂。

brod pa'i don ma thob bo snyam nas yid mi bde bas 'phongs(D. phongs) par yang 'gyur la | 364a1
又不能得。所欣求義。復為憂愁。之所損惱。

shin tu, yun ring por yang nang gi sems kyi zhi gnas de thob par mi 'gyur ro | 364a1
又經長時。**不能獲得內心寂止**。

10. zhi gnas la brten pas sngar lhag mthong yongs su dag pa'i dbang gis byung ba'i dran pa dang shes bzhin mchog kyang thob par mi 'gyur te | 364a2
不能獲得。依奢摩他。毘鉢舍那為先。清淨增上。第一正念正知。

nang gi sems kyi zhi gnas ma thob pas ni lhag pa'i sems las byung ba tshe 'di la bde bar gnas pa bzhi thob par mi 'gyur ro | 364a2
由不獲得。內心寂止故。**不能得四增上心現法樂住**。

dran pa dang shes pa bzhin mchog ma thob pas ni | 364a3
由不獲得。增上第一。正念正智故。

sngon先 thob ma myong ba'i grub pa dang bde ba bla na med pa mya ngan las 'das pa thob par mi 'gyur ro | 364a3
不能得先所。**未得無上安隱。究竟涅槃**。

de las bzlog pa thams cad ni dkar po'i phyogs kyis sngon ma thob pa'i grub pa dang bde ba bla na med pa mya ngan las 'das pas bar du thob par 'gyur bar rig par bya'o | 364a3
與上相違。應知即是。一切白品。乃至獲得。**先所未得。無上安隱。究竟涅槃**。

15. 聽其尊主所欲之味。數以奉之。尊主悦已。必得爵祿愛念倍重。如是黠慧厨士善取尊主之心。
其の尊主の欲する所の味に聽き、數以て之を奉れば、尊主悦び已わりて必ず爵祿を得せしめ、愛念は倍重す。是の如く、黠慧の厨士は善く尊主の心を取る。

15. Cf. SN.47.8 *sakho so bhikkhave, paṇḍito viyatto kusalo sūdo sakassa bhattu nimittaṃ uggaṇhāti: "idaṃ vā me ajja bhattu sūpeyyaṃ ruccati, imassa vā abhiharati, imassa vā bahuṃ gaṇhāti, imassa vā vaṇṇaṃ bhāsati, ...*

16. 比丘亦復如是。身身觀念住。斷上煩惱。善攝其心。内心寂止。
比丘も亦復た是の如く、身の身觀念に住し、上の煩惱を斷じ、善く其の心を攝し、内心に寂止し、

16. Cf. SN.47.8 *tassa kāye na kāyānupassino viharato cittaṃ samādhiyati, upakkilesā pahīyanti. so taṃ nimittaṃ uggaṇhāti. ...*

17. 正念正知。得四增*心法現法樂住。得所未得安隱涅槃。
正念・正知にして、四増*[上]心法・現法樂住を得て、未だ得ざる所の安隱なる涅槃を得。

17. (AKBh 377; AKvy 589)
Cf."*catvāra ādhicaitasikā dṛṣṭadharmasukhavihārā adhigatāḥ*."
(SBV II 145)
saṃprāptamānasaḥ sa uttaraṃ yogakṣemaṃ nirvāṇam *abhiprārthayamānarūpo bahulaṃ viharati*.

18. 是名比丘黠慧辯才。善巧方便。取内心相。攝持外相。終無退減。自生障閡。
是れを比丘の黠慧辯才にして善巧方便もて内心の相を取り、外の相を攝持し、終に退減して自から障閡を生ずる無しと名づく。

18. Cf. SN.47.8 *sakho so, bhikkhave, paṇḍito byatto kusalo sūdo lābhī ceva hoti acchādanassa, lābhī vetanassa, lābhī abhihārānaṃ.*
taṃ kissa hetu. tathā hi so, bhikkhave, paṇḍito byatto kusalo sūdo sakassa bhattu nimittaṃ uggaṇhāti.

19. 受心法觀亦復如是。
受・心・法觀も亦復た是くの如し。

20. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

20. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

de la gyos mkhan lta bu'i rnal 'byor spyod pa'o | 364a4
此中**典厨。**譬瑜伽師[52]。

rje bo ji lta bu ni zhi gnas la gtad pa'i sems so | 364a4
主即譬於內奢摩他。**所攝受心**。

tshod ma lta bu ni mtshan mar 'dzin pa'o | 364a5
其**餚饍味**。喻**執取相**。

zas dang gos rgya chen po lta bu ni nang gi sems kyi zhi gnas la sogs pa yin par rig par bya'o | 364a5
上妙衣食。喻於內心奢摩他等。

nag po'i phyogs las ni byis pa yin par rig par bya'o dkar po'i phyogs las ni mkhas pa yin par rig par bya'o | 364a5
當知黑品。喻**諸愚夫**所有。白品喻**諸智者**。

52 Cf. Kusa-Jātaka (Jātaka Vol.5, pp.289-303).

(617)[53]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.[54]

2. 過去世時有一鳥。名曰羅婆。爲鷹所捉。飛騰虛空。於空鳴喚言。
過去世の時に、一鳥有り。名づけて羅婆と曰う。鷹の捉うる所と為り、虛空に飛騰し、空に於いて鳴喚して言えり。

2. Cf. SN.47.6 *bhūtapubbaṃ bhikkhave, sakuṇagghi lāpaṃ sakuṇaṃ sahasā ajjhappattā aggahesi.*
atha kho bhikkhave, lāpo sakuṇo sakuṇagghiyā harīyamāno evaṃ hi paridevesi:

3. 我不自覺。忽遭此難。我坐捨離父母境界。而遊他處。故遭此難。
我れ自覺せず、忽ち此の難に遭えり。我れ坐ろに父母の境界を捨離し、而して他處に遊べり。故に此の難に遭えり。

3. Cf. SN.47.6 *"mayam evamhā alakkhikā. mayaṃ appapuññā, ye mayaṃ agocare carimhā paravisaye.*

4. 如何今日爲他所困。不得自在。
如何が今日、他の困しむる所と為り、自在を得ず。

4. Cf. SN.47.6 s*ac'ajja mayaṃ gocare careyyāma sake pettike visaye, nacāyaṃ3 sakuṇagghi alaṃ abhavissa yadidaṃ yuddhāyā"ti.*

5. 鷹語羅婆。汝當何處(T2,173a)自有境界。而得自在。
鷹、羅婆に語りき。『汝は、當に何處に自ら境界有り、而して自在を得べき。

5. Cf. SN.47.6 *ko pana te lāpa gocaro sako pettiko visayoti.*

6. 羅婆答言。我於田耕壟中。自有境界。足免諸難。是爲我家父母境界。
羅婆、答えて言えり。我れ田の耕壟の中に於いて自ら境界有り、諸難を免るるに足る。是れ、我が為の家にして、父母の境界なり。

6. Cf. SN.47.6 *Yadidaṃ naṅgalakaṭṭhakaraṇaṃ leḍḍuṭṭhānanti.*

7. 鷹於羅婆起憍慢言。放汝令去還耕壟中。能得脫以不。
鷹、羅娑に於いて憍慢を起こし言えり。汝を放ち、去りて耕壟の中に還ら令めん。能く脫するを得るや以不や。

7. Cf. SN.47.6 *atha kho bhikkhave, sakuṇagghi sake bale apatthaddhā sake bale avacamānā amuñci,*
gaccha kho tvaṃ lāpa, tatthāpi me gantvā na mokkhasīti.

53 [Chung V-19], SN.47.6, Sakuṇagghi (V pp.146-148). cf. Jātaka 168 (II p. 58).
54 Jātaka 168: "idaṃ satthā jetavane viharanto attajjhāsayaṃ **sakuṇovādasuttaṃ (SN.** 47.6) ārabbha kathesi."

8. 於是羅婆得脱鷹爪。還到耕壟大塊之下。安住止處。然後於塊上。欲與鷹鬪。
是に於いて、羅婆、鷹の爪を脱することを得。還りて、耕壟の大塊の下に到り、止處に安住し、然る後に塊上に於いて鷹と鬪わんと欲せり。

8. Cf. SN.47.6 *atha kho bhikkhave, lāpo sakuṇo naṅgalakaṭṭhakaraṇaṃ leḍḍuṭṭhānaṃ gantvā mahantaṃ leḍḍuṃ abhirūhitvā sakuṇagghiṃ avacamāno aṭṭhāsi,*
ehi khodāni sakuṇagghi, ehi kho dāni sakuṇagghīti.

9. 鷹則大怒。彼是小鳥。敢與我鬪。瞋恚極盛。駿飛直搏。
鷹、則ち大いに怒れり。彼れは是れ小鳥なるに、敢えて、我と鬪うか』と。瞋恚は極めて盛んにして、駿に飛び直ちに搏つ。

9. Cf. SN.47.6 *atha kho sā bhikkhave, sakuṇagghi sake bale apatthaddhā sake bale avacamānā ubho pakkhe sandhāya lāpaṃ sakuṇaṃ sahasā ajjhappattā.*

10. 於是羅婆入於塊下。鷹鳥飛勢。臆衝堅塊。碎身即死。
是に於いて羅婆は塊下に入りぬ。鷹鳥、飛勢もて臆を堅き塊に衝き、身を碎きて即死せり。

10. Cf. SN.47.6 *yadā kho bhikkhave, aññāsi lāpo sakuṇo bahu āgatā kho myā'yaṃ sakuṇagghīti.*
atha tasseva leḍḍussa antaraṃ paccupādi.
atha kho bhikkhave, sakuṇagghi tattheva uraṃ paccatāḷesi.

11. 時羅婆鳥深伏塊下仰説偈言。
時に羅婆鳥、深く塊下に伏せ、仰いで偈を説いて言えり。

12. 鷹鳥用力來。羅婆依自界。乘瞋猛盛力。致禍碎其身。
鷹鳥、力を用いて來たり。羅婆は自界に依る。瞋の猛盛の力に乗じ、禍を致し、其の身を碎きぬ。

12. Cf. SN.47.6 *seno balasā patamāno,*
lāpaṃ gocara-ṭṭhāyinaṃ,
sahasā ajjhappatto'va,
maraṇaṃ ten'upāgami.

13. 我具足通達。依於自境界。伏怨心隨喜。自觀欣其力。
我れは具足し通達し、自らの境界に依り、怨を伏し、心隨喜す。自ら觀て其の力を欣ぶ。

13. Cf. SN.47.6 *so'haṃ nayena sampanno*
pettike gocare rato,
apetasattu modāmi
sampassaṃ attham attano ti.

14. 設汝有兇愚。百千龍象力。不如我智慧。十六分之一。觀我智殊勝。摧滅於蒼鷹。
設え汝に兇愚なる百千の龍象の力有らんも、我が智慧の十六分の一に如かず。
我が智の殊勝なるを觀よ。蒼鷹を摧滅せり。

15. 如是比丘。如彼鷹鳥。愚癡自捨所親父母境界。遊於他處致斯災患。
是の如く、比丘、彼の鷹鳥の如く、愚癡にして自ら親しむ所の父母の境界を捨て、他處に遊び斯の災患を致す。

15. Cf. SN.47.6 e*vaṃ he'taṃ bhikkhave, hoti yo agocare carati paravisaye.*

16. 汝等比丘。亦應如是。於自境界所行之處。應善守持。離他境界。應當學。
汝等比丘も亦た、應に是の如くなるべし。自らの境界の所行の處に於いて、應に善く守持すべし。他の境界を離れ、應當に學すべし。

16. Cf. SN.47.6 *tasmātiha bhikkhave, mā agocare carittha paravisaye. agocare bhikkhave, carataṃ parivisaye lacchati māro otāraṃ. lacchati maro ārammaṇaṃ.*

17. 比丘。他處他境界者。謂五欲境界。眼見可意*受念妙色。欲心染著。
比丘。他處・他の境界とは、謂わく、五欲の境界なり。眼は可意なるを見、妙なる色を愛*[<受]念し、欲心もて染著す。

17. Cf. SN.47.6 *ko ca bhikkhave, bhikkhuno agocaro paravisayo: yadidaṃ pañca kāmaguṇā. katame pañca: cakkhuviññeyyā rūpā iṭṭhā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasaṃhitā rajanīyā.*
(Saṅg V.3†) (cakṣurvijñeyāni rūpāṇīṣṭāni kantāni manāpāni priyarūpāṇi kāmopasaṃhitāni rañjanīyāni.)

18. 耳識聲。鼻識香。舌識味。身識觸。可意*受念妙觸。欲心染著。是名比丘他處他境界。
耳は聲[の可意なる]を識り、鼻は香[の可意なる]を識り、舌は味[の可意なる]を識り、身は觸の可意なるを識り、妙なる觸を愛*[<受]念し、欲心もて染著す。是れを比丘の他處・他の境界と名づく。

18. (Saṅg V.3†)
(śrotravijñeyāḥ śabdāḥ ... rañjanīyāḥ. ghrānavijñeyā gandhāḥ ... rañjanīyāḥ. jihvāvijñeyā rasāḥ ... rañjanīyāḥ. kāyavijñeyāni sparṣṭavyāni ... rañjanīyāni.)

Cf. SN.47.6 a*yaṃ bhikkhave, bhikkhuno agocaro paravisayo.*

19. 比丘。自處父母境界者。謂四念處。云何爲四。
謂身身觀念處。受心法法觀念處。
比丘。自らの處・父母の境界とは、謂わく、四念處なり。云何が四と為す。謂はく、身の身觀念處、受・心・法の法觀念處なり。

19. Cf. SN.47.6 *ko ca bhikkhave, bhikkhuno gocaro sako pettiko visayo, yadidaṃ cattāro satipaṭṭhānā. katame cattāro:*
yad uta catvāri smṛtyupasthānāni. katamāni catvāri. kāye kāyānupaśyanā-smṛtyupasthānam. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyanā-smṛtyupasthānam iti.

20. 是故比丘。於自行處父母境界。而自遊行。遠離他處他境界。應當學。
是れ故に、比丘、自ら行ずる處・父母の境界に於いて、而かも自ら遊行し、他處・他の境界を遠離し、應當に學すべし。

20.[55] Cf. SN.47.6 *gocare bhikkhave, caratha sake pettike visaye. gocare bhikkhave, carataṃ sake pettike visaye na lacchati māro otāraṃ, na lacchati māro ārammaṇaṃ.*

21. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

21. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

55 Jātaka 168: "ekadivasañ hi satthā bhikkhū āmantetvā, gocare, bhikkhave, caratha sake pettike visaye"ti (SN. 47.6) imaṃ **Saṃyutta-Mahāvagge suttantaṃ** kathento.

【VS 3.5 **諸纏** (kun nas dkris)】
dran pa nye bar gzhag pa bsgom pa la brtson pa'i dge slong so so'i skye bo ni chags par 'gyur ba'i yul rgya chen po mngon sum du gyur pa'am | 364a6
復次有諸苾芻 於諸念住 正勤修習而是異生。或有勝妙。可愛境界。正現在前。

yang na gcig pus gnang ba thob pas na brjed ngas pas tshul bzhin ma yin pa'i 'du shes la brten nas 'dod chag (D. chags) kun nas dkris pa drag pa skyed par byed do | 364a6
或復獨處。得諸相狀。由失念故。不如理想。以為依止。率爾發起。猛利貪纏。

de kun nas dkris pa de la ngo tsha bas gnas te | 364a7
彼於此纏。深心厭恥。

bdag nyid skobs su chud pa bzhin du sems pas 'bral bar bya ba'i phyir drag tu 'bad par byed do | 364a7
謂如自身。墮於厄難極鄙穢處。發起猛利。思遠離心。

de ltar byas nas kyang kun nas dkris pa de las grol bar 'gyur ro | 364a8
由如是行。便於彼纏。心得解脱。

grol nas kyang yid bde bar 'gyur te | 364a8
既解脱已。心生歡喜。

de'i 'og tu yang skyo ba drag por (D. 'gyur) ro | 364a8
從此已後。起猛利厭。

skyo ba thob nas kyang de'i 'og tu mi rtag pa'i 'du shes kyi gshol chen po lta bus rmos shing 'du byed kyi(D. kyis) rnam pa thams cad khag ma lta bur brlog pa na | 364a8
猛利厭後得無常想。如見大犁。發諸行塊。

bden pa'i tshul ni yang dag pa ji lta ba bzhin du mngon par rtog nas mya ngan las 'das pa la bsam pa bzhag ste | 364b1
便於聖諦。如實現觀。以其依止。依附涅槃。

slob bas yang spyod pa'i yid la byed pas yul rgya chen po de sdug par yid la byed de | 364b2
又即有學。觀察作意。於勝妙境。思惟淨相。

'dod chags kyi bag la nyal de ma spangs pas 'dod chags kyi kun nas dkris pa de glo bur ngu du skyes nas mngon sum du 'gyur ro | 364b2
由未永斷。貪隨眠故。貪纏率爾。生起現前。

de de la nyes dmigs su lta bas kun nas dkris pa de bag la nyal dang bcas pa spang bar bya ba'i phyir mtshan ma med pa la snyoms par 'jug ste de ltar na de lhag ma spong ba yin no | 364b3
尋復於彼。深見過患。為欲斷此纏及隨眠入無相定。如是能斷餘未斷法。

de, ting nge 'dzin de las langs te spangs pa yang khong du chud nas rnam bar grol ba'i dga' ba dang bde ba yang nyams su myong la | 364b3
從定起已。如實了知。一切已斷。領受微妙。解脱喜樂。

bdag nyid ni ye shes kyi stobs chen po'i stobs dang ldan la bdud kyi phyogs ni stobs chung bar yang dag par mthong ngo | 364b4
如實觀見自己。成就大智力故。名為彊盛。諸魔羅品。其力羸劣。

(618)

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤(T2,173b)獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2a. 於四念處多修習。
四念處に於いて多く修習すれば、

2a. iha bhikṣur caturṇām smṛtyupasthānānām āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ.

2b. 當得四果。四種福利。
當に四果、四種の福利を得。

2b.
*bṛhatphala: 'bras bu che ba
*mahānuśaṃsā: phan yon chen po

3. 云何爲四。謂須陀洹果。斯陀含果。阿那含果。阿羅漢果。
云何が四と為す。謂わく、須陀洹果、斯陀含果、阿那含果、阿羅漢果なり。

3. Cf. (Śbh II 238)[56]
katamāni catvāri. yad uta srota-āpattiphalaṃ sakṛdāgāmiphalam anāgāmiphalam arhattvam iti.

4. 佛說此經已。諸比丘聞佛所說。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

4. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

56 -II-13-a Ms.92a7M, Sh.331-1, W.M02-4, P.148b5, Ch.445b29.

【VS 3.6 **大果利** ('bras bu)】
2. dran pa nye bar gzhag pa bzhi bsgom pa de ni mchog tu khyad par du 'phags pa'i 'bras bur 'grub pa yin pas na 'bras bu che bar rig par bya'o | 364b4
復次。**修**四念住。所引功德。當知能感。最勝增上。究竟果故。名有**大果**。

mchog tu bde ba khyad par du 'phags pa'i phan yon 'grub par 'gyur bas na phan yon chen po yin bar rig par bya'o | 364b5
當知能感。最勝增上。樂勝利故。名有**大利**。
瑜伽師地論卷第九十七(T30, 861a)

(619)[57]

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、

1. evaṃ mayā śrutaṃ ekasmiṃ samaye

2. 佛在拘薩羅人間遊行。於私伽陀聚落北身怨林中。
佛は拘薩羅の人間に在りて、私伽陀聚落の北なる身怨林の中に遊行せり。

2. (Cf. MPS 8.4; 13.4) *bhagavān kośaleṣu caryāṃ caran*
**Sikatāgrāmakam anuprāpto*
**Sikatāgrāmake viharaty uttareṇa grāmasya śiṃśapāvane.*
[Mv. 1.317]
cārikāṃ caramāṇaḥ. ... yena kośalānāṃ ... nigamo tad avasāri tad anuprāpto tatraiva viharati anyatarasmiṃ vanaṣaṇḍe.
Cf. *sedakaṃ nāma sumhānaṃ nigamo. (SN.47.19)*

3. 爾時世尊告諸比丘。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

3. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

4. 過去世時有緣幢伎師。肩上竪幢語弟子言。
過去世の時に、縁難幢伎師有り。肩上に幢を竪て弟子に語りて言えり。

4. Cf. SN.47.19 *bhūtapubbaṃ bhikkhave, caṇḍālavaṃsiko caṇḍālavaṃsaṃ ussāpetvā medakathālikaṃ antevāsiṃ āmantesi:*

5. 汝等於幢上下向護我我亦護汝。迭相護持。遊行嬉戲。多得財利。
汝等、幢上に於いて下を向き、我れを護れ。我れも亦た汝を護らん。迭いに相護持し、遊行し嬉戲し、多く財利を得ん。

5. Cf. SN.47.19 *ehi tvaṃ samma medakathālike, caṇḍālavaṃsaṃ abhirūhitvā mama uparikkhandhe tiṭṭhāhīti. ...*

57 [Chung V-20], SN.47.19, Sedakam , V pp.168-169). Cf.『根本説一切有部毘奈耶藥事』巻七 (T24.32b); 経名等固有名詞については『国訳一切経　律部二十三』p.108 n.76; 八尾[2013] p.153; Chung n.14参照。以下の通り、まとめられる。

	村名	弟子名	師名
	*Sikatā / *Sikatin(八尾[2013])	-	-
雑阿619:	私伽陀	-	-
SN.47.19:	Sedaka	Medaka	-
薬事巻七:	斯迦底(bye ma can)	迷勒迦	阿吒羅

【VS 4.1 **邪師** (slob dbon)】
phyi rol gyi mu stegs can ni rang gi slob ma rnams kyi nang du slob dpon du rnam par 'jog ste | 364b6
有諸外道。於弟子衆。自立為師。

rnyed pa 'dod cing bkur sti 'dod nas rigs kyi bu bdag la phan par 'dod pa zhig der rkyen dang phrad nas rab tu byung ba la 'di skad du khyod tshur nga'i yo byad thams cad la thun mong du longs spyod cing 'dug la | 364b7
專求利養。專求恭敬。專求自利。遇緣和合。有族姓子。投其出家。因而謂曰。汝之與我。先無一切。資身衆具。可共受用。

khyod kyis nga'i bsngags pa gzhan dag la brjod cig | skyon yang 'di lta ste | bcab pa'i phyir srungs shig | das kyang khyod la de bzhin du bya'o | 364b8
汝應為我。往詣他處。褒讃我德。掩藏我失。我亦為汝。行如是事。

bdag cag gnyis gcig gis gcig la srungs na rgyal po nams dang zhang blon rnams nas ded dpon rnams kyi bar dag las rnyed pa thob par 'gyur la | bkur par yang 'gyur ro zhes zer la | 364b8
我等二人。迭相依護。當於諸王。若與王等。乃至一切。大商主邊。多獲利養。及以恭敬。

de skad言 zer ba'i slob dpon師 de la bdag la phan自利 par 'dod pa'i專求 slob mas弟子 'di skad du告言 de ltar ni lta bar mi bya勿為此見 ste | 365a1
若作是言。諸外道師。名專自利。然其弟子。便發抗言。勿為此見。

grogs pos bsrungs pas ni ngan 'gror 'gro ba'i nyes pa de dag las bdag nyid bsrung bar mi'gyur te | 365a2
如是護者。未名自護。往惡趣失。若防此失。乃名自護。

6. 時伎弟子語伎師言。不如所言。但當各各自愛護。遊行嬉戲。多得財利。身得無爲安隱而下。
時に伎弟子、伎師に語りて言えり。言う所の如くならず、但だ當に各各、自ら愛護し、遊行し嬉戲し、多く財利を得べし。身は無爲・安隱なるを得て、而して下りん。

6. Cf. SN.47.19 *evaṃ vutte bhikkhave, medakathālikā antevāsī caṇḍālavaṃsikaṃ etad avoca: "na kho nāmenaṃ ācariya, evaṃ bhavissati, tvaṃ ācariya, attānaṃ rakkha, ahaṃ attānaṃ rakkhissāmi. evaṃ mayaṃ attaguttā attarakkhitā sippāni ceva dassessāma, lābhañ ca lacchāma, sotthinā ca caṇḍālavaṃsā orohessāmā"ti.*

7. 伎師答言。如汝所言。各自愛護。
伎師、答えて言えり。汝の言う所の如く、各自愛護せよ。

8. 然其此義亦如我説。*己自護時即是護他。他自護時亦是護*己。
然かも其れ、此の義も亦た我が説の如し。己*[>已]の自ら護る時は即ち是れ他を護るなり。他の自ら護る時も亦た是れ己*[>已]を護るなり。

8. (*Śikṣāsamuccaya* 4, p.88[58])
paraṃ rakṣati, ātmānaṃ rakṣati, paralokaṃ rakṣati.

Cf. SN.47.19 a*ttānaṃ bhikkhave, rakkhanto paraṃ rakkhati. paraṃ rakkhanto attānaṃ rakkhati.*

9. 心自親近。修習隨護作證。是名自護護他。
心、自ら親近し、修習し護るに隨い證を作さば、是れ自ら護り他を護ると名づく。

9. Cf. SN.47.19 *kathañ ca bhikkhave, attānaṃ rakkhanto paraṃ rakkhati, āsevanāya bhāvanāya bahulīkammena. evaṃ kho bhikkhave, attānaṃ rakkhanto paraṃ rakkhati.*

10. 云何護他自護。不恐怖他。不違他不害他。慈心哀彼。是名護他自護。
云何が他を護り、自ら護る。他を恐怖せず、他に違わず、他を害せず、慈心もて彼を哀れむ。是れを他を護り自ら護ると名づく。

10. Cf. SN.47.19 *kathañ ca bhikkhave, paraṃ rakkhanto attānaṃ rakkhati, khantiyā avihiṃsāya mettacittatāya anuddayatāya. evaṃ kho bhikkhave, paraṃ rakkhanto attānaṃ rakkhati.*

11. 是故比丘。當如是學。自護者修四念處。護他者亦修四念處。
是れ故に、比丘、當に是の如く學すべし。自ら護る者は、四念處を修し、他を護る者も亦た四念處を修すべし。

11. Cf. SN.47.19 *"attānaṃ bhikkhave, rakkhissāmī"ti satipaṭṭhānaṃ sevitabbaṃ, paraṃ rakkhissāmīti satipaṭṭhānaṃ sevitabbaṃ,*

12. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

12. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

58 "Kṣitigarbhasūtre 'py āha".

6. de bas na khyod dang bdag gis kyang bdag nyid de ma yin pa zhig gis srung dgos so | 365a2
是故汝應。如前自護。我亦當自。別為餘護。

7. de ma yin pas bdag gis khyod bsrungs sam khyod kyis bdag bsungs na ni bsrungs na ni bsrungs par mi 'gyur ro zhes smras na | 365a3
我既不能護汝。汝亦不須護我。

don de la ni slob ma de nyid rigs par smra ba dang mkhas pa yin par rig par bya ste | tshe phyi ma ched cher 'dzin pa'i phyir ro | 365a3
於此義中。當知弟子。是如理語者。是聰慧者。重當來故。

slob dbon ni byis pa yin te | tshe 'di ched cher 'dzin pa'i phyir ro | 365a4
應知其師。是非理語者。是愚癡者。重現在故。

nyon mongs pa dang yang bcas pas na | gzhan la 'tho(D. tho) 'tsham par byed do | 365a4
復有雜染。觸惱於他。

des na nyon mongs pa dang bcas pa'i phyir bdag nyid kyang bsrungs pa ma yin la | 365a4
由雜染故。不能自護。

de'i rgyus gzhan la rnam par mtho btsams pas gzhan dag kyang bsrungs pa ma yin no | 365a5
因此惱他。不名護他。

9. de la snga ma bzhin du kun tu bsten pa la sogs pas ni 'di lta ste | bdag bsrungs pa'i phyir nyon mongs pa spang bar bya'o | 365a5
此中如前。由親近等。斷諸煩惱。名當自護。

10. de'i 'og tu de spong ba'i rgyu las byung ba gzhan la rnam par mtho(D. tho mi) 'tsham pa la sogs pas ni gzhan yang srung bar bya'o | 365a6
從此已後。由斷為因。不惱他等。名當護他。

de la khro ba mi skyed pa dang rnam par mi 'tshe ba gnyis ni rnam par mtho(D. tho) mi 'tsham pa'i don du rig par bya'o | 365a6
應知此中。無瞋無害。是無惱義。

rjes su snying brtse ba ni phan pa'i sems so | byams pa'i sems ni bde ba'i sems so | 365a7
無緣而起利樂二心。

rjes su snying brtse ba dang byams pa'i sems gnyis ni snying brtse ba'i don du rig par bya ste | 365a7
無緣而起。慈悲二心。當知如此是哀愍義。

snying brtse na gzhan la rnam par mtho 'tsham par mi 'gyur te | 365a7
由哀愍故。不惱於他。

de bas na 'de dag thams cad ni snying brtse ba'i rnam grangs su rig par bya'o | 365a8
是故當知。一切哀愍。與彼相違。

(620)[59]

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2a. 佛住王舍城迦蘭陀竹園。
佛は王舍城の迦蘭陀竹園に住せり。

2a. (NidSa 6.1)
bhagavān rājagṛhe viharati veṇuvane kalandakanivāpe |

2b. 爾時世尊告諸比丘。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

2b. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

3. 大雪山中。寒氷嶮處。尚無猨猴。況復有人。
大雪山の中の寒氷嶮しき處には、尚お猨猴すら無し。況んや復た人有らんや。

3. Cf. SN.47.7 *atthi bhikkhave, himavato pabbatarājassa duggā visamā desā, yattha n'eva makkaṭānaṃ cārī na manussānaṃ.*

4. 或復有山。猨猴所居。而無有人。
或いは復た山有り　猨猴の居る所にして而かも人有る無し。

4. Cf. SN.47.7 *atthi bhikkhave, himavato pabbatarājassa duggā visamā desā yattha makkaṭānañhi kho cārī na manussānaṃ.*

5a. 或復有山。人獸共居。
或いは復た山有り、人獸共に居り、

5a. Cf. SN.47.7 *atthi bhikkhave, himavato pabbatarājassa samabhūmibhāgā ramaṇīyā, yattha makkaṭānaṃ c'eva cārī manussānañca.*

5b. 於猨猴行處。獵師以黐膠塗其草上。
猨猴の行く處に於いて、獵師、黐膠を以て其の草の上に塗るに、

5b. Cf. SN.47.7 *tatra bhikkhave, luddā makkaṭavīthisu lepaṃ oḍḍenti makkaṭānaṃ bādhanāya,*

6. 有黠猨猴遠避而去。愚癡猨猴不能遠避。
黠有る猨猴は遠く避けて而して去るに、愚癡の猨猴は遠く避くる能わず。

6. Cf. *S*N.47.7 *tatra bhikkhave, ye te makkaṭā abālajātikā alola jātikā te taṃ lepaṃ disvā ārakā parivajjenti.*
yo pana so hoti makkaṭo bālajātiko lolajātiko so taṃ lepaṃ upasaṅkamitvā

59 [Chung V-21], SN.47.7, Makkaṭo (V pp.148-149). Cf.『大般涅槃經』(No.374/375) 卷25/ 卷23 (T12, 517a8-23/761a17-b5);『佛本行集經』卷14 (T3, 717 c14);『大寶積經』卷80 (T11, 464c22-23);『大乘寶雲經』卷2 (T16, 248b13);『觀普賢菩薩行法經』卷1 (T9, 392c6-10); *Śikṣāsamuccaya* (ed. Bendall) p.77.

【VS 4.2 **住雪山**(gangs ri 'dzud pa)】

3. legs par gsungs pa'i chos 'dul ba ni gangs kyi ri lta bu yin bar rig bar bya'o應知 | 365a8
復次應知。**雪山**喻。佛善説法毘奈耶

de la yang cha gsum yod de | 365a8
此中略有。三分可得。

mi slob pa'i sa dang slob pa'i sa dang | 365a8
一。無學地。二。有學地。

so so'i skye bo'i sa'o | 365b1
三。異生地。

tshul bzhin ma yin pa'i yid la byed pa dang ldan pa'i sems ni spre'u lta bu'o 喻 | 365b1
猨猴喻。彼非理作意。諸相應心。

bdud ni rngom(D. rngon) pa lta bu'o 喻 | 365b1
獵人喻**魔**。

de la mi slob pa'i sa la ni gnyis ka'i gnas med do | 365b1
於無學地。俱不能行。

slob pa'i phyir mi 'ong ba rnams la ni tshul bzhin ma yin pa yid la byed pa dang ldan pa'i sems spre'u lta bu喻 gcig gi gnas ni yod la | 365b1
於有學地。乃至不還。唯有非理作意相應。 **猨猴**喻心。獨一能往。

bdud rngon pa lta bu'i ni med do | 365b2
非**獵人**喻。**魔**所能行。

so so'i skye bo'i sa la ni gnyis ka'i gnas yod par rig par bya'o | 365b2
於異生地。二俱能行。

de la byis pa ni yul gzhan gyis yul gzhan las nges par 'byung bar blta ste | 365b2
又**諸愚夫**。要觀餘境。能出餘境。

yul gzhan yongs su tshol ba na yang yul gzhan gis bcings par 'gyur te | 365b2
追求餘境。餘境所縛。

de bas na yul las kyang yongs su grol bar mi 'gyur ro | 365b3
是故於境。不得解脱。

7. 以手小觸即膠其手。復以二手。欲解求脱。即膠二手。
手を以て小し觸るれば即ち其の手に膠き、復た二の手を以て解きて脱することを求めんと欲すれば、即ち二の手に膠き、

7. Cf. SN.47.7 *hatthena gaṇhāti. So tattha bajjhati. Hatthaṃ mocessāmīti dutiyena hatthena gaṇhāti, so tattha bajjhati. Ubho hatthe mocessāmīti.*

8. 以足求解。復膠其足。以口噛草。輒復膠口。五處同膠。聯捲臥地。
足を以て解くことを求むれば、復た其の足に膠き、口を以て草を噛むに、輒ち復た口に膠き、五處同じく膠き、聯捲して地に臥せり。

8. Cf. SN.47.7 *pādenana gaṇhāti, so tattha bajjhati. ubho hatthe mocessāmīti pādaṃ cāti dutiyena pādena gaṇhāti, so tattha bajjhati. Ubho hatthe mocessāmi pāde cāti tuṇḍena gaṇhāti, so tattha bajjhati.*
evaṃ hi so bhikkhave, makkaṭo pañcuḍḍito thanaṃ seti anayaṃ āpanno vyasanaṃ āpanno.

9. **獵師**既至。即以**杖**貫。擔負而去。
獵師、既に至り、即ち杖を以て貫き、擔ぎ負いて而して去る。

9. SHT IV 162 d 8 V(?)1[60]
///.. **lubdhaḥ kaṣṭhaka[ḍ]**[61]
Cf. SN.47.7 *tam enaṃ bhikkhave, luddo vijjhitvā tasmiṃ yeva makkaṭaṃ uddharitvā avissajjetvā yena kāmaṃ pakkamati.*

10. 比丘當知。愚(T2,173c) 癡猨猴。捨自**境界父**母居處。遊他境界。致斯苦惱。
比丘、當に知るべし。愚癡の猨猴は、自らの境界・父母の居處を捨て、他の境界に遊び、斯の苦惱を致すことを。

10. ///(**pa**i)[**t**](**ṛ**)**kaṃ viśayam**=a
Cf. SN.47.7 *evaṃ hitaṃ bhikkhave, hoti yo agocaro carati paravisaye.*

11. 如是比丘。愚癡凡夫。依聚落住。晨朝著衣持鉢。入村乞食。
是の如く、比丘、愚癡の凡夫は、聚落に依りて住し、晨朝に衣を著け鉢を持ち、村に入り、乞食するに、

11. *evam eva bhikṣavaḥ,*
... pṛthagjanaḥ ...
pūrvāhṇe nivasya pātracīvaram ādāya grāmaṃ piṇḍāya prāviśat,

60 細田典明「『雑阿含経』道品のサンスクリット断片－Kat.-Nr.162について－」『印度哲学仏教学』第16号, p.31.
61 SHT IVでは"kaṣṭhaka(ṇ)[ḍ]" と読むが(cf.p.106,n.23)、M.Schmidtによって訂正された。Cf. SHT VII p.240, SWTF II p.41b, p.74a.

12. 不善護身。不守根門。眼見色已。則生染著。耳聲鼻香舌味身觸。皆生染著。
善く身を護らず、根門を守らず、眼の色を見已われば、則ち染著を生じ、耳の聲・鼻の香・舌の味・身の觸、皆な染著を生ず。

12. Cf. SN.47.7 *ko ca bhikkhave, bhikkhuno agocaro paravisayo: yadidaṃ pañcakāmaguṇā. katame pañca: cakkhuviññeyyā rūpā iṭṭhā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasaṃhitā rajanīyā. sotaviññeyyā saddā iṭṭhā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasaṃhitā rajanīyā. ghānaviññeyyā gandhā iṭṭhā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasaṃhitā rajanīyā. jivhāviññeyyā rasā iṭṭhā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasaṃhitā rajanīyā. kāyaviññeyyā phoṭṭhabbā iṭṭhā kantā manāpā piyarūpā kāmūpasaṃhitā rajanīyā. ayaṃ bhikkhave, bhikkhuno agocaro paravisayo.*

13. 愚癡比丘内根外境。被五縛已。隨魔所欲。
愚癡の比丘は、内根・外境の五に縛られ已わりて、魔の欲する所に隨う。

14. 是故比丘。當如是學。於自所行處父母境界。依止而住。莫隨他處他境界行。
是れ故に、比丘、當に是の如く學すべし。自ら行ずる所の處・父母の境界に於いて、依止して而して住し、他處・他の境界に隨い行ずる莫きことを。

14. Cf. SN.47.7 g*ocare bhikkhave, caratha sake pettike vīsaye. gocare bhikkhave, caratam sake pettike visaye na lacchati māro otāraṃ, na lacchati māro ārammaṇaṃ.*

15. 云何比丘。自所行處父母境界。
云何が比丘、自ら行ずる所の處・父母の境界なる。

15. Cf. SN.47.7 *ko ca bhikkhave, bhikkhuno gocaro sako pettiko visayo:*

16. 謂四念處。身身觀念住。受心法法觀念住。
謂わく、四念處なり。身の身觀念に住し、受・心・法の法觀念に住するなり。

16. yad uta catvārī*māni bhikṣavaḥ* smṛtyupasthānāni. kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

17. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

17. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

(621)[62]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.

2. 時尊者阿難與衆多比丘。詣世尊所。稽首禮足。退坐一面。尊者阿難白佛言。
時に尊者阿難は、衆多の比丘と與に、世尊の所に詣りて、稽首し足に禮して、退きて一面に坐せり。尊者阿難、佛に白して言わく。

2. (MSV III-1[= Bhaiṣajyavastu], 48) ath*āyuṣmān ānando saṃbahulair bhikṣubhiḥ sārdham* yena bhagavāṃs tenopasaṃkrāntaḥ. upasaṃkramya bhagavataḥ pādau śirasā vanditvaikānte nyaṣīdat. ekāntaniṣaṇṇo *āyuṣmān ānando* bhagavantam idam avocat.[64]

3. 世尊。此**諸年少比丘**當云何教授。云何爲其説法。
世尊。此の諸の年少比丘は當に云何が教授し、云何が其の為に説法すべき。

3-4. Cf. SHT V 1036 R5
anya(ta)ro **bhikṣu navo daha(raḥ)** *acirapravrajitaḥ acirāgato=smin=dharmavinaye.*

4. 佛告阿難。此諸年少比丘當以四念處。教令修習。
佛は阿難に告げたり。
此の諸の年少比丘は當に四念處を以て教え、修習せ令むべし。

Cf. SN.47.4 *Ye te bhikkhave,* ***bhikkhū navā*** *acirapabbajitā adhunāgatā imaṃ dhammavinayaṃ, te vo bhikkhave, bhikkhū catunnaṃ satipaṭṭhānānaṃ bhāvanāya samādapetabbā, nivesetabbā patipaṭṭhāpetabbā.*

5a. 云何爲四。謂身身觀念住。
云何が四と為す。謂わく、身の身觀念に住し、

5a. katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati.

5b. 精勤方便。不放逸行。正智正念。寂*定於心。乃至知身。[63]
精勤し方便して、放逸せずに行じ、正智・正念もて心を寂靜*[<定]し、乃至、身を知る。

5b. *ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān.*

5c. 受心法法觀念住。精勤方便。不放逸行。正念正智。寂靜於心。乃至知法。
受・心・法の法觀念に住し、精勤し方便して、放逸せずに行じ、正念・正智もて心を寂靜し、乃至、法を知る。

5c. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān.

---

62 [Chung V-22], SN.47.4, Sallam (V pp. 144-145).
63 定型句には以下の二例があり、漢訳と逐語的には対応しない。

	精勤方便。	**不放逸行。**	**正智正念。**	**寂定於心。**
(I)	ātāpī	—	saṃprajānaḥ smṛtimān/pratismṛtaḥ	—
(II)	eko vyapakṛṣṭo 'pramatta ātāpī	—		prahitātmā

64 Cf. Chung, p.314 (第15経のサンスクリット文).

【VS 4.3(1) **勸勉** (brtun)】
dam pa'i chos nyan pa dang | 'chang ba dang | don rtogs pa dang | 365b4
復次。由於正法聽聞受持。觀察義理。

chos kyi rjes su mthun pa'i chos la nan tan du sgrub pa rnams kyis ni 'dzud pa dang 'dul ba dang gzhag pa dang dgod pa'i don du go rim bzhin du rig par bya'o | 365b4
法隨法行。如其次第。應知。勸。化。安。立。四義。

chos gsum gyis ni 'khrig pa'i 'dod chags kyis kun nas dkris pa rgya chen po yang spong bar 'gyur na | 365b4
復有三法。尚能斷餘。一切勝妙。婬欲貪纏。

'dod pa'i 'dod chags kyis kun nas dkris pa ngan pa lta ci smos te | 365b5
況乎鄙劣。諸欲貪纏。

gsum gang zhe na | 365b5
何等為三。

brtson 'grus kyi stobs dang | 365b5
一。精進力。

bag yod pa'i stobs dang | 365b6
二。不放逸力。

gnyen po'i stobs力 so | 365b6
三。對治力。

6. 所以者何。若比丘。住學地者。未得進上。志求安隱涅槃時。
所以は何。若しくは比丘にして學地に住する者、未だ進上を得ずして、安隱の涅槃を志求する時、

6. tat kasmād dhetoḥ.
(SBV II 146) yo 'sau *bhadanta* bhikṣur bhavati śaikṣa asaṃprāptamānasaḥ sa uttaraṃ yogakṣemaṃ nirvāṇam abhiprārthayamāna*rūpo bahulaṃ* viharati;

7. 身身觀念住。精勤方便。不放逸行。正念正智。寂靜於心。受心法。法觀念住。精勤方便。不放逸行。正念正智。寂靜於心。乃至於法遠離。
身の身觀念に住し、精勤し方便して、放逸せずに行じ、正念・正智もて心を寂靜し、受・心・法の法觀念に住し、精勤し方便して、放逸せずに行じ、正念・正智もて心を寂靜し、乃至、法に於いて遠離す。

7. kāye kāyānupaśyī viharati.
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān...(cf. 5b,c)

vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān...(cf. 5b,c)
Cf. SN.47.4 *kāyānupassino viharatha, ātāpino sampajānā ekodibhūtā vippasannacittā samāhitā ekaggacittā kāyassa yathābhūtaṃ ñāṇāya.*
vedanāsu citte dhammesu dhammānupassino viharatha, ātāpino sampajānā ekodibhūtā vippasannacittā samāhitā ekaggacittā dhammānaṃ yathābhūtaṃ ñāṇāya. ... dhammehi visaṃyuttā.

8. 若阿羅漢。諸漏已盡。所作已作。捨諸重擔。盡諸有結。正知善解脫。
若しくは阿羅漢にして、諸漏已に盡き、所作已に作し、諸の重擔を捨て、諸の有結を盡くし、正知にして善く解脫せるも、

8. (SBV II 146) so 'pareṇa samayena āsravāṇāṃ kṣayād anāsravāṃ cetovimuktiṃ prajñāvimuktiṃ dṛṣṭa eva dharme svayam abhijñayā sākṣātkṛtva upasaṃpadya pravedayate; kṣīṇā me jāti, uṣitaṃ brahmacaryaṃ; kṛtaṃ karaṇīyaṃ; nāparam asmād bhavaṃ prajānāmi iti;

9. 當於彼時。亦**修**身身觀念住。精勤方便。不放逸行。正念正智。寂靜於心。受心法。法觀念住。乃至於法得遠離。
彼の時に當たり、亦た身の身觀念に住するを修し、精勤し方便して、放逸せずに行じ、正念・正智もて心を寂靜し、受・心・法の法觀念に住し、乃至、法に於いて遠離を得る。

9. kāye kāyānupaśyī viharati.
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān...(cf. 5b,c)
vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.
ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān...(cf. 5b,c)

10. 時尊者阿難歡喜(T2,174a)隨喜。作禮而去
時に尊者阿難、歡喜隨喜して、禮を作し而して去れり。

10. *athānando bhagavato bhāṣitam abhyānandyānumodya bhagavataḥ pādau śirasā vanditvā bhagavato 'ntikāt prakrāntaḥ.*

(622)[65]

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. 佛在跋祇人間遊行。到鞞舍離國菴羅園中住。
佛は跋祇の人間に在りて遊行し、鞞舍離國の菴羅園の中に到りて住せり。

2. MPS10.3 (atha bhagavān vṛjiṣu janapade)ṣu caryāṃ caran vaiśālim anuprāpto vaiśālyāṃ viharaty āmra(pālivane ‖)

3. 爾時菴羅女聞世尊跋祇人間遊行至菴羅園中住。
爾の時、菴羅女、世尊の跋祇の人間に遊行し菴羅園の中に至りて住するを聞き、

3. (aśrauṣīd āmrapālir gaṇikā ‖ bhagavāṅ gautamo vaiśālīm anu)prāpto vaiśālyāṃ viharaty asmākam evāmravane ‖

4. 即自莊嚴乘車。出鞞舍離城。詣世尊所。恭敬供養。詣菴羅園門。下車步進。
即ち自ら乘車を莊嚴し、鞞舍離城を出で、世尊の所に詣り『恭敬し供養せん』と、菴羅園の門に詣りて、車を下り歩み進み、

4. MPS10.6 tasyā yāvad yānabhūmis tāvad yānena g(atvā yānād avatīrya padbhyām eva yena bhagavāṃs tenopasaṃkrāntā ‖)

5. 遥見世尊與諸大衆圍遶説法。世尊遥見菴羅女來。語諸比丘。
遥かに世尊の諸の大衆の與に圍遶せられ説法せるを見たり。世尊、遥かに菴羅女の來たるを見、諸の比丘に語りき。

5. (adrākṣīd bhagavān anekaśatabhikṣuparivāre sannisaṇṇa āmrapāliṃ dūrād āgacchantīṃ) dṛṣṭv(ā) ca puna(r) bh(i)kṣūn āmantrayate ‖

65 [Chung V-23], SN.47.1, Ambapāli (V pp.141-142).

6. 汝等比丘。勤攝心住。正念正智。今菴羅女來。是故誡汝。云何爲比丘勤攝心住。
汝等、比丘、勤めて心を攝し住して、正念・正智なれ。今、菴羅女來たる。是れ故に、汝を誡めよ。云何が比丘、勤めて心を攝し住すと爲す。

6. MPS10.8 ātāpino bhikṣavo viha(rata saṃprajānāḥ pratismṛtāḥ ‖ āmrapālir gaṇikātrāgatā ‖)
MPS10.9 (kathaṃ ca bhikṣur ātā)pī bhavati ‖

7. 若比丘。已生惡不善法當斷。生欲方便。精進攝心。
若し比丘、已に生ぜし惡不善法は當に斷ずべし。欲を生じ方便もて精進し心を攝し、

7. MPS10.10-1 iha bhikṣur utpannānāṃ pāpakānām akuśalānāṃ dharmāṇ(āṃ prahāṇāya cchandaṃ janayati vyāyacchate vīryam ārabhate cittaṃ pragṛhṇāti pradadhāti ‖)

8. 未生惡不善法不令起。
未だ生ぜざる惡不善法は起こら令めず、

8. MPS10.10-2 (a)nutpannānāṃ pāpakānām akuśalānāṃ dharmāṇām anutpād(āya *cchandaṃ janayati pūrvavat* ‖

9. 未生善法令生。
未だ生ぜざる善法は生ぜ令め、

9. anutpannānāṃ kuśalānāṃ dharmāṇām utpādāya *cchandaṃ jana)yati pūrvavat* ‖

10. 已生善法令住不忘。修習增滿。生欲方便。精勤攝心。
已に生ぜし善法は住して忘れざら令め、修習は增滿し、欲を生じ方便もて精勤し心を攝せば、

10. utpannānāṃ kuśalānāṃ dharmāṇāṃ sthitaye 'saṃpramoṣāya (bhāvanāparipūraye bhūyobhāvavṛddhivipulatāyai cchandaṃ janayati pūrvavat ‖

11. 是名比丘勤攝心住。
是れを比丘の勤めて心を攝し住すと名づく。

11. MPS10.10-3 ayaṃ) bh(i)kṣur ātāpī bhavati ‖

(Śbh II 176)[66]
7. utpannānāṃ pāpakānām akuśalānāṃ dharmāṇāṃ prahāṇāya, cchandaiḥ janayati vyāyacchate vīryam ārabhate cittaṃ pragṛhṇāti pradadhāti.
一。於已生惡不善法為令斷故。生欲策勵發勤精進。策心持心。

【VS 4.3(2)**勸勉** (brtun)】
7. de la brtson 'grus kyi stobs kyis ni skyes pa rnams, dang du mi len to | 365b6
由精進力。其已生者。**令不堅住**。

8. anutpannānāṃ pāpakānām akuśalānāṃ dharmāṇām anutpādāya,
二。於未生惡不善法為不生故。生欲策勵發勤精進。策心持心。

8. gnyis kyis ni ma skyes pa mi skye bar byed do | 365b6
由餘二力。其未生者。**令不得生**。

9. anutpannānāṃ kuśalānāṃ dharmāṇām utpādāya,
三。於未生善法為令生故。生欲策勵發勤精進。策心持心。

de ltar na rnal 'byor pa de ni skyes pa rnams spang ba dang | ma skyed (D. skyes) pa rnams mi skyed pa'i phyir zhugs pa yin no | 365b6
如是行者。勤修正行。為欲斷除。已生惡故。及未生者。**令不生**故。

10. utpannānāṃ kuśalānāṃ dharmāṇām sthitaye 'saṃmoṣāya bhāvanāparipūraye bhūyobhāvavṛddhi-vipulatāyai chandaṃ janayati vyāyacchate vīryam ārabhate cittaṃ pragṛhṇāti pradadhāti.
四。於已生善法為欲令住令不忘失。令修圓滿令倍修習。令其增長令其廣大。生欲策勵發勤精進。策心持心。

66 -II-12-b Ms.84b7M, Sh.288-19, W.*97-1, P.131a5, Ch.439c18. cf. Śbh II 200-209 (-II-12-b-(2)「四正断」).

12. 云何名比丘正智。若比丘去來威儀。常隨正智。迴顧視瞻。屈伸俯仰。執持衣鉢。
云何が比丘の正智と名づく。若し比丘の去來する威儀、常に正智に隨い、迴顧視瞻し、屈伸・俯仰し、衣鉢を執持し、

12. MPS10.11 kathañ ca bhikṣuḥ saṃprajāno bhavati ‖
MPS10.12-1 iha bhi(kṣur abhikrānte pratikrānte saṃprajāno bhavaty ālokite vilokite saṃmiñjite prasāri)t(e) saṃghāṭīcīvarapātradhāraṇe

13. 行住坐臥。眠覺語默。皆隨正智住。是正智。
行住坐臥、眠覺語默、皆な正智に隨い住すれば、是れ正智なり。

13. MPS10.12-2 gate sthite niṣaṇṇe śayite jāgarite (bhāṣite tūṣṇīṃbhāve supte śrame viśrame saṃprajāno bhavati ‖ ayaṃ bhikṣur saṃprajā)no bhavati ‖

14. 云何正念。
云何が正念なる。

14. MPS10.13 kathañ ca bhikṣuḥ pratismṛto bhavati ‖

15. 若比丘。内身身觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。
若し比丘、内身の身觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、

15.MPS10.14-1 iha bhikṣur adhyātmaṃ kā(ye kāyānupaśyī viharaty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam ‖ bahirdhā kā)ye 'dhyātmabahirdhā kāye

16. 如是受心法。法觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。是名比丘正念。
是の如く、受・心・法の法觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏すれば、是れ比丘の正念と名づく。

16. MPS10.14-2 'dhyātmaṃ vedanāsu bahirdhā vedanāsv (adhyātmabahirdhā vedanāsv adhyātmaṃ citte bahirdhā citte 'dhyātmabahirdhā citte 'dhyātmaṃ dharme)ṣu bahirdhā dharmeṣv adhyātmabahirdhā dharmeṣu dharmānupaśyī vi(haraty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam ‖ ayaṃ bhikṣuḥ prati)smṛto bhavati ‖

17. 是故汝等勤攝其心。正智正念。今菴羅女來。是故誡汝。
是れ故に、汝等、勤めて其の心を攝し、正智・正念なれ。今、菴羅女來たる。是れ故に、汝を誡めよ。

17. MPS10.15 ātāpino bhikṣavo viharata saṃprajānāḥ pra(tismṛtāḥ ‖ āmrapālir gaṇikātrāgatety eva mayākhyāta)m ‖

18. 時菴羅女詣世尊所。稽首禮足。却住一面。
時に、菴羅女、世尊の所に詣りて、稽首し、足に禮して、却って一面に住せり。

19. 爾時世尊爲菴羅女。種種説法。示教照喜。示教照喜已。默然而住。
爾の時、世尊、菴羅女の爲に、種種に説法し、示教照喜し、示教照喜し已わり、默然とし而して住せり。

20. 爾時菴羅女整衣服。爲佛作禮合掌白佛。
爾の時、菴羅女、衣服を整え、佛の爲に禮を作し合掌して佛に白せり。

21. 唯願世尊與諸大衆。明日受我請中食。
唯だ願わくば、世尊、諸の大衆と與に、明日、我れに中食を請うことを受けたまえ。

22. 爾時世尊默然受請。菴羅女知世尊默然受請已。稽首禮足。還歸自家。
爾の時、世尊、默然として請いたるを受けたり。菴羅女、世尊の默然として請いたるを受けたるを知り已わり、稽首し、足に禮して、還って自家に歸り、

23. 設種種食。布置床座。晨朝遣使。白佛時到。
種種の食を設け、床座を布置し、晨朝に使を遣わし、佛に時の到れるを白せり。

18. MPS10.16 ath(ā)mrap(ā)lir yena bhagavāṃs tenopajagāma ‖ upetya bhagavatpādau śi(rasā vanditvaikānte nyaṣīdat ‖)

19. MPS10.17 (ekāntaniṣaṇṇām āmrapāliṃ bhagavān dhārmyā kathayā) *pūrvavad yāvat* saṃpraharṣayitvā tūṣṇīm abhūt ‖

20. MPS10.18 atha āmrapāli(r utthāyāsanād yena bhagavāṃs tenāñjaliṃ praṇamya bhagavantam idam avocat ‖)

21. MPS10.19 (adhivāsa)yatu me bhagavā(ñ) śvo bhaktena sārdh(aṃ) bhikṣu(samghena ‖)[67]
(SHT II 399 Bl.(168) V 1)

22. MPS10.20 (adhivāsayati bhagavāṃ tūṣṇīṃbhāvena ‖ atha āmrapālir bhagavatas tūṣṇīṃbhāvenādhivāsanāṃ viditvā) bhagavatpādau śirasā vanditvā bhagavato ('ntikāt prakrāntā ‖)
(SHT II 399 Bl.(168) V 1-2)

23. MPS12.1 (athāmrapālis tām eva rātriṃ śuciṃ praṇītaṃ khādanīyabhojanīyaṃ samudānīya kālyam evotthāya āsanakāni prajña)pya udakamaṇiṃ pratiṣṭhāpya bha(gavato dūtena kālaṃ āroc̣ayati ‖)
(SHT I 425 V 1)+(SHT II 399 Bl.169 R5)

MPS12.2 (samayo bhadanta (<bho gautamo) sadyo bhaktaṃ yasyedānīṃ bhavāṅ gautamaḥ kālaṃ manyate ‖)
(SHT I 425 V 1)

67 MPS公刊後、SHT I 425; II 399に残る文([ ]を含む)をアンダーラインで示し、MSPの還梵が異なる文は(<)の中に収める。二重線は両者(SHT I 425とII 399)に合致する箇所。

24. 爾時世尊與諸大衆。詣菴羅女舍。就座而坐。
爾の時、世尊、諸の大衆と與に、菴羅女の舍に詣り、座に就き而して坐せり。

24. MPS12.3 (atha bhagavān pūrvāhṇe nivasya pā)tracīvaram ādāya bhikṣusamghapa(rivṛto bhikṣusaṃghapuraskrto yenāmrapālyā gaṇikāyā bhaktābhisāras tenopajagāma ‖ upetya purastād bhikṣusaṃghasya prajñapta evāsane nya)ṣīdat ‖
(SHT I 425 V 2-3)+(SHT II 399 Bl.169 R6)

25. 時菴羅女手自(T2,174b)供養種種飲食。食訖澡漱洗鉢竟。
時に、菴羅女、手自から種種の飲食を供養せり。食べ訖え澡漱し鉢を洗い竟わりぬ。

25. MPS12.4 athāmrapālih sukhopaniṣaṇṇaṃ buddhapramukhaṃ bhikṣusaṃghaṃ viditvā śu(cin)ā praṇīte(na khādanī)yabhojanīyena svahastaṃ santarpayati sampravārayati ‖ śucinā praṇītena khādanīyabhojanīyena svahastaṃ santarpayitvā saṃpravārayitvā
(SHT I 425 V 3-4)

26. 時菴羅女持一小床。坐於佛前。聽佛説法。
時に菴羅女、一小床を持ち、佛の前に坐し、佛の説法を聽けり。

26. MPS12.5 bhagavantaṃ bhuktav(an)t(aṃ) viditvā dhautahastam apanītapātram nīcatarakam āsanaṃ gṛhītvā bhagavataḥ purato niṣaṇṇā dharmaśravaṇāya ‖
(SHT I 425 V 5)

27. 爾時世尊爲菴羅女。説隨喜偈
爾の時、世尊、菴羅女の爲に、隨喜の偈を説けり。

27. MPS12.6 atha bhagavān āmrapālyās tad dānam anayābhyanumodanayābhyanumodate ‖
(SHT I 425 V 6)

28. 施者人愛念。多衆所隨從。名稱日增高。遠近皆悉聞。處衆常和雅。離慳無所畏。
施す者は、人愛念す。多くの衆の隨從する所にして、名稱は日に增高し、遠近に皆な悉く聞こゆ。衆に處するに常に和雅にして、慳を離れ畏るる所無し。

28. MPS12.7 dadat priyo bhavati bhajanti taṃ janāḥ, kīrtiṃ samāpnoti yaśaś ca vardhate ‖
ama(d)gu(bhū)taḥ pariṣadaṃ vigāhate, viśārado bhavati naro hy amatsarī | 1
(SHT I 425 V 5-R 1)

29. 是故智慧施。斷慳永無餘。上生忉利天。長夜受快樂。
是れ故に、智慧を施すに、慳を斷じ永く餘無し。上は忉利天に生じ、長夜に快樂を受く。

30. 盡壽常修德。娛樂難陀園。百種諸天樂。五欲悅其心。彼於此人間。聞佛所說法。爲善逝弟子。樂彼受化生。
壽を盡くすまで常に德を修し、難陀園に娛樂す。百種の諸の天樂、五欲は其の心を悅ばす。彼は此の人間に於いて、佛の說く所の法を聞き、善逝の弟子と爲り、彼の化を受くる生を樂う。

31. 爾時世尊爲菴羅女。種種說法。示教照喜。示教照喜已。從座起而去
爾の時、世尊、菴羅女の爲に、種種に說法し、示教照喜し、示教照喜し已わり、座より起ち而して去れり。

29. MPS12.8 tasmād dhi dāṇāni dadati paṇḍitā, vinīya mātsaryam alaṃ sukhaiṣiṇaḥ ‖
te dīrgharātraṃ tridaśe pratiṣṭhitā,
deṿānām svabhāvagatā ramanti t(e) | 2
(SHT I 425 R 1-2)

30. MPS12.9 kṛtāyuṣāh kṛtakuśalā itaś cyutāḥ, svayaṃprabhā anuvicaranti nandane ‖
(te) tatra krīḍanti ramanti cobhayaṃ,
samarpitāḥ kāmaguṇais tu pañcabhiḥ ‖
śrutveha vākyam asitasya tāyinaḥ,
svarge ramante sugatasya śrāvakāḥ | 3
(SHT I 425 R 2-3)

31. MPS12.10 atha bhagavān āmrapāli (ṃ) dhārmy(ā) kathayā sandarśayitvā samādāpayitvā samuttejayitvā saṃpraharṣayitvotthāyāsanāt prakrāntaḥ ‖
(SHT I 425 R 4)

(623)[68]

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. 佛住波羅奈仙人住處鹿野苑中。
佛は波羅奈の仙人住處、鹿野苑の中に住せり。

2. bhagavān vārāṇasyāṃ viharati ṛṣivadane mṛgadāve | [_Mvu_3.330_]

3. 爾時世尊告諸比丘。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

3. Śrāvakabhūmi (Sh.417,12-19)[69]
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate. idaṃ cālambanaṃ saṃdhāyoktaṃ bhagavatā.
世尊依此所緣境相密意説言。

4. 世間言美色。世間美色者。能令多人集聚觀看者不。
世間に美色を言う。世間の美色とは、能く多人をして集聚し觀看せ令むる者なるや不や。

4. janapadakalyāṇī janapadakalyāṇīty bhikṣavo [janaḥ saṃnipatena |]
汝等苾芻當知衆善。言衆善者。謂於大衆共集會中盛壯美色。

5. 諸比丘白佛。如是世尊。佛告比丘。
諸の比丘は佛に白せり。「是の如し、世尊」と。佛は比丘に告げたり。

5. *(bhikṣava ūcuḥ: evaṃ bhadanteti | bhagavān āha.)*

6. 若世間美色。世間美色者。又能種種歌舞伎樂。復極令多衆聚集看不。
若し世間に美色あらば、世間の美色とは、又た能く種種に歌舞伎樂し、復た極めて多衆をして聚集し看せ令むるや不や。

6. [sā khalu janapadakalyāṇī paramapradhānā nṛttagītavādita iti] mahājanakāyaḥ saṃnipateta.
即此衆善最殊勝者。謂於多衆大集會中歌舞倡伎。

7. 比丘白佛。如是世尊。佛告比丘。
比丘は佛に白せり。「是の如し、世尊」と。佛は比丘に告げたり。

7. *(bhikṣava ūcuḥ: evaṃ bhadanteti | bhagavān āha.)*

68 SN.47.20, Janapada (V pp.169-170).
69 Wayman[1969] p.122-124: S12A.6-7a; T154a-5; C460c21-.

8. 若有世間美色。世間美色者。在於一處。作種種歌舞伎樂戲笑。復有大衆雲集一處。
若し世間に美色有らば、世間の美色とは、一處に在りて、種種の歌舞伎樂戲笑を作す。復た大衆の一處に雲集する有り。

8. *sā khalu janapadakalyāṇī paramapradhānā nṛttagītavādita iti] mahājanakāyaḥ saṃnipateta.*

9. 若有士夫不愚不癡。樂樂背苦。貪生畏死。
若し士夫の愚ならず癡ならずして、樂を樂い苦に背き、生を貪り死を畏るる有らば、

9. atha puruṣa āgacched abālajātīyaḥ.
假使有一智慧丈夫。
atha puriso āgaccheyya jīvitukāmo amaritukāmo sukhakāmo dukkhapaṭikkūlo.

10. 有人語言。士夫汝當持**滿油鉢**。於世間美色者所及大衆中過。
人有り、語りて言わく。「士夫、汝は當に油を滿たせる鉢を持ち、世間に於いて美色なる者の所、及び大衆の中を過ぐべし。

10. taṃ kaścid eva vaded idaṃ te bhoḥ puruṣa **tailapātrapūrṇaṃ** samatittikam anabhiṣekyam antarā ca [janakāyaḥ sannipateta | sā khalu] janapadakalyāṇīm[70] antarā ca mahasamājaṃ parihartavyam
從外而來告一人曰。咄哉男子。汝於今者可持如是平**滿鉢油**勿令灩溢。經歷如是大衆中過當避其間所有衆善及諸最勝歌舞倡伎大等生等。

11. 使一能殺人者。拔刀隨汝。若失**一*滴油**者。輒當*斬汝命。
一の能く人を殺す者をして、刀を拔き汝に隨わ使めん。若し一滴*[<滴]の油を失わば、輒ち當に汝の命を斷*[<斬]ずべし」。

11. ayaṃ ca te utkṣiptāsiko vadhakapuruṣaḥ pṛṣṭhataḥ pṛṣṭhataḥ samanubaddhaḥ. sacet tvam asmāt **tailapātrād ekabindum** api pṛthivyāṃ nipātayiṣyasi. tatas te utkṣiptāsiko vadhakapuruṣa ucchinnamūlaṃ śiraḥ prapātayiṣyati.
今有魁膾露拔利劍隨逐汝行。若[<苦]汝**鉢油一滴**墮地。此之魁膾即以利劍。當斬汝首斷汝命根。

70 [MS : janapadaṃ kalyāṇīm]

12. 云何比丘。彼持**油鉢**士夫。能不念油鉢。不念殺人者。觀彼伎女及大衆不。
云何が比丘、彼の油の鉢を持てる士夫は、能く油の鉢を念わず、殺す人を念わずして、彼の伎女、及び大衆を觀るや不や。

12. kiṃ manyadhve bhikṣavaḥ. api tu sa puruṣaḥ amanasikṛtvā **tailapātram** amanasikṛtvā utkṣiptāsikaṃ vadhakapuruṣaṃ janapadakalyāṇī(ṃ) manasikuryān mahāsamājaṃ vā[71]
苾芻汝等於意云何。是持鉢人頗不作意專心油鉢拔劍。魁膾不平地等。而能作意觀視衆善及諸最勝歌舞倡伎大等生耶。

13. 比丘白佛。不也世尊。所以者何。世尊。彼(T2,174c)士夫自見其後。有拔刀者。常作是念。
比丘は佛に白せり。「不なり、世尊。所以は何。世尊、彼の士夫、自ら其の後を見るに、刀を拔く者有ればなり。常に是の念を作す。

13. no bhadanta tat kasya hetos tathā hi tena puruṣeṇotkṣiptāsiko vadhakapuruṣaḥ pṛṣṭhataḥ pṛṣṭhataḥ samanubaddho dṛṣṭaḥ. tasyaivaṃ syāt.
不也。世尊。何以故。是持鉢人既見魁膾露拔利劍隨逐而行。極大怖畏專作是念。

14. 我若落**油一滴**。彼拔刀者。當截我頭。唯一其心繫念油鉢。
『我れ若し油の一滴[<滴]を落さば、彼の刀を拔く者は當に截我が頭を拔るべし』と。唯だ其の心を一にし、油の鉢に繫念し、

14. saced aham asmāt **tailapātrād** ekabindum api pṛthivyāṃ pātayiṣyāmi. ato me utkṣiptāsiko vadhakapuruṣaḥ ucchinnamūlam śiraḥ prapātayiṣyati.
我所持**鉢油**既彌滿。經是衆中極難將度。脫有一滴當墮地者。定為如是拔劍魁膾。當斬我首斷我命根。

15. 於世間美色及大衆中。徐歩而過。不敢顧眄。
世間の美色、及び大衆の中に於いて、徐ろに歩き而して過ぎ、敢えて顧眄せず」と。

15. nānyatra sa puruṣaḥ amanasikṛtya janapadakalyāṇī(ṃ) mahāsamājaṃ vā. tad eva **tailapātraṃ** sarvacetasā samanvāhṛtya samyag eva pariharet.
是人爾時於彼衆善及諸最勝歌舞倡伎大等生等。都不作意思念觀視。唯於油鉢專心作意而正護持。

71 [MS : vo]

16. 如是比丘。若有沙門婆羅門。正身自重。一其心念。不顧聲色。善攝一切心法住身念處者。則是我弟子。隨我教者。
是の如く、比丘、若し沙門・婆羅門、正身にして自重し、其の心念を一にし、聲色を顧みず、善く一切の心法を攝し、身念處に住する者有れば、則ち是れ我が弟子なり、我が教に隨う者なり。

16. evam eva bhikṣavaḥ. ye kecic *[śramaṇā vā brāhmaṇā vā]* catvāri smṛtyupasthānāni satkṛtya bhāvayanti. gurukṛtya sarvacetasā samanvāhṛtya te me śrāvaka iti
如是苾芻。我諸弟子恭敬殷重專心憶念。修四念住當知亦爾。

17. 云何爲比丘正身自重。一其心念。不顧聲色。攝持一切心法。住身念處。
云何が比丘、正身にして自重し、其の心念を一にし、聲色を顧みず、一切の心法を攝持し、身念處に住すと爲す。

17. kathaṃ ca *bhikṣavaś* catvāri smṛtyupasthānāni satkṛtya bhāvayanti. gurukṛtya sarvacetasā samanvāhṛtya ‖

18. 如是比丘。身身觀念*。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。受心法。法觀念住。亦復如是。
是の如く、比丘、身の身觀念に*[住し]、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、受・心・法の法觀念に住するも亦復た是の如し。

18. iha bhikṣur kāye kāyānupaśyī viharaty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam ‖ vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

19. 是名比丘。正身自重。一其心念。不顧聲色。善攝心法。住四念處。
是れを、比丘、正身にして自重し、其の心念を一にし、聲色を顧みず、善く心法を攝し、四念處に住すと名づく。

19. *iti bhikṣavaś* catvāri smṛtyupasthānāni satkṛtya bhāvayanti. gurukṛtya sarvacetasā samanvāhṛtya.

――――――――――――――――――

【VS 4.4(1) **繫屬**(gnas) 】
dran pa nye bar gzhag pa bzhi ni gus par bsgom par rig par bya ste | 365b7
復次。於四念住。**殷重修習**。|

'di lta ste | nyan thos kyi sa las 'byung ba bzhin no | 365b7
如聲聞地。應知其相。

――――――――――――――――――

20. 爾時世尊即説偈言。[72]
爾の時、世尊、即ち偈を説いて言わく。

21a. 專心正念。護持**油鉢**。自心隨護。未曾至方。甚難得過。
專心正念に、油の鉢を護持し、自心、隨って護れば、未だ曾て至らざる方なる、甚だ難きを過ぐることを得。

21b. 勝妙微細。諸佛所説。言教利劍。當一其心。專精護持。
勝妙にして微細なる、諸佛の説く所の言教の利劍は、當に其の心を一にし、專精に護持すべし。

21c. 非彼凡人。放逸之事。能入如是。不放逸教。
彼の凡人の放逸の事は、能く是の如き不放逸の教に入るに非ず。

22. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

20. MPS25.12 (ST.I) *(atha bhagavāṃs tasyāṃ velāyāṃ gāthāṃ babhāṣe ‖)*

ATH(I) 5 fragm. a(Mz681) verso2-4(translit. in: TTT VIII, Text A [T II S52] lines 1-2
21a. prārthayāno diśaṃ āgatapūrvaṃ[73]
Cf. (J 96 Telapattajātaka)
samatittikaṃ anavasekaṃ,
***telapattaṃ** yathā parihareyya;*
evaṃ sacittam anurakkhe,
patthayāno disaṃ agatapubbanti.

21b. duratikramañ ca . . . (Lücke)
sūkṣmaṃ ca.
buddhavacanaṃ kṣurasya dhārā va.

21c. agatir hi nyūnapūrūṣāṇāṃ[74]
pramattānāṃ.
apramādaviṣayesmiṃ karmāṇā[75]
saṃpayaṃti.

Cf. (J 132 Bhīrukajātaka)
kusalūpadese dhitiyā daḷhāya ca, anivattitattā bhayabhīrutāya ca;
na rakkhasīnaṃ vasamāgamimhase,
sa sotthibhāvo mahatā bhayena meti.

22. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

72 法護譯『修行道地經』卷三勸意品第九(T15, p.198, a26-b4)
如人擎**油鉢**。不動無所棄。妙慧意如海。**專心擎油器**。
若人欲學道。執心當如是。意懷諸德明。皆除一切瑕。
若干之色欲。再興於怒癡。有志**不放逸**。寂滅而自制。
人身有病疾。醫藥以除之。心疾亦如是。**四意止**除之。
73 1) agatapūrvaṃ/anāgatapūrvaṃ
74 3) lies nyūnapuruṣāṇāṃ
75 4) lies karmaṇā

(624)[76]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.

2. 爾時尊者欝低迦來詣佛所。稽首佛足。退坐一面。白佛言。
爾の時、尊者欝低迦、佛の所に來詣して、佛の足に稽首し、退きて一面に坐し、佛に白して言わく。

2. (MSV III-1[= Bhaiṣajyavastu], 48) ath*āyuṣmān *uktiyo* yena bhagavāṃs tenopasaṃkrāntaḥ. upasaṃkramya bhagavataḥ pādau śirasā vanditvaik*ānte nyaṣīdat. ekāntaniṣaṇṇa āyuṣmoktiyo* bhagavantam idam avocat.

3. 善哉世尊。爲我説法。我聞法已。當獨一靜處。專精思惟。不放逸住。思惟所以。善男子剃除鬚髮。正信非家。出家學道。如上廣説。乃至不受後有。
善い哉、世尊。我が爲に法を説きたまえ。我れ法を聞き已わらば、當に獨一靜處にて專精に思惟し、放逸せずに住し、所以を思惟すべし。善男子、鬚髮を剃除し、正信もて非家に出家し、道を學べば、上に廣説せる如く、乃至、後有を受けざらん。

3. sādhu me bhagavaṃs tathā saṃkṣiptena dharmaṃ deśayatu yathāhaṃ bhagavato 'ntike saṃkṣiptena dharmaṃ śrutvā eko vyapakṛṣṭo 'pramattaḥ ātāpī prahitātmā vihareyam. eko vyapakṛṣṭo 'pramattaḥ ātāpī prahitātmā viharan. yad arthaṃ kulaputrāḥ keśaśmaśrv avatārya kāṣāyāṇi vastrāṇy ācchādya samyag eva śraddhayā agārād anagārikāṃ pravrajanti *tad anuttaraṃ brahmacaryaparyavasānaṃ [dṛṣṭa eva dharme svayam abhijñāya sākṣātkṛtvopasaṃpadya pravedayeyam. kṣīṇā me jātir uṣitaṃ brahmacaryaṃ kṛtaṃ karaṇīyaṃ]* nāparam asmād bhavaṃ prajānāmīti.

4. 佛告欝低迦。如是如是。如汝所説。
佛は欝低迦に告げたり。是の如し、是の如し。汝の所説の如し。

4. *[bhagavān āha:]*
(Cf. NidSa 24.18)
*evam etad *uktiya* bhūtam* | *evam etat *uktiya*.

76 [Chung V-24], SN.47.16, Uttiyo (V p.166).

5. 但於我所説法不悦我心。彼所事業。亦不成就。雖隨我後。而不得利。反生障閡。
但だ我が所説の法に於いて我が心を悦ばさず、彼の事業とする所も亦た成就せずんば、我が後に隨うと雖も、而かも利を得ず、反って障閡を生ぜん。

5b. (NidSa 9.5) .....
nārādhayati tena praśnavyākaraṇena.
cf. (Śbh II 148) dharmadeśanayā cittam ārādhayati

6a. 欝低迦(T2,175a)白佛。世尊所説。我則能令世尊心悦。自業成就。不生障閡。唯願世尊。爲我説法。
欝低迦は佛に白せり。世尊の所説もて、我れ則ち能く世尊をして心悦ば令め、自業成就し、障閡を生ぜざらん。唯だ願わくば、世尊、我が爲に法を説きたまえ。

6a. ...

sādhu me bhagavaṃs tathā saṃkṣiptena dharmaṃ deśayatu.

6b 我當獨一靜處。專精思惟。不放逸住。如上廣説。乃至不受後有。
我れ當に獨一靜處にて專精に思惟し、放逸せずに住し、上に廣説せる如く、乃至、不受後有を受けざらん。

6b. eko vyapakṛṣṭo 'pramattaḥ ātāpī prahitātmā vihareyam. . . nāparam asmād bhavaṃ prajānāmīti.

6c. 如是第二第三請。
是の如く、第二、第三と請いたり。

6c. ... dvir api trir api ...

7. 爾時世尊告欝低迦。汝當先淨其初業。然後修習梵行。
爾の時、世尊、欝低迦に告げたり。
汝は當に先ず其の初業を淨め、然る後に梵行を修習すべし。

7. atha bhagavān āyuṣmantam **uktiyam* idam avocat.

Cf. SN.47.16 *tasmātiha tvaṃ uttiya, ādim eva visodhehi kusalesu dhammesu.*

8. 欝低迦白佛。我今云何淨其初業。修習梵行。
欝低迦は佛に白せり。我れ今、云何が其の初業を淨め、梵行を修習せん。

8. Cf. SN.47.16 *koc'ādi kusalānaṃ dhammānaṃ:*

9. 佛告鬱低迦。汝當先淨其戒。直其見。具足三業。然後修四念處。
佛は鬱低迦に告げたり。
汝は當に先ず其の戒を淨め、其の見を直くして三業を具足し、然る後に四念處を修すべし。

9. (Śbh II 244)[77]
tatrādiśuddhiḥ śīlaṃ ca suviśuddhaṃ dṛṣṭiś ca ṛjvī.

Cf. SN.47.16
sīlañ ca suvisuddhaṃ, diṭṭhi ca ujukā. .. yato kho te uttiya, sīlañ ca suvisuddhaṃ bhavissati, diṭṭhi ca ujukā. tato tvaṃ uttiya, sīlaṃ nissāya sīle patiṭṭhāya cattāro satipaṭṭhāne bhāveyyāsi. katame cattāro:

10. 何等爲四。内身身觀念住。專精方便。正智正念。調伏世間貪憂。如是外身内外身身觀念住。受心法。法觀念住。亦如是廣説。
何等をか四と為す。内身の身觀念に住し、專精に方便して、正智・正念もて、世間の貪憂を調伏し、是の如く、外身・内外身の身觀念に住し、受・心・法の法觀念に住し、亦た是の如く、廣説すと。

10. *katamāni catvāri.*
MPS14.25 iha bhikṣur (a)dhy(ā)tm(aṃ) kāy(e) kāyānupaśyī viha(raty) ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimā(n) vinīyābhidhyā loke daurmanasyam ‖ *bahirdhā kāye 'dhyātmabahirdhā kāye vedanāsv citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharaty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam* ‖

11. 時鬱低迦聞佛所説。歡喜隨喜。從座起而去。
時に鬱低迦は佛の所説を聞きて、歡喜し隨喜し、座より起ち而して去れり。

11. atha āyuṣmān **uktiyo* bhagavato bhāṣitam abhinandyānumodya bhagavataḥ pādau śirasā vanditvā uttahāyāsanāt prakrāntaḥ.

12. 時鬱低迦聞佛教授已。獨一靜處。專精思惟。不放逸住思惟。所以善男子剃除鬚髮。著袈裟衣。正信非家。出家學道。乃至不受後有。
時に鬱低迦は佛の教授を聞き已わり、獨一靜處にて專精に思惟し、放逸せずに住し、所以を思惟せり。善男子の鬚髮を剃除し、袈裟衣を著け、正信もて非家に出家し、道を學び、乃至、後有を受けざりき。

12. *atha* āyuṣmān **uktiyo bhagavatā ... avavādenāvavāditaḥ* | eko vyapakṛṣṭo 'pramattaḥ ātāpī prahitātmā viharan (MSV III-1[= Bhaiṣajyavastu], 50)[78]
yad arthaṃ kulaputrāḥ keśaśmaśrv avatārya kāṣāyāṇi vastrāṇy ācchādya samyag eva śraddhayā agārād anagārikāṃ pravrajanti . . . nāparam asmād bhavaṃ prajānāmīti.

13. 如鬱低迦所問。如是異比丘。所問亦如上説
鬱低迦の所問の如く、是の如く、異比丘の所問も亦た上に説くが如し。

13. (*anyataro bhikṣuḥ)*

77 -II-13-b-(2)-ii Ms.93a5M, Sh.335-17, P.150a5, Ch.446a27.
78 Cf. Chung, p.316 (第15経のサンスクリット文).

(625)[79]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.

2. 時有異比丘。名婆醯迦。來詣佛所。稽首禮足。退坐一面。白佛言。
時に異比丘有り、婆醯迦と名づく。佛の所に來詣して、稽首し、足に禮して、退きて一面に坐し、佛に白して言わく。

2. (MSV III-1[= Bhaiṣajyavastu], 48) athāyuṣmān Bāhiko yena bhagavāṃs tenopasaṃkrāntaḥ. upasaṃkramya bhagavataḥ pādau śirasā vanditvaik*ānte nyaṣīdat. ekāntaniṣaṇṇa* āyuṣmāṃ bāhiko bhagavantam idam avocat.

SHT X 3911 R2;
(āyuṣmā)ṃ bāhiko (bhagavantam idam avocat*)

3. 世尊。善哉。世尊。爲我説法。如前欝低迦修多羅廣説。
世尊。善い哉。世尊。我が爲に法を説きたまえ。
前の欝低迦修多羅に廣説せる如し。

3. sādhu me bhagavaṃs tathā saṃkṣiptena dharmaṃ deśayatu.

4. 差別者。如是婆醯迦比丘。初業清淨。身身觀念住者。超越諸魔。受心法。法觀念住者。超越諸魔。
差別とは、是の如く、婆醯迦比丘、初業清淨にして、身の身觀念に住すれば、諸の魔を超越し、受・心・法の法觀念に住すれば、諸の魔を超越するなり。

4. Cf. SN.35.89 *tasmātiha tvaṃ, bāhiya, ādim eva visodhehi kusalesu dhammesu. ko cādi kusalānaṃ dhammānaṃ. sīlañca suvisuddhaṃ, diṭṭhi ca ujukā. yato ca kho te, bāhiya, sīlañca suvisuddhaṃ bhavissati, diṭṭhi ca ujukā, tato tvaṃ, bāhiya, sīlaṃ nissāya sīle patiṭṭhāya cattāro satipaṭṭhāne bhāveyyāsi.*

――――――――――――――――――――

【VS 4.4(2) **繫屬**(gnas) 】
bdud kyi gnas zhes bya ba ni 'dod pa'i khams te | 365b7
繫屬**魔** 者。謂在欲界。

gang las phyir mi 'ong ba 'das par 'gyur pa yin no | 365b8
此不還果。即**能超度**。

79 [Chung V-25], SN.35.89 Bāhiyo (IV pp.63-64).

5. 時婆醯迦比丘聞佛説法教誡已。歡喜隨喜。作禮而去。
時に婆醯迦比丘は佛の説法・教誡を聞き已わり、歡喜し隨喜し、禮を作し而して去れり。

5. atha āyuṣmān *bāhiko* bhagavato bhāṣitam abhinandyānumodya bhagavataḥ pādau śirasā vanditvā bhagavato 'ntikāt prakrāntaḥ.

6. 獨一靜處。專精思惟。不放逸住。乃至不受後有。
獨一靜處にて專精に思惟し、放逸せずに住し、乃至、後有を受けざりき。

6. athāyuṣmān bāhiko *bhagavatā ... avavādenāvavāditaḥ.*) eko vyapakṛṣṭo 'pramattaḥ ātāpī prahitātmā viharan (MSV III-1[= Bhaiṣajyavastu], 50)[80]
yad arthaṃ kulaputrāḥ keśaśmaśrv avatārya kāṣāyāṇi vastrāṇy ācchādya samyag eva śraddhayā agārād anagārikāṃ pravrajanti . . . nāparam asmād bhavaṃ prajānāmīti.

(626)
第二經亦如上説。 差別者。如是比丘。超越生死。
第二經も亦た上に説けるが如し。差別とは、是の如く、比丘、生死を超越するなり。

――――――――――――――――――――

【VS 4.4(3) **繫屬**(gnas) 】
'chi bdag gi gnas zhes bya ba ni srid pa'i rtse mo man chad de gang las dgra bcom pa 'das par 'gyur ba yin no | 365b8
繫屬**死** 者。謂從欲界。乃至有頂。此阿羅漢。乃**能超度**。

rnal 'byor spyod pa'i sa las, gzhi bsdu ba | bam po nyi shu gcig pa | 365b8
[瑜伽師地・攝事(分)・巻21]

――――――――――――――――――――

80 Cf. Chung 2008, p.316.

(627)[81]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.

2. 爾時尊者阿那律陀。詣佛所。稽首禮(T2,175b)足。退坐一面。白佛言。
爾の時、尊者阿那律陀は佛所に詣り稽首し、足に禮して、退きて一面に坐し、佛に白して言わく。

2. ath*āyuṣmān Aniruddho* yena bhagavāṃs tenopasaṃkrāntaḥ. upasaṃkramya bhagavataḥ pādau śirasā vanditvaikānte 'sthāt. ekāntasthita *āyuṣmāniruddho* bhagavantam idam avocat.

3. 世尊。若有比丘住於學地。未得上進安隱涅槃。而方便求。
世尊。若し比丘有り、學地に住し、未だ上進して安隱の涅槃を得ず、而かも方便して求むるに、

3. (SBV II 145) yo 'sau bhadanta bhikṣur bhavati śaikṣa asaṃprāptamānasaḥ sa uttaraṃ yogakṣemaṃ nirvāṇam abhiprārthayamānarūpo bahulaṃ viharati.

4. 是聖弟子當云何於正法律。修習多修習。得盡諸漏。乃至自知不受後有。
是の聖弟子は當に云何が正法律に於いて修習するに多く修習して、諸の漏を盡くすことを得、乃至、自ら後有を受けざるを知るべき。

4. (Cf. NidSa 23.17g) ... *kasmin* āryaśrāvako dharmavinaye āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ[82], āsravakṣayāya saṃvartate [83]pūrvavad yāvan nāparam asmād bhavaṃ prajānāmi iti.

81 [Chung V-26], SN.47.26, Padesaṃ (V pp.174-175).
82 Cf. SHT IV 162 b R 7
83 Cf. SHT X 3911 R z.

5. 佛告阿那律。若聖弟子住於學地。未得上進安隱涅槃。而方便求。
佛は阿那律に告げたり。
若し聖弟子、學地に住し、未だ上進して安隱の涅槃を得ず、而かも方便して求むるに、

6. 彼於爾時。當内身身觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。
彼れ爾の時に於いて當に内身の身觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、

7. 如是受心法。法觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。
是の如く、受・心・法の法觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏すべし。

8. 如是聖弟子多修習已。得盡諸漏。乃至自知不受後有。
是の如く、聖弟子は多く修習已わり、諸の漏を盡くすことを得、乃至、自ら後有を受けざるを知る。

9. 爾時。尊者阿那律陀聞佛所説。歡喜隨喜。作禮而去。
爾の時、尊者阿那律陀は佛の所説を聞きて、歡喜し隨喜し、禮を作し而して去れり。

5. (SBV II 145) yo 'sau bhadanta bhikṣur bhavati śaikṣa asaṃprāptamānasaḥ sa uttaraṃ yogakṣemaṃ nirvāṇam abhiprārthayamānarūpo bahulaṃ viharati.

6. (MPS14.25) iha bhikṣur adhyātmaṃ kāye kāyānupaśyī viharaty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam ‖

7. vedanāsu citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharaty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam ‖

8. ... āryaśrāvako *'smin dharmavinaye* āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ, āsravakṣayāya saṃvartate *pūrvavad yāvan* nāparam asmād bhavaṃ prajānāmi iti

9. atha āyuṣmān Aniruddho bhagavato bhāṣitam abhinandyānumodya bhagavataḥ pādau śirasā vanditvā bhagavato 'ntikāt prakrāntaḥ.

(628)[84]

1. 如是我聞。一時
佛住巴連弗邑鷄林精舍。
是の如く我聞けり。一時、佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavān pāṭaligrāmake viharati kurkuṭārāme[85]

2. 時尊者優陀夷。尊者阿難陀。亦住巴連弗邑鷄林精舍。
時に、尊者優陀夷、尊者阿難陀も亦た巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。

2. (NidSa 6.2) tena khalu samayenāyuṣmān *Udāyī* cāyuṣmān *ānando [tasmin / pāṭaligrāmake] pāṭaligrāmake* viharataḥ kurkuṭārāme.

3. 爾時尊者優陀夷。詣尊者阿難所。共相問訊。慰勞已退坐一面。語尊者阿難。
爾の時、尊者優陀夷、尊者阿難の所に詣り、共に相問訊し、慰勞し已わり、退きて一面に坐し、尊者阿難に語れり。

3. (NidSa 6.3) athāyuṣmān *Udāyī* sāyāhne pratisaṃlayanād vyutthāya yenāyuṣmān ānandas tenopajagāma. upetyāyuṣmatā ānandena sārdhaṃ saṃmukhaṃ sammodanīṃ saṃrañjanīṃ kathāṃ vividhām upasaṃhṛtyaikānte nyaṣīdat. ekāntaniṣaṇṇa āyuṣmān *Udāyī* āyuṣmantaṃ ānandam idam avocat.

4. 如來應供等正覺所知所見。爲諸比丘説聖戒。
如來・應供・等正覺の知る所、見る所は、諸の比丘の爲に聖戒と説き、

4. Cf. (NidSa 25.3)
tath(āgatā arhan)taḥ samyaksaṃbuddhā *lo(ke utpadyante supraveditasya dharmavinayasya prakāśanāya)*

Cf. (*Arthaviniścayasūtra* 21) ...
yad uta āryakāntaiḥ śīlaiḥ samanvāgato[86]

5. 令不斷不缺不擇不離不戒取。善究竟善持。智者所歎。所不憎惡。
斷ぜず、缺かず、擇ばず、離れず、戒取せずして、善く究竟し善く持た令むるは、智者の歎ずる所、憎惡せざる所なり。

5. MPS 2.34[87] yāni tāni śīlāny akhaṇḍāny acchidrāṇy aśabalāny akalmāṣāṇi bhujiṣyāṇy aparāmṛṣṭāni susamāptāni susamādattāni vijñapraśastāny agarhitāni vijñaiḥ.

6. 何故如來應等正覺所見。爲諸比丘説聖戒。不斷不缺。乃至智者所歎。所不憎惡。
何故に如來・應・等正覺の見る所は、諸の比丘の爲に聖戒と説き、斷ぜず、缺かず、乃至、智者の歎ずる所、憎惡せざる所なる。

6. Cf. 4-5.
SN.47.21 *"yān'imāni āvuso ānanda, kusalāni sīlāni vuttāni bhagavatā, imāni kusalāni sīlāni kimatthiyāni vuttāni bhagavatā"ti.*

---

84 [Chung V-27], SN.47.21, Sīlaṃ (V pp.171-172).
85 BHSD s.v. *Kurkuṭārāma.* also *Kukku°*, *Kukkuṭāgāra.*
86以下、"yāni śīlāni akhaṇḍāni acchidrāṇi adhṛtīni aśabalāni akalmaṣāṇi bhujiṣyāṇi aparāmṛṣṭāni susamastāni vijñapraśastāni jayasaṃpannāni agarhitāni vijñair iti."と続き、次の段(6)に対応する。
87 Cf. YL 167R1; R4†.

7. 尊者阿難語優陀夷。爲**修**四念處故。

何等爲四。謂身身觀念住。受心法法觀念住。
尊者阿難は優陀夷に語れり。
四念處を修するが爲の故なり。何等をか四と為す。謂わく、身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念に住するなり。

8. 時二正士共論議已。各還本處。
時に二正士、共に論議し已わり、各本處に還りぬ。

Cf. SN.47.21 *yānimāni āvuso bhadda kusalāni sīlāni vuttāni bhagavatā imāni kusalāni sīlāni yāvad eva catunnam satipaṭṭhānānam* ***bhāvanāya*** *vuttāni bhagavatā.*

katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

8. NidSa 23.20 (=NidSa 6.22) [88]
atha ki(n) n(v a)syottare kara(ṇīya)m iti tau satpuruṣāv anyonya(bhā)ṣitam abhinan(d)yān(um)odya (utthā)yāsanāt prakrāntau ‖

88Cf. Tripāṭhī 1962, p.13, n.2.

(629)[89]

1. 如是我聞。一時
佛住巴連弗邑鷄林精舍。
是の如く我聞けり。一時、
佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye
bhagavān pāṭaligrāmake viharati
kurkuṭārāme.

2. 爾時尊者阿難。尊者跋陀羅亦在彼住。時尊者跋陀羅問尊者阿難言。
爾の時、尊者阿難、尊者跋陀羅も亦た彼に在りて住せり。時に、尊者跋陀羅は尊者阿難に問うて言わく。

2. (NidSa 6.2) tena khalu samayenāyuṣmān ānanda āyuṣmāṃś ca *bhadriko [tasmin / pāṭaligrāmake]* viharataḥ kurkuṭārāme.
athāyuṣmān bhadrika āyuṣmantam ānandam *idam avocat*.

3. 頗有法修習多修習。得不退轉耶。
頗し法にして修習するに多く修習すれば、不退轉を得るものある耶。

3. Cf. AK-bh(Pā)[115]
syād dharmo (āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ, ... saddharmāparihāṇam)

4. 尊者阿難語尊者跋陀羅。有法修習多修習。能令行者得不退轉。
尊者阿難は尊者跋陀羅に語れり。法にして修習するに多く修習すれば、能く行者をして不退轉を得せ令むるもの有り。

4. *syād dharmo āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ, ... saddharmāparihāṇam)*
Cf. SN.47.23 *catunnañ ca kho āvuso satipaṭṭhānānaṃ bhāvitattā bahulīkatattā saddhamma-aparihānaṃ hoti.*
(cf. Śbh II 290 "saddharmāparihāṇaṃ")

5. 謂四念處。何等爲四。身身觀念住。(T2,175c)受心法法觀念住。
謂わく、四念處なり。何等をか四と為す。身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念に住するなり。

5. *yad uta* catvāri smṛtyupasthānāni.
katamāni catvāri. kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

6. 時二正士共論説已。各還本處
時に二正士、共に論説し已わり、各本處に還りぬ。

6. NidSa 23.20 (=NidSa 6.22)
atha ki(n) n(v a)syottare kara(ṇīya)m iti tau satpuruṣāv anyonya(bhā)ṣitam abhinan(d)yān(um)odya (utthā)yāsanāt prakrāntau ‖

89 SN.47.23, Parihānaṃ (V p.173).

(630)

1. 如是我聞。一時
佛住巴連弗邑鷄林精舎。
是の如く我聞けり。一時、
佛は巴連弗邑の鷄林精舎に住せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavān pāṭaligrāmake viharati kurkuṭārāme.

2. 爾時尊者阿難。尊者跋陀羅亦在彼住。時尊者跋陀羅問尊者阿難。
爾の時、尊者阿難、尊者跋陀羅も亦た彼に在りて住せり。時に、尊者跋陀羅は尊者阿難に問えり。

2. (NidSa 6.2) tena khalu samayenāyuṣmān ānanda āyuṣmāṃś ca bhadriko *[tasmin / pāṭaligrāmake]* viharataḥ kurkuṭārāme.
athāyuṣmān bhadrika āyuṣmantam ānandam *idam avocat*.

3. 頗有法修習多修習。令不淨衆生而得清淨。轉増光澤耶。
頗し法にして修習するに多く修習すれば、不淨の衆生をして而して清淨を得、轉じて光澤を増さ令むるものある耶。

3. *syād dharmo (āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ,*
Cf. SN.5.11 (Sotāpattisutta).
avisuddhānaṃ sattānaṃ visuddhiyā apariyodātānaṃ sattānaṃ pariyodapanāya.

4. 尊者阿難語尊者跋陀羅。有法修習多修習。能令不淨衆生而得清淨。轉増光澤。
尊者阿難は尊者跋陀羅に語れり。
法にして修習するに多く修習すれば、能く令不淨の衆生をして而して清淨を得、轉じて光澤を増さ令むるもの有り。

4. *syād dharmo (āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ)*
Cf. SN.5.11 *avisuddhānaṃ sattānaṃ visuddhiyā apariyodātānaṃ sattānaṃ pariyodapanāya.*

5. 謂四念處。身身觀念住。受心法法觀念住。
謂わく、四念處なり。身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念に住するなり。

5. *yad uta* catvāri smṛtyupasthānāni. kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

6. 時二正士共論議已。各還本處
時に二正士、共に論議し已わり、各本處に還りぬ。

6. (NidSa 23.20 =NidSa 6.22)
atha ki(n) n(v a)syottare kara(ṇīya)m iti tau satpuruṣāv anyonya(bhā)ṣitam abhinan(d)yān(um)odya (utthā)yāsanāt prakrāntau ‖

――――――――――――――――――

【VS 4.5(1) **淨** (rnam par dag)】
rnam par ma dag pa'i sems can zhes bya ba ni so so'i skye bo rnams so | 366a1
言**不清淨**。諸有情者。謂諸異生。

rnam par dag pa ni slob pa rnams so | 366a1
言**清淨**者。謂諸有學。

yongs su byang ba ni mi slob pa rnams so | 366a1
言**鮮白**者。謂諸無學。

(631)

1. 如是我聞。一時
佛住巴連弗邑鷄林精舍。
是の如く我聞けり。一時、佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavān pāṭaligrāmake viharati kurkuṭārāme.

2. 爾時尊者阿難。尊者跋陀羅亦在彼住。時尊者跋陀羅問尊者阿難。
爾の時、尊者阿難尊者、跋陀羅も亦た彼に在りて住せり。時に、尊者跋陀羅は尊者阿難に問えり。

2. (NidSa 6.2) tena khalu samayenāyuṣmān ānanda āyuṣmāṃś ca bhadriko *[tasmin / pāṭaligrāmake]* viharataḥ kurkuṭārāme.
athāyuṣmān bhadrika āyuṣmantam ānandam *idam avocat*.

3. 頗有法修習多修習。能令未度彼岸衆生得度彼岸。
頗し法にして修習するに多く修習すれば、能く未だ彼岸に度らざる衆生をして彼岸に度ることを得せ令むるものある[耶]。

3. *syād dharmo (āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ)*
Cf. SN. 34.1 *aparāpāraṅgamanāya saṃvattanti.*

4. 尊者阿難語尊者跋陀羅。有法修習多修習。能令未度彼岸衆生得度彼岸。
尊者阿難は尊者跋陀羅に語れり。
法にして修習するに多く修習すれば、能く未だ彼岸に度らざる衆生をして彼岸に度ることを得せ令むるもの有り。

4. *syād dharmo (āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ)*
Cf. SN. 34.1 *aparāpāraṅgamanāya saṃvattanti.*

5. 謂四念處。何等爲四。謂身身觀念住。受心法法觀念住。
謂わく、四念處なり。何等をか四と為す。謂わく、身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念に住するなり。

5. *yad uta* catvāri smṛtyupasthānāni.
katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

6. 時二正士共論議已。各還本處
時に二正士、共に論議し已わり、各本處に還りぬ。

6. (NidSa 6.22) *atha kin nv asyottare karaṇīyam iti* tau satpuruṣāv anyonyabhāṣitam abhinandyānumodya utthāyāsānāt prakrāntau ‖

(632)

1. 如是我聞。一時
佛住巴連弗邑鷄林精舎。
是の如く我聞けり。一時、佛は巴連弗邑の鷄林精舎に住せり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavān pāṭaligrāmake viharati kurkuṭārāme.

2. 爾時尊者阿難。尊者跋陀羅亦在彼住。尊者跋陀羅問尊者阿難。
爾の時、尊者阿難、尊者跋陀羅も亦た彼に在りて住せり。尊者跋陀羅は尊者阿難に問えり。

2. (NidSa 6.2) tena khalu samayenāyuṣmān ānanda āyuṣmāṃś ca bhadriko *[tasmin / pāṭaligrāmake]* viharataḥ kurkuṭārāme.
athāyuṣmān bhadrika āyuṣmantam ānandam *idam avocat*.

3. 頗有法修習多修習。得阿羅漢。
頗し法にして修習するに多く修習すれば、阿羅漢を得る有りや。

3. *syād dharmo (āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ) ...*

4. 尊者阿難語尊者跋陀羅。有法修習多修習。而得阿羅漢。
尊者阿難は尊者跋陀羅に語れり。法にして修習するに多く修習すれば、而かも阿羅漢を得るもの有り。

4. *syād dharmo (āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ) ...*

5. 謂四念處。何等爲四。謂身身觀念住。受心法法觀念住。
謂わく、四念處なり。何等をか四と為す。謂わく、身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念に住するなり。

5. *yad uta* catvāri smṛtyupasthānāni.
katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

6. 時二正士共論議已。各還本處
時に二正士、其の論議を已わり、各本處に還りぬ。

6. (NidSa 23.20 =NidSa 6.22)
atha ki(n) n(v a)syottare kara(ṇīya)m iti tau satpuruṣāv anyonya(bhā)ṣitam abhinan(d)yān(um)odya (utthā)yāsanāt prakrāntau ‖

(633)

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. 佛住巴連弗邑鷄林精舍。
佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。

2. bhagavān pāṭaligrāmake viharati kurkuṭārāme.

3. 爾時世尊告諸比丘。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

3. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

4. 所説一切法。一切法者。謂四念處。是名正説。
説く所の一切法、一切法とは、謂わく、四念處なり。是れを正説と名づく。

4. Cf. (AKvy 529,31)[90]
sarvadharmā iti bhikṣavo *yad uta catvāri smṛtyupasthānānīti*
(AKvy 497)
te samyag vadamānā vadyuḥ.

5. 何等爲四。謂身身觀念住。受心法法觀念住。
何等をか四と為す。謂わく、身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念に住するなり。

5. katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

6. 佛説此經已。(T2,176a)諸比丘聞佛所説。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

90 uktaṃ ca bhagavatā.

(634)
1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、

2. 佛住巴連弗邑鷄林精舍。
佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。

3. 爾時世尊告諸比丘。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

4. 若比丘於四念處。修習多修習。名賢聖出離。
若し比丘、四念處に於いて修習するに多く修習すれば、賢聖出離すと名づく。

5. 何等爲四。謂身身觀念住。受心法法觀念住。
何等をか四と為す。謂わく、身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念に住するなり。

6. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

(634a)
如出離。如是正盡苦。究竟苦邊。得大果。得大福利。得甘露法。究竟甘露。甘露法作證。如上廣説
出離の如く、是の如く、正しく苦を盡くす、苦邊を究竟す、大果を得、大福利を得、甘露法を得、甘露を究竟す、甘露法を作證するも、上に廣説せる如し。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. bhagavān pāṭaligrāmake viharati kurkuṭārāme.

3. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

4. (Śbh II 174)[91] *iha bhikṣur caturṇām smṛtyupasthānānām, āsevito bhāvita bahulīkṛta iyam ucyate nairyāṇikāḥ*[92] |

5. katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

(NidSa 13.7[93])
āryayā nairyāṇikayā nairvedhikayā niryāti tatkaraḥ samyagduḥkhakṣayāya duḥkhasyāntakriyāyai |
成就賢聖出離、實寂、正盡苦。究竟苦邊。(T2, p.84, b4-9)

91 -II-12-b (Ms.84b7M, Sh.288-19, W.*97-1, P.131a5, Ch.439c18) "... dharmāṇām *abhyāsaḥ paricaya* āsevanā bhāvanā **bahulīkāra** iyam ucyate ..."
92 NidSa 13.7; MPS 2.35 yeyaṃ dṛṣṭir **āryā nairyāṇikā nairvedhikā niryāti** (=AKvy 646)
93 AKvy 646: yo vā punar mayā śrāvakāṇāṃ mārga ākhyātaḥ āryo nairyāṇiko nairvedhiko niryāti. tatkarasya **samyagduḥkhakṣayāya duḥkhasyāntakriyāyai** sa na niryāsyatīti. Cf. ASBh. Sa-83R-4.

(635)
1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、

2. 佛住巴連弗邑鷄林精舍。
佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。

3. 爾時世尊告諸比丘。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

4. 若比丘於四念處。修習多修習。未淨衆生令得清淨。已淨衆生令増光澤。
若し比丘、四念處に於いて修習するに多く修習すれば、未だ淨からざる衆生に清淨を得せ令め、已に淨き衆生に光澤を増さ令む。

5. 何等爲四。謂身身觀念住。受心法法觀念住。
何等をか四と為す。謂わく、身の身觀念に住す、受・心・法の法觀念に住するなり。

6. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

(635a)
如淨衆生。如是未度彼岸者令度。得阿羅漢。得辟支佛。得阿耨多羅三藐三菩提。亦如上説
淨き衆生の如く、是の如く、未だ彼岸に度らざる者を度ら令む、阿羅漢を得、辟支佛を得、阿耨多羅三藐三菩提を得るも亦た上に説くが如し。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. bhagavān pāṭaligrāmake viharati kurkuṭārāme.

3. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

4. iha bhikṣur caturṇām smṛtyupasthānānām āsevito bhāvito bahulīkṛtaḥ. ...[94]

5. katamāni catvāri.
kāye kāyānupaśyī viharati. vedanāyāṃ citte dharmeṣu dharmānupaśyī viharati.

6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

———————————————————

【VS 4.5(2) **淨** (rnam par dag)】
gang las shes nas dad pa zhes 'byung ba ni sems can rnam par ma dag pa rnams rnam par dag par bya ba dang | 366a1
復有。三種證淨。**未清淨者。能令清淨**。

rnam par dag pa rnams yongs su byang bar bya ba'i phyir te | 366a2
已清淨者。能令鮮白。

de las slob pa gong ma ni rnam par dag pa ni ste | 366a2
當知此中。上諸有學。説名清淨。

bsgom pa'i lam gyis rnam par dag pa'i slob pa de rnams kyi yin par rig par bya'o | 366a2
下諸有學。名不清淨。彼由修道。未清淨故。

lhag ma ni snga ma bzhin no | 366a3
餘如前説。

94 第630経参照。

(636)[95]

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. 佛住巴連弗邑鷄林精舍。
佛は巴連弗邑の鷄林精舍に住せり。

2. bhagavān pāṭaligrāmake viharati kurkuṭārāme.

3. 爾時世尊告諸比丘。
爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

3. tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

4. 當爲汝説。**修**四念處。何等爲**修**四念處。
當に汝が爲に四念處を修するを説くべし。何等をか四念處を修すると爲す。

4. *caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ* vo bhikṣavo ***bhāvanāṃ*** deśayiṣyāmi.

5. 若比丘如來應等正覺明行足善逝世間解無上士調御丈夫天人師佛世尊出興于世。
若し比丘、如來・應・等正覺・明行足・善逝・世間解・無上士・調御丈夫・天人師・佛・世尊の世に出興し、

5. (SBV II 230)[96] iha *bhikṣavo* loka utpadyate tathāgato 'rhan samyaksaṃbuddhaḥ vidyācaraṇasaṃpannaḥ sugato lokavid anuttaraḥ puruṣadamyasārathiḥ śāstā devamanuṣyāṇāṃ buddho bhagavān.

6. 演説正法。上語亦善。中語亦善。下語亦善。善義善味。純一滿淨。梵行顯示。
正法を演説するに、上語も亦た善く、中語も亦た善く、下語も亦た善く、善き義・善き味、純一滿淨にして、梵行顯示す。

6. sa dharmaṃ deśayati, ādau kalyāṇaṃ madhye kalyāṇaṃ paryavasāne kalyāṇaṃ svarthaṃ suvyaṃjanaṃ kevalaṃ paripūrṇam pariśuddhaṃ paryavadātaṃ brahmacaryaṃ prakāśayati

7. 若族姓子。族姓女。從佛聞法。得淨信心。如是修學。見在家和合。欲樂之過。煩惱結縛。
若し族姓子・族姓女、佛に從い法を聞けば、淨信の心を得て、是の如く、修學し、在家の和合は欲樂の過ち、煩惱の結縛なりと見、

7. (SBV II 231); (Śbh I 16)[97] *ihaikatyas kulaputro vā kuladuhitā vā tathāgatasya vā tathāgatasya*ntikād dharmaṃ śrutvā śraddhāṃ pratilabhate. sa tāṃ pratilabhya, idaṃ pratisaṃśikṣate. saṃbādho gṛhāvāso rajasām āvāsaḥ.

95 SN.47.3, Bhikkhu (V pp.142-144).
96 = Piṅgalātreya sūtra 2.1~3.1前半が対応。Lita Peipina, *The Piṃgalātreya sūtra of the (Mūla)sarvāstivādins, its edition and study: investigation of the Piṃgalātreya sūtra's status within the Dīrghāgama "Collection of Long (Discourses of the Buddha)"*. Oslo, 2008.
97 (I)-A-II-4-b-(3) Ms.2b3M, Sh.8-15, W.*61-8, P.5b4, Ch.397a7.

8. 樂居空閑。出家學道。不樂在家。處於非家。欲一向清淨。盡其形壽。純一滿淨。鮮白梵行。
空閑に樂居し、出家して道を學び、在家を樂しまず、非家に處し、一向に清淨ならんと欲し、其の形壽を盡くすまで、純一滿淨にして、鮮白梵行ならん。

8. (SBV II 231) abhyavakāśaṃ ca pravrajyā; tad idaṃ na sukaraṃ gṛhiṇā agāram adhyāvasatā ekāntaśaṅkhalikhitaṃ, yāvajjīvaṃ kevalaṃ paripūrṇaṃ pariśuddhaṃ paryavadātaṃ; brahmacaryaṃ carituṃ;

9. 我當剃除髮鬚。著袈裟衣。正信(T2,176b)非家。出家學道。
我れ當に髮鬚を剃除し、袈裟衣を著け、正信もて非家に出家し、道を學ぶべし。

9. (SBV II 232) yannv ahaṃ keśaśmaśrūṇy avatārya kāṣāyāṇi vastrāṇy ācchādya samyag eva śraddhayā agārād anagārikāṃ pravrajeyaṃ;

10a. 作是思惟已。即便放捨錢財親屬。剃除鬚髮。著袈裟衣。正信非家。出家學道。
是の思惟を作し已え、即便ち錢財・親屬を放捨し、鬚髮を剃除し、袈裟衣を著け、正信もて非家に出家し、道を學び、

10a. (SBV II 232) sa idaṃ pratisaṅkhyāya prabhūtaṃ vā alpaṃ vā dhanaskandhaṃ prahāya prabhūtaṃ vā alpaṃ vā jñātiparivartitaṃ prahāya keśaśmaśrūṇy avatārya kāṣāyāṇi vastrāṇy ācchādya samyag eva śraddhayā agārād anagārikāṃ pravrajati.

10b. 正其身行。護口四過。正命清淨。
其の身行を正し、口の四過を護り、正命清淨にして、

10b. Cf. (SBV II 232) ...
sa mṛṣāvādaṃ prahāya ...
pāruṣyaṃ prahāya ...
paiśunyāt prativirato bhavati.
saṃbhinnapralāpāt prativirato bhavati.

11. 習賢聖戒。[98]守諸根門。護心正念。眼見色時。不取形相。
賢聖の戒に習い、諸の根門を守り、心を護り正念にして、眼の色を見る時、形相を取らず、

11. (SBV II 240) so 'nena āryeṇa śīlaskandhena samanvāgataḥ adhyātmam anavadyasukhaṃ prativedayate;
sa indriyair guptadvāro bhavati;
nipakasmṛtir guptasmṛtimānasaḥ sahāvasthāvacārakaḥ;
sa cakṣuṣo rūpāṇi dṛṣṭvā na nimittagrāhī bhavati;
nānuvyañjanagrāhī;

Cf. (AKvy 81) cakṣuṣā rūpāṇi dṛṣṭvā na nimittagrāhī bhavati nānuvyaṃjanagrāhīti viṣtaraḥ.

98 Cf. 釋惠敏「戒律與禪定」『中華佛學學報』第6期, 1993, pp.31-54.

8. (Śbh I 16) abhyavakāśaṃ pravrajya,

【VS 4.6(1) **漸次** (rim pa)】
dran pa nye bar gzhag pa bzhi bsgom pa la ni rim pa lnga yod par rig par bya'o | 366a3
復次。**修**四念住。應知略有。五種漸次。

9. (Śbh I 16) yan nv ahaṃ

7-9. dad pa'i sgo nas nges par 'byung ba dang |366a3
一。信增上力清淨出家。
10. tshul khrims bsdam pa dang | 366a4
二。戒律儀。

10a. (Śbh I 16) sarvaṃ kaḍatravargaṃ dhanadhānyahiraṇyaṃ cotsṛjya svākhyāte dharmavinaye samyag evāgārād anagārikāṃ pravrajeyaṃ,

11-14. dbang po bsdam pa dang | 366a4
三。根律儀。

15. rab tu dben par gnas pa dang | 366a4
四。樂遠離。

10b. (Śbh I 16) pravrajitvā ca pratipattyā saṃpādayeyam" iti |

16. sgrib pa rnam par dag pa'o | 366a4
五。蓋清淨。

11. (Śbh I 16)[99] sa tam eva śīlasaṃvaraṃ niśrityārakṣitasmṛtir bhavati nipakasmṛtiḥ smṛtyārakṣitamānasaḥ samāvasthāvacārakaḥ |
sa cakṣuṣā rūpāṇi dṛṣṭvā na nimittagrāhī bhavati, nānuvyaṃjanagrāhī;

khyim pa rnams ni dran pa nye bar gzhag pa bsgom pa la dad pa yang yod, sgrib pa yang rnam par dag mod bslab pa'i gzhi rnams ma tshang zhing yongs su ma rdzogs par rig par bya'o | 366a4
諸在家者。雖復數數。修諸念住。獲[←護]得淨信。諸蓋清淨。然闕學處。當知所修。不得圓滿。

Cf. (PSP 5:146) cakṣuṣā rūpāṇi dṛṣṭvā na nimittagrāhī bhavati nānuvyañjanagrāhī bhavati,

---

99 (I)-A-II-4-b-(6) Ms.2b6L, Sh.9-13, W.*61-20, P.6a3, Ch.397a19.
Cf. Śbh II 180 [-II-12-b-(1)-i-(c) Ms.85a6M, Sh.292-15, P.132b1, Ch.440a23].
tatra smṛtyārakṣā yathoktaṃ pūrvam ev"**ārakṣitasmṛtir bhavati nipakasmṛtir**" iti | tatra viṣayāsaṃkleśāya | yathoktaṃ "**smṛtyārakṣitamānasaḥ samāvasthācārako**" "**na nimittagrāhī nānuvyañjanagrāhī**"

12. 若於眼根。住不律儀。世間貪憂。惡不善法。常漏於心。
若し眼根に於いて不律儀に住すれば、世間の貪憂・惡不善法、常に心より漏る。

12. (SBV II 240) yato 'dhikaraṇam eva cakṣurindriyeṇa asaṃvarasaṃvṛtasya viharataḥ abhidhyādaurmanasye loke pāpakā akuśalā dharmāś cittam anusravanti;

13. 而今於眼起正律儀。耳鼻舌身意。起正律儀。亦復如是。
而るに今、眼に於いて正律儀を起こし、耳・鼻・舌・身・意に正律儀を起こすも亦復た是の如くにして、

13. (SBV II 240) teṣāṃ saṃvarāya pratipadyate; rakṣati cakṣurindriyaṃ; cakṣurindriyeṇa saṃvaram āpadyate; śrotrendriyeṇa śabdān ghrāṇendriyeṇa gandhān jihvayā rasān kāyena spraṣṭavyāni manasā dharmān vijñāya na nimittagrāhī nānuvyañjanagrāhī;

13b. (SBV II 240) yato 'dhikaraṇam eva manaindriyāsaṃvarasaṃvṛtasya viharataḥ abhidhyādaurmanasye loke pāpakā akuśalā dharmāś cittam anusravanti; teṣāṃ saṃvarāya pratipadyate; rakṣati manaindriyaṃ; manaindriyeṇa saṃvaraṃ pratipadyate

14. 彼以賢聖戒律成就。善攝根門。來往周旋。顧視屈伸坐臥眠覺。語默住智正智。
彼れは賢聖の戒律の成就せるを以て善く根門を攝し、來往周旋・顧視屈伸・坐臥眠覺・語默し、智に住し智を正す。

14. (SBV II 241) so 'nena āryeṇa śīlaskandhena samanvāgataḥ anayā ca indriyaguptadvāratayā adhyātmam anavadyasukhaṃ saṃvedayate; so 'tikramapratikrame saṃprajānavihārī bhavati; ālokitavyavalokite samiñjitaprasārite saṃghāṭīpātracīvaradhāraṇe gate sthite niṣaṇṇe śayite jāgarite bhāṣite tūṣṇīṃbhāve nidrāklamaprativinodane saṃprajānavihārī bhavati;

12. (Śbh I 16) yato 'dhikaraṇam asya pāpakā akuśalā dharmāś cittam anusraveyuḥ,

12. Cf. (PSP 5:146) yathāvikaraṇam evaṃ cakṣurindriyeṇāsaṃvarasaṃvṛtaṃ viharantam abhidhyādaurmanasyāḥ pāpakā akuśalā dharmāś cittam anuśraveyuḥ,

13. (Śbh I 18) teṣāṃ saṃvarāya pratipadyate, rakṣati cakṣurindriyam, cakṣurindriyeṇa saṃvaram āpadyate. sa śrotreṇa śabdān, ghrāṇena gandhān, jihvayā rasān, kāyena spraṣṭavyāni, manasā dharmān vijñāya na nimittagrāhī bhavati nānuvyaṃjanagrāhī,

13. Cf. (PSP 5:146) teṣāṃ saṃvarāya pratipadyate rakṣati cakṣurindriyam. evaṃ śrotreṇa śabdān śrutvā, ghrāṇena gandhān āghrāya, jihvayā rasān āsvādya, kāyena spraṣṭavyaṃ spṛṣṭvā, manasā dharmān vijñāya na nimittagrāhī bhavati, nānuvyañjanagrāhī bhavati,

13b. (Śbh I 18) yato 'dhikaraṇam asya pāpakā akuśalā dharmāś cittam anusraveyuḥ, teṣāṃ saṃvarāya pratipadyate, rakṣati mana-indriyaṃ, mana-indriyeṇa saṃvaram āpadyate.

13b. Cf. (PSP 5:146) yathāvikaraṇam evaṃ manaindriyenāsaṃvarasaṃvṛtaṃ viharantam abhidhyādaurmanasyāḥ pāpakā akuśalā dharmāś cittam anuśraveyuḥ, teṣāṃ saṃvarāya pratipadyate, rakṣati manaindriyaṃ.

14. (Śbh I 20)[100] saṃprajānadvihāritā katamā | sa tathā jāgarikānuyukto 'bhikramapratikrame saṃprajānadvihārī bhavati, ālokitavyavalokite saṃmiñjitaprasārite sāṃghāṭīcīvarapātradhāraṇe 'śitapītakhāditasvādite nidrāklamavinodane gate sthite niṣaṇṇe śayite jāgṛte bhāṣite tūṣṇīṃbhāve saṃprajānadvihārī bhavati | iyam ucyate saṃprajānadvihāritā ‖

14. Cf. (PSP 5:146) sa gacchann api tiṣṭhann api niṣaṇṇo 'pi śayāno 'pi bhāṣamāno 'pi tūṣṇībhūto 'pi samāhitāvasthāṃ na jahāti na vijahāti,

100 (I)-A-II-4-b-(9) Ms.3a3M, Sh.11-10, W.*62-34, P.6b7, Ch.397b16.

15. 彼成就如此聖戒。守護根門。正智正念。寂靜遠離。空處樹下。閑房獨坐。正身正念。繫心安住。
彼れは此の如き聖戒を成就し、根門を守護し、正智・正念もて寂靜にして遠離し、空處の樹下の閑房に獨坐す。正身・正念にして、

15. (SBV II 241) so 'nena āryeṇa śīlaskandhena samanvāgataḥ anayā ca indriyaguptadvāratayā anena ca parameṇa smṛtisaṃprajanyena samanvāgataḥ prāntāni śayanāsanāny adhyāvasati araṇyāni vṛkṣamūlāni śūnyāgārāṇi; so 'raṇyagato vā vṛkṣamūlagato vā śūnyāgāragato vā niṣīdati paryaṃkam ābhujya ṛjuṃ kāyaṃ praṇidhāya pratimukhāṃ smṛtim upasthāpya;

16. 斷世貪憂。離貪欲。淨除貪欲。斷世瞋恚睡眠掉悔疑蓋。離瞋恚睡眠掉悔疑蓋。淨除瞋恚睡眠掉悔疑蓋。
心に繫けて安住し、世の貪憂を斷じ、貪欲を離れ、貪欲を淨除し、世の瞋恚・睡眠・掉悔・疑蓋を斷じ、瞋恚・睡眠・掉悔・疑蓋を離れ、瞋恚・睡眠・掉悔・疑蓋を淨除し、

16. (SBV II 241) so 'bhidhyāṃ loke prahāya vigatābhidhyena cetasā bahulaṃ viharati; abhidhyāyāś cittaṃ pariśodhayati; vyāpādastyānamiddham auddhatyakaukṛtyavicikitsāṃ loke prahāya tīrṇakāṅkṣo bhavati; tīrṇavicikitsākāṃkṣaḥ kuśaladharmeṣu vicikitsāyāś cittaṃ pariśodhayati.

17. 斷除五蓋惱心慧力羸諸障閡分。不趣涅槃者。
五蓋の惱を斷除す。心慧力の羸き諸の障閡分の、涅槃に趣かざる者は、

17. (SBV II 242) evam eva imāni paṃcavaraṇāni prahāya prajñādaurbalyakarāṇi vighāṭapakṣyāṇy anirvāṇasaṃvartanīyāni.

18. 是故内身身觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。如是外身内外身。受心法。法觀念住。亦如是説。
是れ故に、内身の身觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、是の如く、外身・内外身・受・心・法の法觀念に住するも亦た是の如く説く。

18. MPS14.25(=MPS 10.14) *tasmād* iha bhikṣur adhyātmaṃ kāye kāyānupaśyī viharaty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam.

MPS10.14 bahirdhā kā)ye 'dhyātmabahirdhā kāye *'dhyātmaṃ vedanāsu bahirdhā vedanāsv (adhyātmabahirdhā vedanāsv adhyātmaṃ citte bahirdhā citte 'dhyātmabahirdhā citte*, MPS10.14 adhyātmaṃ dharme)ṣu bahirdhā dharmeṣv adhyātmabahirdhā dharmeṣu dharmānupaśyī vi(haraty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam.

19. 是名比丘**修**四念處。
是れを比丘の四念處を修すると名づく。

19. *iti bhikṣavo caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ **bhāvanā**.*

20. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

20. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

15. Cf. (Śbh I 20)[101] prāvivekyaṃ katamat | sa ebhir dharmaiḥ parikarmabhūmiṃ śodhayitvā viviktāni śayanāsanāny adhyāvasaty araṇyāni vṛkṣamūlāni śūnyāgārāṇi parvatakandaragiriguhāpalālapuṃjābhya vakāśaśmaśānavanaprasthāni prāntāni śayanāsanāni | idam ucyate prāvivekyam ‖

16. Cf. (Śbh I 20)[102] nivaraṇaviśuddhiḥ katamā | so 'raṇyagato vā vṛkṣamūlagato vā śūnyāgāragato vā pañcabhyo nivaraṇebhyaś cittaṃ viśodhayati, kāmacchandād vyāpādāt styānamiddhād auddhatyakaukṛtyād vicikitsāyāḥ | sa ebhyo nivaraṇebhyaś cittaṃ viśodhya vinivaraṇam samādhikalyatāyām avasthāpayati | iyam ucyate nivaraṇaviśuddhiḥ ‖

17. Cf. (Śbh I 20)[103] samādhisaṃniśrayaḥ katamaḥ | sa pañca nivaraṇāni prahāya cetasa upakleśakarāṇi saṃkleśakarāṇi |

101 (I)-A-II-4-b-(10) Ms.3a4M, Sh.12-4, W.*63-9, P.7a2, Ch.397b22.
102 (I)-A-II-4-b-(11) Ms.3a5L, Sh.13-1, W.*63-11, P.7a4, Ch.397b26.
103 (I)-A-II-4-b-(12)-(i),(ii),(iii),(iv) Ms.3a6L, Sh.14-1, W.*63-16, P.7a6, Ch.397c2.

(637)[104]

1. 如是我聞。一時佛住舍衛國祇樹給孤獨園。爾時世尊告諸比丘。
是の如く我聞けり。一時、佛は舍衛國の祇樹給孤獨園に住せり。爾の時、世尊は諸の比丘に告げたり。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye bhagavāñ *cch*rāvastyāṃ viharati jetavane anāthapiṇḍadasyārāme.
tatra bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

2. 當**修**四念處。如上廣説。差別者。乃至如是。
當に四念處を修すべし。上に廣説せるが如し。差別せば、乃至、是の如く、

2. *caturṇāṃ smṛtyupasthānānāṃ* vo bhikṣavo ***bhāvanāṃ*** *deśayiṣyāmi*.

(SBV II 232)

3. 出家已住於靜處。攝受波羅提木叉律儀。行處具足。於細微罪。生大怖畏。受持學戒。
出家し已わり、靜處に於いて住し、波羅提木叉を攝受し、律儀行處を具足し、細微の罪に於いて大怖畏を生じ、學戒を受持して、

3. sa evaṃ pravrajitaḥ san śīlavān viharati; prātimokṣasaṃvarasamvṛtaḥ ācāragocarasaṃpannaḥ aṇumātreṣv avadyeṣu bhayadarśī samādāpayati, śikṣate śikṣāpadeṣu;

(SBV II 232)

4. 離殺斷殺不樂殺生。乃至一切業跡如前説[105]
殺すことを離れ、殺すことを斷じ、殺生を樂わず、乃至、一切の業跡は前に説けるが如く、

4. sa prāṇātipātaṃ prahāya prāṇātipātāt prativirato bhavati; nyastadaṇḍaḥ nyastaśastraḥ lajjī dayāvān sarvasatvaprāṇibhūteṣv antataḥ kuntapipīlakaprāṇinam upādāya prāṇātipātāt prativirato bhavati.

(SBV II 233)

5. 衣鉢隨身。如鳥兩翼。如是學戒成就。修四念處。
衣鉢の身に隨うこと、鳥の兩翼の如く、是の如く、學戒成就し、四念處を修す。

5. yena yena prakrāmati sapātracīvaraḥ prakrāmati; tadyathā pakṣī śakunako yena yenoḍḍayate sapakṣaḥ sapalāśaḥ uḍḍayate;

6. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

6. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

104 SN.47.46, Pātimokkha (V pp.187-188).
105 第490経（巻18「弟子所説誦第四品」） 参照。Cf. Chung [IV-1]; SN 38. Jambukhādaka.「閻浮車問舍利弗。謂業跡。云何為業跡。舍利弗言。業跡者、十不善業跡、謂殺生、偷盜、邪婬、妄語、兩舌、惡口、綺語、貪欲、瞋恚、邪見」(T2. p.128, a16-18)

【VS 4.7 **戒圓滿** (tshul khrims phun sum tshogs)】

dge slong tshul khrims dang ldan pa ni rgyu gsum gyis tshul bzhin du 'tsho ba phun sum tshogs pa yin bar rig par bya ste當知 | 366a5
復次。由三因緣。具戒苾芻。當知禁戒。淨命圓滿。

gsum gang zhe na | 366a5
云何為三。

spyod pa phun sum tshogs pa dang | 366a5
一。所行圓滿。

len pa phun sum tshogs pa dang | 366a6
二。攝取圓滿。

longs spyod pa phun sum tshogs pa'o | 366a6
三。受用圓滿。

4. de la longs (D. omits) spyod pa phun sum tshogs pa ni nyo tshong nas bzung ste |
所行圓滿者。謂從買賣。乃至

gsod pa dang 'ching ba dang | gcod pa (atipāta) dang | rdeg pa lhur len pa'i bar du spong ba'o遠離 | 365a6
害縛。斷截撾打。揣摩等事。皆悉遠離
Cf. (SBV II 233) vadhabandhana-chedanatāḍana-parāmarśāt prativirato bhavati.

len pa phun sum tshogs pa ni glang bo che dang rta la sogs pa
攝取圓滿者。謂於攝取。象馬等事。

Cf. (SBV II 233) hastyaśvagaveḍaka-kukkuṭasūkarapratigrahāt prativirato bhavati.

len pa nas 'bras rjen pa len pa'i bar du spong ba'o | 365a7
乃至攝取。生穀等事。皆悉遠離。

Cf. (SBV II 233) āmadhānyapratigrahāt prativirato bhavati.

5. longs spyod pa受用 phun sum tshogs pa圓滿 ni lus身 gang gi gos衣 tsam僅 dang |

受用圓滿者。謂衣僅蔽身。
Cf. (SBV II 233) sa kāyapārihārikeṇa cīvareṇa tuṣṭo bhavati saṃtuṣṭaḥ;

lto gang gi zas tsam gyis tshogs (D. chog) par 'dzin pa dang | 365a7
食纔充腹。便生喜足。

Cf. (SBV II 233) sa ekabhaktiko bhavati;
or (SBV II 233) *kukṣipāripūrikeṇa piṇḍapātikena tuṣṭo bhavati saṃtuṣṭo;*

dus ma yin pa'i zas spong ba'o | 365a8
於餘長物非時食等皆悉遠離。

Cf. (SBV II 233) sa rātryuparataḥ; viratotkālabhojanaḥ kālacārī kālacaryāyogam anuyuktaḥ;

(638)[106]

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、

2. 佛在王舍城迦蘭陀竹園。
佛は王舍城の迦蘭陀竹園に在りき。

3. 爾時尊者舍利弗。住摩竭提那羅聚(T2,176c)落。疾病涅槃。純陀沙彌瞻視供養。
爾の時、尊者舍利弗は摩竭提の那羅聚落に住し、疾病もて涅槃せり。純陀沙彌は瞻視し供養せり。

4. 爾時尊者舍利弗因病涅槃。時純陀沙彌供養尊者舍利弗已。取餘舍利。擔持衣鉢。到王舍城。
爾の時、尊者舍利弗は病に因り涅槃せり。時に、純陀沙彌は尊者舍利弗を供養し已わり、餘の舍利を取り、衣鉢を擔持し、王舍城に到り、

5. 擧衣鉢洗足已。詣尊者阿難所。禮尊者阿難足已。却住一面。白尊者阿難。
衣鉢を擧げ足を洗い已わり、尊者阿難の所に詣りて、尊者阿難の足に禮し已わり、却って一面に住し、尊者阿難に白せり。

6. 尊者當知。我和上尊者舍利弗已涅槃。我持舍利及衣鉢來。
「尊者、當に知るべし。我が和上、尊者舍利弗は已に涅槃せり。我れは舍利及び衣鉢を持ち來たりぬ」と。

7. 於是尊者阿難聞純陀沙彌語已。往詣佛所。白佛言。
是に於いて尊者阿難は純陀沙彌の語るを聞き已わり、佛の所に往詣し、佛に白して言わく。

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. bhagavān rājagṛhe viharati veṇuvane kalandakanivāpe | (NidSa 6.1)

3. *tena khalu samayenāyuṣmāñ cchāriputro magadheṣu viharati nāladagrāmake,*
Cf. (Cīvaravastu = MSV II 123)
ābādhiko duḥkhito bāḍhaglānaḥ. tasya bhikṣuṇā upasthānam kṛtam | tathāpi kālagataḥ |
Cf. SN.47.13 *tena kho pana samayena, āyasmā sāriputto magadhesu viharati nāḷakagāmake. ābādhiko dukkhito bāḷhagilāno. cundo ca samaṇuddeso āyasmato sāriputtassa upaṭṭhāko hoti.*

4. Cf. SN.47.13 *atha kho āyasmā sāriputto teneva ābādhena parinibbāyi. atha kho cundo samaṇuddeso āyasmato sāriputtassa pattacīvaraṃ ādāya, yena sāvatthi ... ,*

5. rājagṛham anuprāptaḥ. atha cundaḥ śramaṇoddeśaḥ pātracīvaraṃ pratiśamaya pādau prakṣālya yenāyuṣmān ānandaḥ tenopasaṃkrantaḥ; upasaṃkramyāyuṣmantaḥ ānandasya pādau śirasā vanditvā ekānte asthāt; ekāntasthitaś cunda āyuṣmantam ānandam idam avocat.

6. Cf. SN.47.13 *"āyasmā bhante, sāriputto parinibbuto. idam assa pattacīvaran" ti.*

7. ... śrutvā ca punar yena bhagavāṃs tenopasaṅkrāntaḥ; ... bhagavantam idam avocat:
Cf. SN.47.13 *atha kho āyasmā ca ānando cundo ca samaṇuddoso yena bhagavā ten' upasaṅkamiṃsu. upasaṅkamitvā bhagavantaṃ abhivādetvā ekamantaṃ nisīdiṃsu. ekamantaṃ nisinno kho āyasmā ānando bhagavantaṃ etad avoca:*

106 [Chung V-28], SN.47.13, Cuṇḍo (V pp. 161-163). Cf.『生経』巻二「仏説舍利弗般泥洹経」(T3, 79b-80c)、『根本説一切有部毘奈耶雑事』巻十八(T24, 289c-290b).

8. 世尊。我今擧體離解。四方易韻。持辯閉塞。
「世尊。我れ今、擧體離解し、四方に易韻し、持辯閉塞しぬ。

8. Cf. SN.47.13 *api ca me bhante, madhurakajāto viya kāyo.* [107]*disāpi me na pakkhāyanti. dhammāpi maṃ na ppaṭibhanti. āyasmā sāriputto parinibbuto'ti sutvā'ti.*

9. 純陀沙彌來語我言。和上舍利弗已涅槃。持餘舍利及衣鉢來。
純陀沙彌は來たりて我に語りて言わく。『和上、舍利弗は已に涅槃せり。餘の舍利及び衣鉢を持ち來たりぬ』」と。

9. Cf. SN.47.13 *"ayaṃ bhante, cundo samaṇuddeso evam āha. āyasmā bhante, sāriputto parinibbuto, idam assa pattacīvaran"ti.*

10. 佛言。云何阿難。彼舍利弗。持所受戒身涅槃耶。定身慧身解脱身解脱知見身涅槃耶。阿難白佛言。不也世尊。
佛は言わく。云何が阿難、彼の舍利弗は受ける所の戒身を持ち涅槃せる耶。定身・慧身・解脱身・解脱知見身もて涅槃せる耶。阿難は佛に白して言わく。
「しからず、世尊」と。

10. (Śayanāsanavastu =MSV III 131)
śaikṣān dharmān aparipūrya śīlaskandhaṃ samādhiskandhaṃ prajñāskandhaṃ vimuktiskandhaṃ vimuktijñānadarśanaskandhaṃ paripūrayiṣyati nedaṃ sthānaṃ vidyate; vimuktijñānadarśanaskandham aparipūryānupādāya (Śay-v 10)
parinirvāsyati nedaṃ sthānaṃ vidyate;

11. 佛告阿難。若法我自知。成等正覺所説。謂四念處。四正斷。四如意足。五根。五力。七覺支八道支涅槃耶。
佛は阿難に告げたり。若しくは、法にして我れ自ら知り、等正覺を成じ説く所の、謂わく、四念處・四正斷・四如意足・五根・五力・七覺支・八道支もて涅槃せる耶。

Cf. SN.47.13 *kinnu kho te ānanda, sāriputto sīlakkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, samādhikkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, paññākkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, vimuttikkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, vimuttiñāṇa-dassanakkhandhaṃ vā ādāya parinibbutoti. na kho me bhante. āyasmā sīlakkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, samādhikkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, paññākkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto, vimuttikkhan- dhaṃ vā ādāya parinibbuto, vimuttiñāṇadassanakkhandhaṃ vā ādāya parinibbuto.*

12a. 阿難白佛。不也世尊。雖不持所受戒身乃至道品法而涅槃。
阿難は佛に白せり。しからず、世尊。受ける所の戒身、乃至、道品の法を持たずして而して涅槃すと雖も、

12a. *nedaṃ sthānaṃ vidyate; śaikṣān dharmān aparipūrya śīlaskandhaṃ ...* (see above 10)

107 サンスクリットでは"diśo me na pratibhā-."の句が仏典や『マハーバーラタ』に知られる。Divy 308.5, Mv 2.480; MBh 1,48.21. 4,41.16. See SWTF II p.441a, s.v. "2 diś-" f., nom.pl. DĀ(U.H.) Hs.178 Rb.

12b. 然尊者舍利弗持戒多聞。少欲知足。常行遠離。精勤方便。攝念安住。一心正受。
然も尊者舍利弗は戒を持し多く聞き、少欲知足にして、常に遠離を行じ、精勤し方便して、念を攝し安住し、一心に正受し、

12b. Cf. (PSP 4:44) punar aparaṃ ... alpeccho bhaviṣyati saṃtuṣṭaḥ pravivikta ārabdhavīrya upasthitasmṛtiḥ samāhita ekāgracittaḥ prajñāvān,

Cf. SN.47.13 *api ca bhante, āyasmā sāriputto ovādako ahosi, viññapako sandassako samādapako samuttejako sampahaṃsako akilāsu dhammadesanāya, anuggāhako sabrahmacārīnaṃ.*

13. 捷疾智慧。深利智慧。超出智慧。分別智慧。大智慧。廣智慧。甚深智慧。無等智慧。智寶成就。能視能教能照能喜*善能讚歎。爲衆説法。
捷疾なる智慧、深利の智慧、超出の智慧、分別の智慧、大なる智慧、廣き智慧、甚深なる智慧、等しきもの無き智慧、智の寶成就し、能く視、能く教え、能く照らし、能く喜捨*[>善]し、能く讃歎し、衆の爲に法を説けり。

13. [108] SHT IV 162 b R 6-9
+ + + (smṛtyu)(R7)[pa]sthānāny= (āse)[v](i)tāni bh(āvitāni ba)hulīkṛtāni prajñāpra(t)i[l]ā[bh]āya saṃvartante katamāni ca[tv](āri) + (īryā)(R8)pathā prajñāpratilābhāya (‖ (bR7)prajñāvirū)ḍhaye ‖ pra[jñ](āvṛd)dh(a)[y](e) ‖ prajñāvaipulyāya ‖ [p](ra)jñāvyavadā[n]āya (‖) (bR8)8 + (pra)(bR9) jñāparipūraye ‖ prajñāyā a + + + + + + [y]e ‖ javanaprajñatāyai ‖ + .. praj[ñat]ā(yai ‖)

Cf. SN.47.13 *taṃ mayaṃ āyasmato sāriputtassa dhammojaṃ dhammabhogaṃ dhammānuggahaṃ anussarāmā'ti.*

14. 是故世尊。我爲法故。爲受法者故。愁憂苦惱。
是れ故に、世尊、我れ法の爲の故に、法を受く者の爲の故に、愁憂し苦惱す。

15. 佛告阿難。汝莫愁憂苦惱。所以者何。若*坐若起若作有爲敗壞之法。何得不壞。欲令不壞者。無有是處。
佛は阿難に告げたり。汝、愁憂し苦惱すること莫かれ。所以は何。若しくは生*[>坐]じ、若しくは起こり、若しくは作すも、有爲にして敗壞の法は、何ぞ壞れざるを得んや。壞れざら令めんと欲するも、是の處有ること無し。

15. MPS14.20 [mānan](da) śoca (<mā tasmāt tvam ānanda śoca) mā klāma ‖ mā parideva ‖ (<kasmād eva) tat kuta etal labhy(am yat taj jātaṃ bhūtam kṛtam saṃskṛtam vedayi)taṃ pratītyasamutpannaṃ kṣayadharmaṃ vyayadharmaṃ vi(rodhadharmaṃ pralopadharmaṃ tad bata na pralopyate (<*prarujya*te)[109]. nedaṃ sthānaṃ vidyate.
(SHT I 618 R 1-2)[110]

108 Cf.SĀ(Hos5): 道16, 35f.
109 "pralopyate," in SWBT 18. Lieferung, s.v. "pra-lup" (p.207).
110 SHT I 618の残存部分をアンダーラインで示し、MSPの還梵が異なる文は(<)の中に、SHT I 618にある語句は{ }内に収め。

Cf. AKBh 363, 12.
AK-up Hj [6046][111] pp.748-751.
ming chen 'di na 'phags pa nyan thos sangs rgyas la dad pa mi phyed pa dang chos dang dge 'dun la dad pa mi phyed par 'gyur zhing,
①shes rab che ba dang,
②shes rab myur ba dang,
③shes rab rno ba dang,
④nges par 'byung ba'i shes rab dang,
⑤skyo ba'i shes rab dang,
⑥rnam par grol ba'i shes rab dang yang dag par ldan ba dang,
rnam par thar pa brgyad lus kyis mngon sum du byas nas gnas shing 'di'i shes rab zag par lta ba yongs su zad pa ste,

gzhan yang ming chen 'phags pa nyan thos sangs rgyas la dad pa mi phyed pa zhes bya ba nas,
chos dang dge 'dun la dad pa mi phyed pa dang ldan zhing,
①mgyogs pa'i shes rab dang,
javanaprajñaḥ (mvyut_1103)
②myur ba'i shes rab dang,
āśuprajñaḥ (mvyut_1102)
③rno ba'i shes rab dang,
tīkṣṇaprajñaḥ (mvyut_1104)
④nges par 'byung ba'i shes rab dang,
niḥsaraṇaḥ (mvyut_1201)
nyes par 'byung ba'i shes rab can **
niḥsaraṇaprajñaḥ (mvyut_1105)
⑤skyo ba'i shes rab dang,
skyo ba ; udvegaḥ (mvyut_6811)
⑥rnam par grol ba'i shes rab dang
shes rab kyis rnam par grol ba **
prajñāvimuktaḥ (mvyut_1027)

yang dag par ldan pa,
kun du sbyor ba gsum spangs shing yongs su shes par gyur ba ste, 'di lta ste,
'jig tsogs la lta ba dang, tsul khrims dang, brtul zhugs mchog tu 'dzin pa dang, the tsom mo ‖

111 雑阿含33, 936 (T2.239c-240b); 別訳雑阿含8, 160 (T2.434bc); SN55, 24 (vol. V, 375-377)

16. 我先已説。一切所愛念。種種諸物。適意之事。一切皆是乖離之法。不可常保。
我れ先に已に説きぬ。一切の愛念する所の種種の諸物・適意の事は、一切皆な是れ乖離の法にして、常に保つ可からず。

17. 譬如大樹根莖枝葉華果茂盛。大枝先折。
譬えば、大樹の根・莖・枝・葉・華・果の茂盛なるに、大枝先ず折れるが如く、

18. 如大寶山大巖先崩。
大寶山の大巖が先ず崩るるが如く、

19. 如是如來大衆眷屬。其大聲聞(T2,177a)先般涅槃。
是の如く、如來の大衆の眷屬にては其の大聲聞が先ず般涅槃せり。

20. 若彼方有舍利弗住者。於彼方我則無事。然其彼方。我則不空。以有舍利弗故。
若し彼方に舍利弗の住する有らば、彼方に於いては我れ則ち無事なり。然も其そ彼方に、我れ則ち空しからず。舍利弗有るを以ての故に。

16. MPS14.21 pratiyaty eva (<prāg eva [112] bhikṣavo) mayā ākhyātaṃ (<mayākhyātaṃ) sarvair iṣṭaiḥ kāntaiḥ priyair manāpai(r nānābhāvo bhavisyati vināBhāvo viprayogo visamyogah.) (SHT I 618 R 2-3)

17. NidSa 2.4 tadyathā mahāvṛkṣasya mūlavataḥ skandhavataḥ sāravataḥ śākhāpattraphalopetasya yāni cādhogatāni mūlāni tāny tāny ūrdhvam ojam abhiharanti. evaṃ hi sa mahāvṛkṣas tadāhāras tadupādāno dīrgham adhvānaṃ tiṣṭhati.

19. Cf. SN.47.13 *evam eva kho ānanda, mahato bhikkhusaṅghassa tiṭṭhato sāravato sāriputto parinibbuto,*

112 "pratiyaty=eva," SWBT 18. Lieferung, s.v. "pratiyatya" (p.179).

21. [113]我先已説故。汝今阿難。如我先説。所可愛念。種種適意之事。皆是別離之法。
我れ先に已に説けるが故なり。汝、今、阿難、我れ先に説けるが如く、愛念す可き所の種種の適意の事は、皆な是れ別離の法なり。

21 MPS14.21 pratiyaty eva (<prāg eva bhikṣavo) mayā ākhyātaṃ (<mayākhyātaṃ) sarvair iṣṭaiḥ kāntaiḥ priyair manāpai(r nānābhāvo bhavisyati vināBhāvo viprayogo visamyogah.) (SHT I 618 R 2-3)

22a. 是故汝今莫大愁毒。
是れ故に、汝、今、大いに愁毒すること莫かれ。

22a. Cf. MPS14.20 [mānan](da) śoca (<mā tasmāt tvam ānanda śoca) mā klāma ‖ mā parideva ‖ (SHT I 618 R 1-2)

22b. 阿難當知。如來不久。亦當過去。
阿難、當に知るべし。如來は久しからずして亦た當に過ぎ去るべきことを。

22b. MPS14.22 tasmāt tarhy (<tasmād) ānanda etarhi (<ānandaitarhi) mam(a vā)tyayād, (SHT I 618 R 3)

23. 是故阿難。當作自洲而自依。當作法洲而法依。當作不異洲不異依。
是れ故に、阿難、當に自らを洲と作し、而して自らに依るべし。當に法を洲と作し、而して法に依るべし。當に異を洲とせず、異に依らざることを作すべし。

23. MPS14.22 ātmadvīpair viharta vyam ātmaśaraṇair dharmadvīpair dha(rmaśaraṇair ananyadvīpair ananyaśaraṇaiḥ. (<(tat kasmād dhetoḥ.)) (SHT I 618 R 3-4)

[MSP14.23 (ye kecid ānanda etarhi (<ānandaitarhi) mama vāt)yayād ātmadvīpā {viharisyanti} ātmaśaraṇā dharmadvīpā dharmaśaraṇā ananyadvīpā a(nanyaśaraṇās te 'gram {iti [śrā]vak[āṇāṃ]} bhavisyanti yaduta (<(mama śr)āvak(āṇāṃ)) śikṣākāmānām ‖); (SHT I 618 R 4-5)

24. 阿難白佛。世尊。云何自洲以自依。云何法洲以法依。云何不異洲不異依。
阿難は佛に白せり。
世尊。云何が自らを洲として以て自らに依り、云何が法を洲として以て法に依り、云何が異を洲とせず異に依らざる。

24. MPS14.24 (katham cānanda bhi)kṣ(u)r ātmadvīpo bhavaty ātmaśaraṇo dharmadvīpo dharmaśaraṇo 'nanyadvīpo 'nanyaśaraṇaḥ. (SHT I 618 R 5)

113 MPS 14.21-26 (27) cf. 細田[2006], 4-6.

25. 佛告阿難。若比丘。身身觀念處。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。如是外身内外身。受心法。法觀念處。亦如是説。
佛は阿難に告げたり。
若し比丘、身の身觀念處に精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、是の如く、外身・内外身・受・心・法の法觀念處にも亦た是の如く説く。

25. MPS14.25 iha bhikṣur (a)dhy(ā)tm (aṃ) kāy(e) kāyānupaśyī viha(raty) ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimā(n) vinīyābhidhyā loke daurmanasyam. *bahirdhā kāye 'dhyātmabahirdhā kāye vedanāsu citte dharmeṣu dharmeṣu dharmānupaśyī viharaty ...*

26. 阿難。是名自洲以自依。法洲以法依。不異洲不異洲依。
阿難。是れを自らを洲として以て自らに依り、法を洲として以て法に依り、異を洲とせず異に依らざると名づく。

26. MPS14.26 evaṃ hi bhikṣur ātmadvīpo bhavaty ātmaśaraṇo dharmadvīpo dharmaśaraṇo 'nanyadvīpo 'nanyaśaraṇaḥ.

27. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

27. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

(639)[114]

1. 如是我聞。一時
是の如く我聞けり。一時、

1. evaṃ mayā śrutam ekasmiṃ samaye

2. 佛住摩偸羅國跋陀羅河側傘蓋菴羅樹林中。
佛は摩偸羅國の跋陀羅河の側なる傘蓋菴羅樹林の中に住せり。

2. bhagavān *mathurāyāṃ viharati* nadyāḥ prabhadrikāyās tīre *cchatrāmravane*[115] .

3. 尊者舍利弗。目揵連涅槃未久。爾時世尊月十五日布薩時。於大衆前敷座而坐。
尊者舍利弗・目揵連、涅槃して未だ久しからざりき。爾の時、世尊、月の十五日の布薩の時、大衆の前に於いて、座を敷きて而して坐せり。

3. [116]*aciraparі[ni](rvṛtayoḥ śāriputramaudgalyānayoḥ.*

[117]atha bhagavāṃs tad eva poṣadhe paṃcadaśyāṃ purastād bhikṣusaṃghasya prajñapta evāsane niṣaṇṇaḥ |

4. 爾時世尊觀察衆會已。告諸比丘。
爾の時、世尊は衆會を觀察し已わり、諸の比丘に告げたり。

4. niṣadya bhagavān bhikṣūn āmantrayate.

5. 我觀大衆。見已虛空。以舍利弗大目揵連般涅槃故。我聲聞。唯此二人。
我れ大衆を觀て、已に虛空なりと見れり。舍利弗・大目揵連の般涅槃せるを以ての故なり。我が聲聞にして、唯だ此の二人は、

5. Cf. SN.47.14 *api ca khvāyaṃ bhikkhave, parisā suññā viya khāyati parinibbutesu sāriputtamoggallānesu,*
asuññā me sā bhikkhave, parisā hoti anapekhā tassaṃ disāyaṃ hoti, yassaṃ disāyaṃ sāriputtamoggallānā viharanti.

6. 善能説法教誡教授辯説滿足。
善能く法を説き、教誡し、教授し、辯説滿足せり。

ATH(I) 5 fragm. a(Mz681) verso2-4(translit. in: TTT VIII, Text A [T II S52] lines 3
(3) śāstu[118].
śrāvākāv[119] abhūtāṃ.

6. Cf. SN.47.14 *acchariyaṃ bhikkhave, sāvakānaṃ abbhutaṃ bhikkhave, sāvakānaṃ satthusamānā ca sāsanakarā bhavissanti ovādapatikarā catunnañ ca parisānaṃ piyā bhavissanti manāpā garubhāvanīyā ca.*

114 Cf. SN.47.14, Ceḷam (V pp. 163-165).
115 {MS chatrāpravane} 八尾[2013] p.568 n.4.
116 SWTF I Nachträge p470b,. s.v. acirapari[ni](rvṛta).
117 Poṣ-v 65.1.
118 1) lies śāstuḥ
119 2) lies śrāvakāv.

7. 有二種財。錢財及法財。錢財者從世人求。法財者從舍利弗大目揵連求。如來已離*施財及法財。
二種の財有り。錢財、及び法財なり。錢財は世人より求む。法財は舍利弗・大目揵連より求む。如來は已に世*[<施]財、及び法財を離れり。

7. AD 4 ad Sūtra 252[120] dve dāne | dharmadānam āmiṣadānaṃ ca | Cf. (EĀ.Trip 33.101) dve dāne āmiṣadānaṃ dharmadānaṃ ca.

8. 汝等莫以舍利弗目揵連涅槃故愁憂苦惱。
汝等、舍利弗・目揵連の涅槃せるを以ての故に、愁憂し苦惱すること莫かれ。

8. See Sūtra 638.15 (MPS14.20)

9. 譬如大樹根莖枝葉華果茂盛。大枝先折。
譬えば、大樹の根・莖・枝・葉・華・果の茂盛なるに、大枝先ず折れるが如く、

10. 亦如寶山大巖先崩。
亦た寶山の大巖が先ず崩るるが如く、

9. NidSa 2.4 tadyathā mahāvṛkṣasya mūlavataḥ skandhavataḥ sāravataḥ śākhāpatraphalopetasya yāni cādhogatāni mūlāni tāny tāny ūrdhvam ojam abhiharanti. evaṃ hi sa mahāvṛkṣas tadāhāras tadupādāno dīrgham adhvānaṃ tiṣṭhati.

11. 如是如來大衆之中。舍利弗。目揵連。二大聲聞。先般涅槃。
是の如く、如來の大衆の中には、舍利弗・目揵連の二大聲聞が先ず般涅槃せり。

9-11. Cf. SN.47.14 *seyyathā'pi bhikkhave, mahato rukkhassa tiṭṭhato sāravato ye mahantarā khandhā te palujjeyyuṃ, evam eva kho bhikkhave, mahato bhikkhusaṅghassa tiṭṭhato sāravato sāriputtamoggallānā parinibbutā.*

12. 是故比丘。汝等勿生愁憂苦惱。
是れ故に、比丘、汝等、愁憂・苦惱を生ずること勿かれ。

12. Sūtra See 638.15. (MPS14.20)

120 sūtra uktam-"—" ... **āmiṣadānaṃ nānnapānam** | suvarṇādisvabhāvaṃ tat, avyākṛtatvāt | cf. AKBh.p.588

13. 何有生法・起法・作法・爲法。壞敗之法。而不磨滅。欲令不壞。無有(T2,177b)是處。
何ぞ生法・起法・作法・爲法・壞敗の法にして磨滅せざるもの有らんや。壞れざら令めんと欲するも、是の處有ること無し。

14. 我先已説。一切可愛之物。皆歸離散。我今不久亦當過去。
我れ先に已に説きぬ。一切の愛す可きの物は皆な離散に歸す。我れ今、久しからずして亦た當に過ぎ去るべし。

15. 是故汝等。當知自洲以自依。法洲以法依。不異洲不異依。謂内身身觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。如是外身内外身受心法。法觀念住。精勤方便。正智正念。調伏世間貪憂。
是れ故に、汝等、當に知るべし。自らを洲として以て自らに依り、法を洲として以て法に依り、異を洲とせず異に依らざることを。謂わく、内身の身觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏し、是の如く、外身、内外身、受・心・法の法觀念に住し、精勤し方便して、正智・正念もて世間の貪憂を調伏す。

16. 是名自洲以自依。法洲以法依。不異洲不異依。
是れを自らを洲として以て自らに依り、法を洲として以て法に依り、異を洲とせず異に依らざると名づく。

17. 佛説此經已。諸比丘聞佛所説。歡喜奉行。
佛は此の經を説き已えたり。諸の比丘は佛の所説を聞きて、歡喜奉行せり。

[雜阿含經卷第二十四][121]

13. MPS14.20 tat kuta etal labhy(am yat taj jātaṃ bhūtaṃ kṛtaṃ saṃskṛtaṃ vedayi)taṃ pratītyasamutpannaṃ kṣayadharmaṃ vyayadharmam vi(rodhadharmam pralopadharmam tad bata na pralopyate (<*prarujya*te). nedaṃ sthānaṃ vidyate.
(SHT I 618 R 1-2)

14. Cf. MPS14.21 pratiyaty eva (<prāg eva bhikṣavo) mayā ākhyātam (<mayākhyātaṃ) sarvair iṣṭaiḥ kāntaiḥ priyair manāpai(r nānābhāvo bhavisyati vinābhāvo viprayogo visaṃyogaḥ.)
(SHT I 618 R 2-3)

15. MPS14.23 ... ātmadvīpair vihartavyam ātmaśaraṇair dharmadvīpair dha(rmaśaraṇair ananyadvīpair ananyaśaraṇaiḥ.

MPS14.25 iha bhikṣur (a)dhy(ā)tm(aṃ) kāy(e) kāyānupaśyī viha(raty) ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimā(n) vinīyābhidhyā loke daurmanasyam. bahirdhā kāye 'dhyātmabahirdhā kāye 'dhyātmaṃ vedanāsu bahirdhā vedanāsv adhyātmabahirdhā vedanāsv adhyātmaṃ citte bahirdhā citte 'dhyātmabahirdhā citte 'dhyātmaṃ dharmeṣu bahirdhā dharmeṣv adhyātmabahirdhā dharmeṣu dharmānupaśyī viharaty ātāpī saṃprajānaḥ smṛtimān vinīyābhidhyā loke daurmanasyam.

16. MPS14.26 evaṃ hi bhikṣur ātmadvīpo bhavaty ātmaśaraṇo dharmadvīpo dharmaśaraṇo 'nanyadvīpo 'nanyaśaraṇaḥ.

17. atha te bhikṣavo bhagavato bhāṣitam abhyanandan. *abhinandyānumodya bhagavato 'ntikāt prakrāntāḥ.*

121 本来の「雜阿含經卷第二十五」は失われたが、残余の念處相応経に対する「摂事分」の記事[VS 4.8-9]を「声聞地」の関連箇所とともに、639a, 639bとして次頁に挙げる。細田[2003]参照。

(639a*)【VS 4.8 **穗** (gra ma)】
lus la sogs pa'i chos bzhi ni lam gyi bzhi mdo lta bu'o | 365a8
復次身等四法。如**四大路**。

de dag la tshul bzhin ma yin pa yid la byed pa ni 'bras dang nas kyi gra ma bsnyal te | gzhag pa lta bu'o | 365a8
於彼所生。非理作意。如邪祈願。**稻穀麥穗**。

de dag la tshul bzhin yid la byed pa ni 'bras dang nas kyi gra ma legs par bzhag pa lta bu yin par rig par bya'o | 366b-1
於彼所生。如理作意。如正祈願。**稻穀麥穗**。

'dod pa'i khams mnyam par ma bzhag pa'i sa ni pags pa lta bu'o | 366b-1
當知**欲界**。是不定地。猶如其**皮**。

gzugs dang gzugs med pa'i khams mnyam par bzhag pa'i sa ni sha lta bu'o | 366b-1
色無色界。俱是定地。猶如其**肉**。

ma rig pa'i khams gsum du zag pa gsum gyi zag par 'gyur ba'i don gyis khrag lta bu'o | 366b-2
無明如**血**。於三界中。由三種漏。有淋漏義。

Cf. SN.47.50 (Āsavasuttaṃ, cf. SA 1228)
*1 tayo'me bhikkhave āsavā. katame tayo: **kāmāsavo bhavāsavo avijjāsavo**. ime kho bhikkhave, tayo āsavā.*
2 imesaṃ kho bhikkhave. tiṇṇannaṃ āsavānaṃ pahānāya cattāro satipaṭṭhānā bhāvetabbā.
8 imesaṃ kho bhikkhave, tiṇṇannaṃ āsavānaṃ pahānāya ime cattāro satipaṭṭhānā bhāvetabbāti.

(Śbh II 66)[122] yat punar āha. yānena **śivapathikā** dṛṣṭā bhavati | apagata-tvaṅ-māṃsa-śoṇita-snāyūpanibaddhe"ty anena vilohitakam ākhyātam | 若復說言由**愴怕路**見彼彼屍。離皮肉血筋脈纏裹。此即顯示所有變赤。(p. 429b13-14)

(Śbh II 194)[123]
tatra caturṇāṃ viparyāsānāṃ pratipakṣeṇa bhagavatā **catvāri smṛtyupasthānāni** vyavasthāpitāni | 又為對治四顛倒故。世尊建立**四種念住**。謂為對。(p.441c6-7)

Cf. NidSa 23.11b
kim āsravān yathābhūtaṃ prajānāti | traya āsravāḥ | kāmāsravo bhavāsravo 'vidyāsravaḥ | ima āsravāḥ | evam āsravān yathābhūtaṃ prajānāti |
云何有病如實知。謂三病。欲病。有病。無明病。是名病。如是病如實知。(p.94c18-20)

AKBh 306,2 (V. 34)
eta eva anuśayāḥ **sūtre bhagavatā traya āsravā uktāḥ** -- kāmāsravaḥ, bhavāsravaḥ, avidyāsrava iti |

AK-bh(Pā)[387] 306,13-15 (V. 35)
prakaraṇeṣu ca uktam. bhavāsravaḥ katamaḥ | avidyām sthāpayitvā yāni tadanyāni rūpārūpyapratisaṃyuktāni | saṃyojanabandhanānuśayopakleśaparyavasthānānīti |
『品類足論』卷5「欲漏云何。謂除欲界繫無明　諸餘欲界繫　結縛隨眠　隨煩惱纏是名欲漏。」(T26. 717b16-18)
『大毘婆沙論』卷48「品類足說。云何欲漏。謂欲界除無明諸餘結縛隨眠隨煩惱纏。是名欲漏乃至廣說。」(T27, 248b18-20)

122 -II-3-b-(1)-ii-(b)-1',-2',-3',-4' Ms.72b1R, Sh.205-20, Ch.429b6
123 -II-12-b-(1)-v-(d) Ms.87a2L, Sh.303-4, W.*98-5, P.137b2, Ch.441c6.

(Śbh II 194)
tatrāśucau śucīti viparyāsapratipakṣeṇa **kāyasmṛtyupasthānaṃ** vyavasthāpitam | tathā hi bhagavatā kāyasmṛtyupasthānabhāvanāyām aśubhāpratisamyuktāś **catasraḥ śivapathikā** deśitāḥ, yā asya bahulaṃ kurvan manasikurvataḥ, aśucau śucīti viparyāsaḥ prahīyate |
治於不淨中計淨顛倒。立**身念住**。以佛世尊於循身念住中宣說不淨相。應**四愴怕路**。若能於此多分思惟。便於不淨斷淨顛倒。(p.441c7-10)

tatra duḥkhe sukham iti viparyāsapratipakṣeṇa **vedanāsmṛtyupasthānaṃ** vyavasthāpitam | vedanāsu vedanānudarśī viharan "yat kiṃcid veditam idam atra duḥkhasye"ti yathābhūtaṃ prajānāti, evam asya yo duḥkhe sukham iti viparyāsaḥ sa prahāyate |
為欲對治於諸苦中計樂顛倒。立**受念住**。以於諸受住循受觀。如實了知諸所有受皆悉是苦。便於諸苦斷樂顛倒。(p.441c10-13)

tatra anitye nityam iti viparyāsapratipakṣeṇa **cittasmṛtyupasthānaṃ** vyavasthāpitam | tasya sarāgādicittaprabhedena teṣāṃ teṣāṃ rātriṃdivasānām atyayāt kṣaṇalavamuhūrtānām anekavidhānāṃ bahunānāprakāratāṃ (Śbh II 196) cittasyopalabhya yo 'nitye nityam iti viparyāsaḥ sa prahīyate |
為欲對治於無常中計常顛倒。立**心念住**。以能了知有貪心等種種差別。經歷彼彼日夜剎那。瞬息須臾非一衆多種種品類心生滅性。便於無常斷常顛倒。(p.441c13-17)

tatrānātmany ātmeti viparyāsapratipakṣeṇa **dharmasmṛtyupasthānaṃ** vyavasthāpitam |
tasya yeṣām ātmadṛṣṭyādikānāṃ saṃkleśānāṃ sadbhāvād yeṣām anātmadṛṣṭyādikānāṃ kuśalānāṃ dharmāṇām asadbhāvāt skandheṣv ātmadarśanaṃ bhavati, nānyasya, svalakṣaṇataḥ sāmānyalakṣaṇataś ca dharmān dharmānudarśino yathābhūtaṃ paśyataḥ, yo 'nātmany ātmeti viparyāsaḥ sa prahīyate ‖
為欲對治於無我中計我顛倒。立**法念住**。由彼先來有有我見等諸煩惱故。無無我見等諸善法故。於諸蘊中生起我見。以於諸法住循法觀。
如實了知所計諸蘊自相共相。便於無我斷我顛倒。(p.441c17-22)

(639b*) 【VS 4.9 **成就**（Idan pa)】
rnam pa gnyis kyis sngar bstan pa'i chags pa la sogs pa sdig pa mi dge ba'i chos rnam pa du ma dang ldan pa ni dran pa nye bar gzhag pa bzhi bsgom pa'i skal ba med de | 366b-2
復次。如先所説。所有貪等。種種無量 惡不善法 由二因緣 若成就者不能修習。四種念住。

ldan pa gang yang thams cad du skal ba med pa ni ma yin非 no | 366b-3
非是一切。汎成就者。

gnyis gang zhe na | 366b-3
云何為二。

chags pa la sogs pa'i kun nas dkris pa yang yod pa dang | 366b-3
一。有貪等**纏**。現前故。

kun nas dkris pa de yang nyes dmigs su mi lta ba ste | 366b-4
二。於此纏。不見過故。

(Śbh II 184)
tatra sarāgaṃ cittaṃ yad rañjanīye vastuni **rāgaparyavasthitam** | vigatarāgaṃ yad rāgaparyavasthānāpagatam | sadveṣaṃ yad dveṣaṇīye vastuni **dveṣaparyavasthitam** | vigatadveṣaṃ yad dveṣaparyavasthānāpagatam | tatra saṃmohaṃ yan mohanīye vastuni mohaparyauasthitam | vigatamohaṃ yad mohaparyavasthānāpagatam |
又有貪心者 謂於可愛所緣境事**貪纏所纏**。離貪心者。謂即遠離如是貪纏。
有瞋心者。謂於可憎所緣境事**瞋纏所纏** 。離瞋心者。謂即遠離如是瞋纏。
有癡心者。謂於可愚所緣境事癡纏所纏。離癡心者謂即遠離如是癡纏。(p.440, c5-10)

(639b*) 【VS 4.9 **成就**（Idan pa)】
mngon sum du gyur pa na ni sems kun nas nyon mongs pa can du gyur pas bsgom pa'i skal ba med la bral bar gyur ba na, yang dang yang du dang du len pa'i tshul can yin pa dang | 366b-4
纏現在前。雜染心故。不能修習。雖暫遠離。性染著故。

mi lta bar mi byed pa'i phyir chags pa la sogs pa'i gnas kyi chos rnams la sems rnam par g-yeng bar 'gyur zhing 'phrog par 'gyur la rtog pas rnam par dkrug par 'gyur te | 366b-5
非無戀故。於能隨順貪等諸法。其心散動。常逐漂淪。種種尋思。恒隨擾亂。

de'i phyir yang bsgom pa'i skal ba med do | 366b-6
是故不能。修習念住。

de lta ma yin te | gal te gang la la dang du mi len pa'i tshul can yin du zin kyang skal ba med na ni de lta na su la yang dran pa nye bar gzhag pa bzhi bsgom pa'i skabs med par 'gyur ro | 366b-6
若不爾者。諸有其性。不深染著。皆應不能。修習念住。若如是者。無容有能。修四念住。